第30回 韓日・日韓經濟人會議

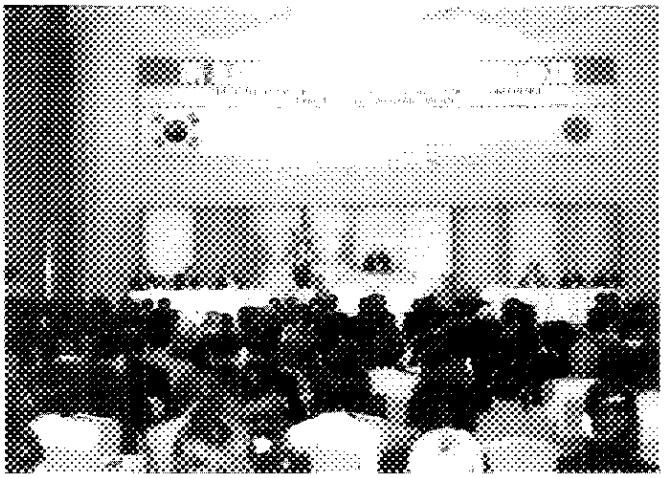
THE 30TH KOREA - JAPAN & JAPAN - KOREA
BUSINESS CONFERENCE

1998. 4. 16~18 MIYAZAKI, JAPAN

報 告 書

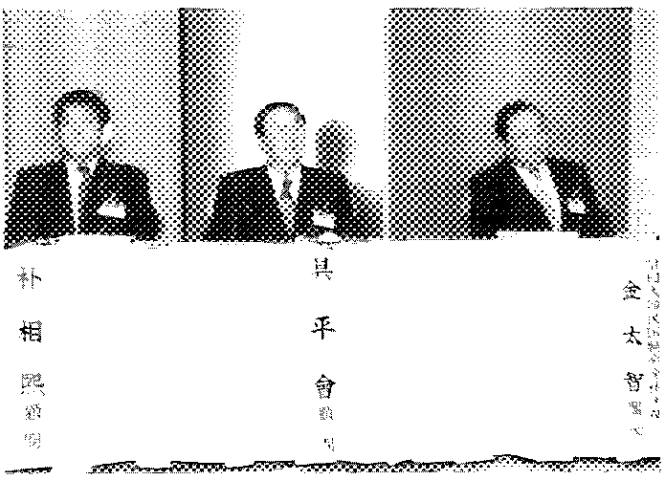
(社)韓日經濟協會

第30回 韓日 · 日韓經濟人 會議



開 會 式

開會人事하는 金相廈 韓國側 團長



韓國側 顧問團과 來賓

分科會 進行모습

환담을 나누고 있는 兩側 人士

會議를 마치고 記者會見하는 兩側 團長

目　　次

1. 共同聲明 …… 5

2. 日　　程 …… 9

3. 議　　題 …… 13

4. 兩側 代表團 名單 …… 15

5. 開會式 …… 31

(1) 團長人事

金　相　廈　韓國側 代表團 團長 …… 33

藤村　正哉　日本側 代表團 團長 …… 37

(2) 兩國頂上 메시지發表

金　太　智　駐日大韓民國特命全權大使 …… 41

登　誠一郎　內閣官房內閣外政審議室長 …… 44

(3) 來賓祝辭

金　太　智　駐日大韓民國特命全權大使 …… 46

松形　祐堯　宮崎縣 知事 …… 48

(4) 顧問人事

朴　相　熙　中小企業協同組合中央會 會長 …… 50

豊島　　格　日本貿易振興會 理事長 …… 52

6. 基調演說

(1)『東아시아의 經濟危機克服과 韓日兩國의 協力方案』
具 平 會 (社)韓國貿易協會 會長 …… 59

(2)『새로운 局面을 맞이한 日韓經濟關係와 그 緊密化를 위하여』
豊田章一郎 토요타自動車(株) 會長 …… 66

7. 全體會議 ①

(1) 一般經過報告 …… 75

(2) 各專門委員會 報告

① 韓日·日韓貿易投資委員會 …… 78

② 韓日·日韓機械工業委員會 …… 81

③ 韓日·日韓中堅·中小企業委員會 …… 83

④ 韓日·日韓産業一般委員會 …… 86

8. 第 1 分科會 (貿易關聯分野)

(1) 백그라운드 페이퍼 發表

① 『韓·日 貿易의 現況과 經濟協力 方向』
程 勳 對外經濟政策研究院 責任研究員 …… 91

② 『外換危機 以後의 아시아 貿易의 變化 韓國을 中心으로』
石川 幸一 日本貿易振興會 海外調査部 아시아大洋州課長 …… 99

(2) 自由討論

9. 第 2 分科會 (産業協力分野)

(1) 백그라운드 페이퍼 發表

① 『韓·日 産業協力의 展望과 課題』
柳 寬 榮 産業研究院 日本研究센터 所長 …… 149

② 『日韓産業의 글로벌化와 2國間 經濟關係의 變容
: IMF時代에 대한 示唆點』
深川由起子 青山學院大學 經濟學部 助教授 …… 160

(2) 自由討論 …… 176

10. 合同分科會 (交流增進分野, 其他)

(1) 主題發表

① 『韓國經濟의 現況과 展望』
楊 秀 吉 對外經濟政策研究院 院長 …… 197

② 『KITA의 國際技術協力에 대하여』
水野 勳 (財)北九州國際技術協力協會 理事長 …… 209

③ 『變化된 韓國의 外國人 投資環境』
吳 剛 鉉 大韓民國 産業資源部 貿易政策室長 …… 222

④ 『宮崎와 電氣化學工業』
弓倉 禮一 旭化成工業(株) 取締役相談役 …… 233

(2) 提案

① 『시스템 再點檢의 提案』
村上 弘芳 (社)日韓經濟協會 專務理事 …… 236

② 『韓日中堅經濟人交流促進團 誘致』
薛 元 鳳 大韓製糖(株) 會長 …… 240

③ 『韓國訪日輸出促進團・産業技術交流및션 派遣
및 對韓投資環境調査團 誘致』
申 德 鉉 (社)韓日經濟協會 專務理事 …… 243

④ 『青少年交流韓日大學生 相互訪問 (共同提案)』
福田 豊 (社)日韓經濟協會 常務理事 …… 247

11. 全體會議 ②

(1) 第 1 分科會 報告 …… 251

(2) 第 2 分科會 報告 …… 254

12. 閉會式

(1) 團長人事

金 相 廈 韓國側 代表團 團長 …… 261

藤村 正哉 日本側 代表團 團長 …… 263

共 同 聲 明

第30回 韓日・日韓經濟人會議는 1998年 4月 16日, 17日 兩日間 日本 宮崎市에서 韓國側으로부터는 金相廈 團長外 123名이, 日本側으로부터는 藤村正哉 團長外 115名과 現地代表 40名이 參席하여 開催되었다.

1. 全體會議에서는 一般經過報告 後 4個 專門委員會의 活動狀況에 대한 報告가 있었으며, 모두 異議없이 諒解되었다.

(1) 第24回 韓日・日韓貿易投資委員會 (1997年 9月 韓國, 서울)
(2) 第23回 韓日・日韓機械工業委員會 (1997年 5月 韓國, 서울)
(3) 第16回 韓日・日韓中堅中小企業委員會 (1998年 3月 韓國, 서울)
(4) 第 5回 韓日・日韓産業一般委員會 (1998年 4月, 報告書 發表)

2. 먼저 兩國 經濟人들의 基本的인 立場에 대하여, 아래 內容에 있어서 意見의 一致를 보았다.

90年代 初에 시작된 日本의 景氣沈滯는 더욱 심각해 지고 있다. 이를 本格的인 회복 궤도로 복귀시키는 것이, 日本뿐 아니라, 아시아 經濟에 대해서도 최대의 貢獻이 된다. 이를 위해, 日本은 金融改革을 중심으로한 構造改革을 추진하여, 將來에 대한 確信을 되찾지 않으면 안된다.

아시아의 通貨・金融危機는 韓國에도 어려운 試鍊을 가져왔다. IMF와의 合意에 따라, 韓國은 金大中 새 大統領 領導下에 擧國一致體制로 당면한 危機를 극복함과 아울러, 拔本的인 構造改革을 통하여 經濟의 活力을 회복하지 않으면 안된다. 經濟의 글로벌化 時代에 그 주역은 바로 企業이다. 自國의 經濟를 活性化시키고, 아시아와 世界에 대한 責任을 다하기 위하여 市場原理에 투철한 兩國 經濟人들의 의연한 行動力이 지금 무엇보다도 요구되고 있다.

3. 基調演說 및 貿易關聯, 産業協力, 交流增進 등 각 分科會에서의 意見發表 및 意見交換을 통해 現在의 危機狀況을 극복하고, 아시아 經濟의 재건을 先導하기 위하여, 兩國은 종전보다 더욱 긴밀한 協力關係를 유지해야 한다는 점을 확인하고, 다음 事項에 理解를 함께 하였다.

(1) 外國資本의 積極的이고도 長期的인 도입은 韓國經濟의 再建을 촉진시키는 가장 效果的인 手段 중의 하나이다. 世界에서 가장 投資하기 쉬운 매력적인 나라의 하나가 되기를 지향하는 韓國은, 이를 위해 최대한으로 環境을 정비하는 한편, 日本側은 그러한 努力을 평가하여 投資 促進에 努力하는 同時에 金融面에서도 韓國에 대한 支援이 必要하다.
5月 訪韓 豫定인, 日本의 官民合同投資環境調査團(團長 : 藤村正哉 日韓經濟協會 會長)은 새 政權 出帆後의 韓國 體制의 큰 진전을 확인하는 최초의 공식 밋션이며, 兩國 官民이 一體가 된 현재의 시기적 利點을 활용하여, 최대한의 成果를 올리는 것이 期待되고 있다.

(2) 基盤産業(Supporting Industry) 育成과 技術開發力 强化는, 對日貿易不均衡問題의 개선뿐만 아니라, 韓國의 産業構造 高度化와 競爭力 확보를 위한 가장 중요한 長期的 課題이다. 兩國 기업차원에서의 戰略的 提携關係가 글로벌經濟의 네트워크와 經濟論理의 궤도위에서 다양화하면서 진전되고 있으며, 技術開發力 강화를 위한 韓國企業의 노력을 보완할 수 있는 큰 效果가 기대되고 있다. 또한, 兩國 産業技術協力財團의 5년간의 활동은 1,500名, 100個社에 달하는 技術人材育成事業의 실적을 보이고 있으므로, 점차 그 成果가 나타나는 時期에 이르렀다.

(3) 日本市場에 대한 Access 改善을 포함한 日本의 輸入擴大 努力, 아시아 각국을 통한 貿易과 投資 自由化를 추진해야 한다는 점, 아시아 지역에 金融協力機構를 개설하는 구상, 나아가서는 東北아시아의 韓·中·日 3개국 協力體制를 環黃海經濟圈이라는 형태로 구축하는 구상등 활발한 提案들이 나왔으며, 적극적인 지지를 받았다.

(4) 30年間에 걸친「韓日·日韓民間合同經濟委員會 會議」의 축적은 兩國의 經濟發展을 담당해 온 많은 사람들의 솔직한 意見과 理解, 적극적인 協力

과 行動의 歷史이다. 우리는 하나의 단락을 짓는 이 해가 兩國이 동시에 경험하는 고된 시련의 해가 되었다는 점을 깊이 가슴에 새겨, 그 傳統을 이어받아, 글로벌化 時代에 걸맞는 韓日經濟關係를 상징하는 「韓日·日韓經濟人會議」의 보다 開放的이고 활달한 雰圍氣가 넘치는 새로운 傳統을 만들어 나가고자 한다.

4. 各分科會에서의 提案 등에 관해 別添事項에 合意하였다.

5. 다음 會議는 來年 韓國에서 開催한다.

1998年 4月 17日

韓國側 代表團 團長 金 相 廈

日本側 代表團 團長 藤村正哉

〈別 添〉

合 意 事 項

(1) 今年 3차례에 걸친 「訪日輸出促進團」 派遣과 그 受容에 協力하는 件

(2) 兩國의 産業技術協力財團 事業에 대해 協力하는 件

(3) 兩國間 産業技術協力增進을 위해 韓日·日韓 兩經濟協會에 의한 技術提携斡旋事業을 推進하는 件

(4) 「日韓中堅經濟人交流促進團」의 韓國 派遣과 그 受容에 協力하는 件

(5) 「靑少年交流事業」으로서 韓日 兩國의 大學生을 相互 派遣하고, 그 受容에 協力하는 件

(6) 經濟人會議가 總括하는 專門委員會와 交流事業, 其他 運營方法 等에 대하여 時代의 要請에 따라 이를 再點檢하여, 改革 改善하는 方案을 作成하는 件

(7) 其他 各種 協力·交流事業을 韓日·日韓 兩經濟協會 合意下에 推進하는 件

以 上

日　　程

4月 16日 (木)

16 : 00 - 16 : 50　開會式 ---------- 4F Summit Hall 樹葉(Juyo)

(1) 開會

(2) 兩側 團長人事

韓國側 : 金　相　廈　團長

日本側 : 藤村　正哉　團長

(3) 兩國頂上 MESSAGE發表

韓國側 : 金　太　智　駐日大韓民國特命全權大使

日本側 : 登　誠一郎　內閣官房內閣外政審議室長

(4) 來賓祝辭

韓國側 : 金　太　智　駐日大韓民國特命全權大使

日本側 : 松形　祐堯　宮崎縣 知事

(5) 顧問人事

韓國側 : 朴　相　熙　中小企業協同組合中央會 會長

日本側 : 豊島　　格　日本貿易振興會 理事長

(6) 議長選出

(7) 議題採擇 : 藤村　正哉　團長

16 : 50 - 17 : 10　COFFEE BREAK

17 : 10 - 18 : 10　兩側 基調演說

韓國側 : 具　平　會　(社)韓國貿易協會 會長

「東아시아의 經濟危機克服과 韓日兩國의 協力方案」

日本側 : 豊田章一郎　토요타自動車(株) 會長

「새로운 局面을 맞이한 日韓經濟關係와 그 緊密化를 위하여」

18 : 10 - 18 : 45　　全體會議 ①

(1) 一般經過報告

(2) 各專門委員會 報告

1) 韓日貿易投資委員會

2) 韓日機械工業委員會

3) 韓日中堅中小企業委員會

4) 韓日産業一般委員會

19 : 00 - 20 : 30　　歡迎 RECEPTION ---------- 4F Summit Hall 天瑞(Tenzui)

4月 17日 (金)

09 : 00 - 12 : 00　　各分科會別 會議

- 第1分科會(貿易關聯分野) -- 4F Summit Hall 蘭玉(Rangyoku)

코디네이터 韓國側 : 李 吉 鉉 (株)HOTEL新羅 社長

日本側 : 麻生 泰 麻生시멘트(株) 社長

- 第2分科會(産業協力分野) -- 4F Summit Hall 樹葉(Juyo)

코디네이터 韓國側 : 金 圭 七 産業技術情報院 院長

日本側 : 大慈彌省三 石川島播磨重工業(株) 副社長

《分科會別 細部日程》

09 : 00 - 09 : 10	日本側 코디네이터 說明
09 : 10 - 09 : 15	韓國側 코디네이터 補充코멘트
09 : 15 - 09 : 35	日本側 백그라운드 페이퍼 發表
09 : 35 - 09 : 55	韓國側 백그라운드 페이퍼 發表
09 : 55 - 10 : 00	코디네이터 코멘트
10 : 00 - 10 : 20	COFFEE BREAK
10 : 20 - 11 : 50	自由討論 (Floor로부터의 發言)
11 : 50 - 12 : 00	兩側 코디네이터 總括

12 : 00 - 14 : 00　　午餐會

- 顧問 · 團長團 · 各專門委員會 委員長 (共同聲明案 審議)

---------- 4F Marble Room

- 團　員 ---------- 4F Summit Hall 天瑞(Tenzui)

14 : 00 - 15 : 55　　合同分科會(交流增進分野,其他) --- 4F Summit Hall 樹葉(Juyo)

共同議長 韓國側 : 金　在　哲　副團長

日本側 : 渡里杉一郎　副團長

《合同分科會 細部日程》

14 : 00 - 14 : 05	兩側共同議長 人事
14 : 05 - 14 : 30	日本側 主題發表①
14 : 30 - 14 : 50	韓國側 主題發表①
14 : 50 - 14 : 55	日本側 主題發表②
14 : 55 - 15 : 15	韓國側 主題發表②
15 : 15 - 15 : 25	質疑應答
15 : 25 - 15 : 55	提案 및 議長總括

15 : 55 - 16 : 15　　全體會議 ② (分科會 報告) ------ 4F Summit Hall 樹葉(Juyo)

16 : 15 - 16 : 30　　COFFEE BREAK (共同聲明 配布)

16 : 30 - 17 : 00　　閉會式 ---------- 4F Summit Hall 樹葉(Juyo)

(1) 共同聲明 採擇

(2) 兩側 團長人事

(3) 閉會

17 : 25 - 17 : 55　　共同記者會見 (兩側團長) ---------- 4F Marble Room

18 : 30 - 20 : 00　　RECEPTION (兩國經濟協會 共同主催)

--------- 4F Summit Hall 天瑞(Tenzui)

4月 18日 (土)　　* OPTION PROGRAM

(Ⅰ) 特別行事 (휘닉스컨트리클럽)

07 : 30 - 15 : 30　　特別行事

15 : 30 - 16 : 00　　行事場 - 宮崎空港 (BUS)

17 : 30 - 19 : 00　　宮崎空港 - 金浦空港 (OZ 1395)

(Ⅱ) 觀光 (關の尾瀧, 高千穗牧場, 霧島溫泉, えびの高原, 生駒高原)

08 : 30 - 10 : 00　　HOTEL -「關の尾瀧」(BUS)

10 : 00 - 10 : 30　　「關の尾瀧(세키노오 폭포)」見學

10 : 30 - 11 : 10　　「關の尾瀧」-「高千穗牧場」(BUS)

11 : 10 - 11 : 50　　「高千穗(다카치호)牧場」韓國岳(가라쿠니 언덕) 眺望

11 : 50 - 12 : 20　　「高千穗牧場」-「霧島溫泉」(BUS)

12 : 20 - 13 : 45　　「霧島(기리시마)溫泉」(中食・入浴)

13 : 45 - 14 : 30　　「霧島溫泉」-「えびの(에비노)高原」-「生駒高原」(BUS)

14 : 30 - 15 : 00　　「生駒(이코마)高原」散策・休息

15 : 00 - 16 : 10　　「生駒高原」- 宮崎空港 (BUS)

17 : 30 - 19 : 00　　宮崎空港 - 金浦空港 (OZ 1395)

議　　題

1. 第 1 分科會 (貿易關聯分野)

韓國側 : 『韓 · 日 貿易의 現況과 經濟協力 方向』
程　　勳　對外經濟政策硏究院 責任硏究員

日本側 : 『外換危機 以後의 아시아 貿易의 變化 … 韓國을 中心으로』
石川　幸一　日本貿易振興會 海外調査部 아시아大洋州課長

2. 第 2 分科會 (産業協力分野)

韓國側 : 『韓 · 日 産業協力의 展望과 課題』
柳　寬　榮　産業硏究院 日本硏究센터 所長

日本側 : 『日韓産業의 글로벌化와 2國間 經濟關係의 變容
: IMF時代에 대한 示唆點』
深川由起子　靑山學院大學 經濟學部 助敎授

3. 合同分科會 (交流增進分野, 其他)

韓國側 : 『韓國經濟의 現況과 展望』
楊　秀　吉　對外經濟政策硏究院 院長

『變化된 韓國의 外國人 投資環境』
吳　剛　鉉　大韓民國 産業資源部 貿易政策室長

日本側：『KITA의 國際技術協力에 대하여』

水野　　勳　(財)北九州國際技術協力協會 理事長

『宮崎와 電氣化學工業』

弓倉　禮一　旭化成工業(株) 取締役相談役

〈 提　案 〉

(1) 「시스템 再點檢의 提案」

村上　弘芳　(社)日韓經濟協會 專務理事

(2) 「韓日中堅經濟人交流促進團 誘致」

薛　元　鳳　大韓製糖(株) 會長

(3) 「韓國訪日輸出促進團・産業技術交流및선 派遣 및 對韓投資環境調査團 誘致」

申　德　鉉　(社)韓日經濟協會 專務理事

(4) 「青少年交流韓日大學生 相互訪問 (共同提案)」

福田　　豊　(社)日韓經濟協會 常務理事

韓國側 代表團 名單

順：職 責 順

	姓	名		團體會社職位	團 體 / 會 社 名
顧 問	具 KOO	平 PYONG	會 HWOI	顧 問 會 長	(社)韓日經濟協會 (社)韓國貿易協會
〃	朴 PARK	相 SANG	熙 HEE	顧 問 會 長	(社)韓日經濟協會 中小企業協同組合中央會
團 長	金 KIM	相 SANG	廈 HA	會 長 會 長	(社)韓日經濟協會 大韓商工會議所
副團長	金 KIM	在 JAE	哲 CHUL	副會長 會 長	(社)韓日經濟協會 東遠GROUP
〃	羅 RA	應 EUNG	燦 CHAN	副會長 銀行長	(社)韓日經濟協會 新韓銀行
〃	朴 PARK	世 SEI	英 YOUNG	副會長 會 長	(社)韓日經濟協會 韓國PENTLAND(株)
〃	薛 SULL	元 WON	鳳 BONG	副會長 會 長	(社)韓日經濟協會 大韓製糖(株)
〃	梁 YANG	在 JAE	奉 BONG	副會長 會 長	(社)韓日經濟協會 大信GROUP
〃	劉 YOO	常 SANG	夫 BOO	副會長 會 長	(社)韓日經濟協會 浦項綜合製鐵(株)
〃	李 RHEE	奭 SUK	熙 HI	副會長 相談役	(社)韓日經濟協會 (株)大宇
〃	趙 CHO	錫 SUCK	來 RAI	副會長 會 長	(社)韓日經濟協會 曉星GROUP

	姓	名		團體會社職位	團體/會社名
副團長	崔 CHOI	用 YONG	權 KWON	副會長 會長	(社)韓日經濟協會 三煥企業(株)
特別參加	姜 KANG	晋 JIN	求 KU	會長	三星電機(株)
〃	朴 PARK	弼 PIL	秀 SOO	敎授	韓國外國語大學校
〃	李 LEE	春 CHUN	林 LIM	常任顧問	現代GROUP
團員	金 KIM	德 DUK	吉 KIL	會長	大永産業開發(株)
〃	朴 PARK	基 KI	錫 SUK	相談役	三星物産(株) 建設部門
〃	朴 PARK	承 SEUNG	復 BOK	會長	샘표食品工業(株)
〃	朴 PARK	容 YONG	晟 SUNG	會長	OB麥酒(株)
〃	朴 PARK	有 YOU	光 KWANG	會長	韓國生産性本部
〃	柳 RYOO	熙 HIE	潤 YOON	會長 理事長	中央製紙(株) 韓國製紙工業協同組合
〃	尹 YOON	炳 BYUNG	哲 CHUL	會長	(株)하나銀行
〃	李 LEE	東 DONG	勳 HOON	前次官	商工資源部
〃	李 LEE	丙 BYUNG	吉 GIL	會長	(社)大韓石炭協會

	姓 名	團體會社職位	團 體 / 會 社 名
團 員	李 鍾 悅 LEE CHONG YUL	會 長	三鼎鋼業(株)
〃	林 都 洙 LIM DO SOO	會 長	安山商工會議所
〃	鄭 圭 寅 JHUNG KYU IN	會 長	京畿北部商工會議所
〃	車 相 弼 CHA SANG PIL	前 會 長	韓國生産性本部
〃	韓 相 旭 HAN SANG WOOK	會 長	華城商工會議所
〃	韓 昌 燮 HAN CHANG SUP	會 長	安城商工會議所
〃	洪 世 杓 HONG SE PYO	銀 行 長	韓國外換銀行
〃	蔣 慶 煥 CHANG KYUNG HWAN	顧 問	高麗製鋼GROUP
〃	金 淳 KIM SOON	常 勤 副 會 長	韓國機械工業振興會
〃	金 熙 勇 KIM HI YONG	副 會 長	碧山GROUP
〃	朴 源 弘 PARK WON HONG	副 會 長	(株)서울移動通信
〃	孫 炳 斗 SOHN BYUNG DOO	常 勤 副 會 長	全國經濟人聯合會
〃	李 平 宇 LEE PYOUNG WOU	副 會 長	世亞GROUP

	姓	名		團體會社職位	團體/會社名
團員	金 KIM	光 KWANG	泰 TAE	社長	SAEHAN ACHEM
〃	金 KIM		正 JUNG	社長	HANWHA JAPAN CO., LTD.
〃	金 KIM	圭 KYU	七 CHIL	院長	産業技術情報院
〃	辛 SHIN	永 YOUNG	茂 MOO	代表 辯護士	法務法人 世宗
〃	安 AHN	宗 CHONG	原 WON	社長	(株)雙龍
〃	楊 YOUNG	秀 SOO	吉 GIL	院長	對外經濟政策研究院
〃	龍 YONG	乙 EARL	植 SHIK	代表理事	南德物産(株)
〃	李 LEE	吉 KIL	鉉 HYUN	社長	(株)HOTEL新羅
〃	張 JANG	學 HAK	世 SE	社長	大韓海運(株)
〃	秋 CHOO	浩 HO	錫 SUK	社長	大宇重工業(株)
〃	黃 HWANG	漢 HAN	成 SUNG	代表理事	(株)京龍機械
〃	金 KIM	大 DAE	廈 HA	社長	HAITAI JAPAN(株)
〃	金 KIM,	弼 PIL	中 JOONG	社長	太平洋JAPAN(株)

	姓	名		團體會社職位	團體/會社名
團員	崔 CHOI	秉 BYUNG	一 IL	代表取締役	現代JAPAN(株)
〃	洪 HONG	健 KEON	裕 YU	社長	東部JAPAN(株)
〃	金 KIM	善 SUN	祐 WOO	專務理事	釜山每日新聞
〃	申 SHIN	德 DUCK	鉉 HYUN	專務理事	(社)韓日經濟協會
〃	黃 HWANG	光 KWANG	成 SUNG	專務理事	(株)京龍機械
〃	裵 BAE	鳳 BONG	吉 KIL	常務理事	西海鑄工(株)
〃	朴 PARK	良 YANG	基 KEE	理事	(社)韓國貿易協會
〃	金 KIM	都 DO	亨 HYUNG	招聘教授	一橋大學
〃	金 KIM	敦 DON	軾 SIK	理事	韓國電子工業協同組合
〃	申 SHIN	吉 GIL	鴻 HONG	所長	中小企業振興公團 東京事務所
〃	李 LEE	炯 HYUNG	晩 MAN	事務局長	國際産業協力財團
〃	李 LEE	潤 YOUN	鎬 HO	代表	亞太企業諮問(株)
〃	洪 HONG	潤 YOON	植 SHIK	前教授	韓國外國語大學校 通譯大學院

	姓名	團體會社職位	團體/會社名
團員	朴 鍾 萬 PARK CHONG MAN	支部長	(社)韓國貿易協會 東京支部
〃	柳 寬 榮 RHYU KWAN YEONG	所長	産業研究院 日本研究CENTER
〃	程 勳 CHUNG HOON	責任研究員	對外經濟政策研究院
〃	申 榮 敏 SHIN YOUNG MIN	事務局長	(社)韓日經濟協會
〃	許 南 整 HUH NAM JUNG	事務局長	(財)韓日産業・技術協力財團
〃	崔 光 雄 CHOI KWANG WOONG	副社長	(株)京春旅行社
隨行員	金 成 白 KIM SEUNG BAK	理事	曉星GROUP
〃	金 章 漢 KIM JANG HAN	秘書室長	(社)韓國貿易協會
〃	李 伯 淳 LEE BAEK SOON	秘書室長	新韓銀行
〃	佐原 承武 SAWARA SHOBU	理事	大韓製糖(株) 東京支店
〃	有馬 貴司 ARIMA TAKASHI	理事	大永産業開發(株)
〃	姜 錫 文 KANG SUK MOON	支店長	新韓銀行 福岡支店
〃	韓 永 均 HAN YOUNG KYUN	支店長	大信證券 東京支店

	姓	名		團體會社職位	團體/會社名
隨行員	金 KIM	海 HAE	坤 GON	所長	韓國機械工業振興會 東京事務所
〃	辛 SIN	祥 SANG	根 KEUN	所長	東遠證券 東京事務所
〃	林 LIM	鎬 HO	均 KYUN	部長	全國經濟人聯合會
〃	朴 PARK	鍾 JONG	甲 KAB	課長	大韓商工會議所
〃	許 HUH	宰 JEA	豪 HO	課長	三星電機(株)
〃	朴 PARK	勇 YONG	男 NAM	代理	浦項綜合製鐵(株)
〃	申 SHIN	亥 HAE	鎭 JIN	職員	大韓商工會議所
事務局	柳 RYU	奉 BONG	雨 WOO	企劃部長	(社)韓日經濟協會
〃	金 KIM	汝 YEO	種 JONG	事業部長	(財)韓日産業・技術協力財團
〃	宋 SONG	成 SUNG	基 GI	企劃部長	(財)韓日産業・技術協力財團
〃	趙 CHO	德 DUCK	卯 MYO	總務次長	(社)韓日經濟協會
〃	金 KIM	正 JUNG	鎬 HO	企劃課長	(社)韓日經濟協會
〃	尹 YOON	孝 HYO	淑 SOOK	總務課長	(社)韓日經濟協會

	姓	名		團體會社職位	團體/會社名
事務局	朴 PARK	賢 HYUN	燦 CHAN	總務課長	(社)韓日經濟協會
〃	劉 YOO	崇 SUNG	勳 HUN	總務代理	(財)韓日産業・技術協力財團
〃	沈 SHIM	揆 KYU	榛 JIN	企劃代理	(社)韓日經濟協會
〃	裵 BAE	廷 JUNG	仁 IN	總務部員	(社)韓日經濟協會

日本側 代表團 名單

敬稱省略・順不同

顧　問	豊　田 TOYODA	章一郎 SHOICHIRO	㈳日韓経済協会顧問 ㈳経済団体連合会会長 トヨタ自動車㈱会長
顧　問	豊　島 TOYOSHIMA	格 TORU	㈳日韓経済協会顧問 日本貿易振興会理事長
団　長	藤　村 FUJIMURA	正　哉 MASAYA	㈳日韓経済協会会長 三菱マテリアル㈱取締役会長
副団長	梅　村 UMEMURA	正　司 SHOJI	㈳日韓経済協会副会長 日興證券㈱顧問
副団長	米　倉 YONEKURA	功 ISAO	㈳日韓経済協会副会長 伊藤忠商事㈱相談役
副団長	渡　里 WATARI	杉一郎 SUGIICHIRO	㈳日韓経済協会副会長 日韓産業一般委員会委員長 ㈱東芝相談役
相談役	三　村 MIMURA	庸　平 YOHEI	㈳日韓経済協会相談役 三菱商事㈱相談役
参　与	梅　田 UMEDA	善　司 ZENJI	㈳日韓経済協会参与 川崎重工業㈱相談役

団　員	李　熙　健 LEE　HEUI　KEON	信用組合関西興銀会長
団　員	秋　田　兼　三 AKITA　KENZO	㈱第一ホテル取締役会長
団　員	寄　木　正　敏 YORIKI　MASATOSHI	月島機械㈱相談役
団　員	草　道　昌　武 KUSAMICHI　MASATAKE	日商岩井㈱取締役社長
団　員	弓　倉　礼　一 YUMIKURA　REIICHI	旭化成工業㈱取締役相談役
団　員	秋　山　富　一 AKIYAMA　TOMIICHI	住友商事㈱相談役
団　員	三　好　正　也 MIYOSHI　MASAYA	㈳経済団体連合会参与
団　員	内　田　公　三 UCHIDA　KOZO	㈳経済団体連合会事務総長
団　員	藤　原　勝　博 FUJIWARA　KATSUHIRO	㈳経済団体連合会常務理事
団　員	上　林　孝　典 KAMBAYASHI　TAKASUKE	タキロン㈱取締役相談役
団　員	田　中　宏　明 TANAKA　HIROAKI	第一企画㈱取締役相談役
団　員	麻　生　泰 ASO　YUTAKA	麻生セメント㈱代表取締役社長
団　員	島　田　敏　生 SHIMADA　TOSHIO	伊藤忠倉庫㈱取締役社長

団　員	佐　藤　棟　良 SATO　MUNEYOSHI	シーガイアグループ代表取締役社長	
団　員	海老原　政　徳 EBIHARA　MASANORI	シーガイアグループ代表取締役副社長	
団　員	大慈彌　省　三 OJIMI　SHOZO	日韓機械工業委員会委員長 石川島播磨重工業㈱代表取締役副社長	
団　員	吉　井　毅 YOSHII　TAKESHI	新日本製鐵㈱代表取締役副社長	
団　員	吉　田　清　治 YOSHIDA　SEIJI	㈳九州・山口経済連合会副会長専務理事	
団　員	長　友　泰　明 NAGATOMO　YASUAKI	㈳九州・山口経済連合会常務理事	
団　員	米　川　滋 YONEKAWA　SHIGERU	旭化成工業㈱専務取締役延岡支社長	
団　員	小　島　幹　生 KOJIMA　MIKIO	日韓貿易投資委員会委員長 ㈳日本貿易会専務理事	
団　員	飯　田　邦　彦 IIDA　KUNIHIKO	丸紅㈱専務取締役	
団　員	半　林　亨 HAMBAYASHI　TORU	ニチメン㈱代表取締役専務	
団　員	塩　見　健　三 SHIOMI　KENZO	川崎重工業㈱常務取締役	
団　員	新　井　省　三 ARAI　SHOZO	川鉄商事㈱常務取締役東アジア支配人	
団　員	清　水　紘一郎 SHIMIZU　KOICHIRO	㈱ホテルオークラ常務取締役・ 副総支配人	

団　員	木　村　伸　一 KIMURA　SHINICHI	三井物産㈱取締役ソウル支店長
団　員	松　本　重　敏 MATSUMOTO　SHIGETOSHI	㈳日本貿易会国際部長
団　員	坂　本　和　一 SAKAMOTO　KAZUICHI	立命館大学副総長
団　員	森　栄 MORI　SAKAE	三菱マテリアル㈱九州支社長
団　員	稲　垣　宏　一 INAGAKI　KOICHI	㈱東芝総合企画部参与
団　員	竹　元　源　信 TAKEMOTO　MOTONOBU	トヨタ自動車㈱海外営業３部部長
団　員	森　島　進 MORISHIMA　SUSUMU	月島機械㈱理事/ 部長/ 海外事業部
団　員	登　石　成　二 TOISHI　SEIJI	三菱商事㈱参与産業機械本部付
団　員	百　瀬　格 MOMOSE　TADASHI	㈱韓国トーメン会長
団　員	中　村　喜　起 NAKAMURA　YOSHIOKI	三菱商事㈱ソウル支店長
団　員	河　本　定　雄 KAWAMOTO　SADAO	伊藤忠商事㈱ソウル支店長
団　員	岡　崎　誠之助 OKAZAKI　SEINOSUKE	丸紅韓国会社社長
団　員	達　山　宜　弘 TATSUYAMA　YOSHIHIRO	兼松㈱ソウル支店長

団　員	塚　原　弘　造 TSUKAHARA　KOZO	日商岩井㈱ソウル支店長
団　員	多米田　裕　行 TAMEDA　HIROYUKI	㈱第一勧業銀行ソウル支店長
団　員	枝　廣　泰　俊 EDAHIRO　YASUTAKA	㈱東京三菱銀行韓国総支配人 兼ソウル支店長
団　員	金　容　泰 KIM　YONG　TAI	㈱東京三菱銀行韓国地区顧問
団　員	脇　屋　勉 WAKIYA　TSUTOMU	㈱日本長期信用銀行ソウル支店長
団　員	斎　藤　和　仁 SAITOH　KAZUHITO	三菱自動車工業㈱第3海外事業本部 アジア部韓国ロシアグループ主任
団　員	石　原　増　男 ISHIHARA　MASUO	㈶日韓産業技術協力財団専務理事
団　員	成　田　洋　助 NARITA　YOSUKE	㈶日韓産業技術協力財団常務理事・ 事務局長
団　員	西　村　和　義 NISHIMURA　KAZUYOSHI	㈶日韓産業技術協力財団理事・総務部長
団　員	村　上　弘　芳 MURAKAMI　HIROYOSHI	㈳日韓経済協会専務理事
団　員	福　田　豊 FUKUDA　YUTAKA	㈳日韓経済協会常務理事・事務局長
団　員	並　木　友 NAMIKI　YU	㈳日韓経済協会常務理事
特別参加	水　野　勲 MIZUNO　ISAO	㈶北九州国際技術協力協会理事長

特別参加	菅野 KANNO	利徳 TOSHINORI	日韓中堅・中小企業委員会委員長 全国中小企業団体中央会専務理事
特別参加	石川 ISHIKAWA	幸一 KOICHI	日本貿易振興会海外調査部 アジア大洋州課長
特別参加	深川 FUKAGAWA	由起子 YUKIKO	青山学院大学経済学部助教授

（企業名五十音順）

随員	高浜 TAKAHAMA	直敞 NAOHISA	旭化成工業㈱常務理事
随員	朝来野 ASAKINO	泰宏 YASUHIRO	石川島播磨重工業㈱取締役国際本部長
随員	日笠 HIGASA	泰治 TAIJI	石川島播磨重工業㈱嘱託・国際本部
随員	木下 KINOSHITA	英夫 HIDEO	石川島播磨重工業㈱ソウル事務所長
随員	後藤 GOTO	次幹 TSUGIMOTO	伊藤忠商事㈱海外市場開発部 アジア・中国・大洋州室
随員	藤井 FUJII	増夫 MASUO	川崎重工業㈱海外営業総括室参与
随員	本多 HONDA	眞幸 MASAYUKI	川崎重工業㈱秘書室係長
随員	辻井 TSUJII	重信 SHIGENOBU	川鉄商事㈱ソウル支店長
随員	山田 YAMADA	陽一 YOICHI	㈳九州・山口経済連合会国際部長
随員	青山 AOYAMA	周 MEGURI	㈳経済団体連合会国際本部アジア 大洋州グループ副グループ長

随　員	藤　田　　徹 FUJITA　TORU	住友商事㈱対外企画部部長代理
随　員	木　許　英太郎 KIMOTO　EITARO	シーガイアグループ営業推進本部 取締役副本部長
随　員	横　溝　康　臣 YOKOMIZO　YASUOMI	㈱第一ホテル秘書室長
随　員	藤　島　寛　仁 FUJISHIMA　KANJI	月島機械㈱海外事業部企画グループ 課長
随　員	蟹　江　宣　雄 KANIE　NORIO	トヨタ自動車㈱東京秘書部部長
随　員	浅　見　俊　之 ASAMI　TOSHIYUKI	トヨタ自動車㈱海外営業３部 第３企画グループ課長
随　員	蔡　暢　源 CHAE　CHANG　WON	日興證券㈱海外業務部課長
随　員	町　田　克　己 MACHIDA　KATSUMI	日本貿易振興会貿易開発部 協力事業課長
随　員	松　本　　匡 MATSUMOTO　TAKASHI	丸紅㈱業務部アジア大洋州グループ長
随　員	奥　田　佳　樹 OKUDA　YOSHIKI	三井物産㈱業務部課長代理
随　員	下　出　道　雄 SHIMODE　MICHIO	三菱商事㈱業務部参事
随　員	青　盛　　規 AOMORI　TADASU	三菱マテリアル㈱秘書室長
随　員	松　本　好　男 MATSUMOTO　YOSHIO	三菱マテリアル㈱総務部副部長

随　員	久　保 KUBO	正　晴 MASAHARU	三菱マテリアル㈱社長室企画調査部 副部長
随　員	早乙女 SAOTOME	雅　子 MASAKO	三菱マテリアル㈱秘書室秘書
随　員	森　川 MORIKAWA	彰 AKIRA	立命館大学理事長室部長
随　員	及　川 OIKAWA	勝 MASARU	全国中小企業団体中央会国際部副参事
事務局	安　藤 ANDO	悠 YU	㈳日韓経済協会業務部部長
事務局	中　川 NAKAGAWA	修　一 SYUICHI	㈳日韓経済協会業務部部長
事務局	保　坂 HOSAKA	昭　寿 AKITOSHI	㈳日韓経済協会調査部主任調査役
事務局	佐　藤 SATO	芳　孝 YOSHITAKA	㈳日韓経済協会調査部主任調査役
事務局	河　合 KAWAI	登 NOBORU	㈳日韓経済協会調査部調査役
事務局	吉　倉 YOSHIKURA	和　幸 KAZUYUKI	㈳日韓経済協会調査部調査役
事務局	吉　野 YOSHINO	建　夫 TATEO	㈳日韓経済協会総務部長
事務局	伊　藤 ITO	美千代 MICHIYO	㈳日韓経済協会総務部員

開　會　式

〈開會式〉

團 長 人 事

韓國側 代表團
團 長 金 相 廈

尊敬하는 藤村正哉 日本側 團長님, 松形祐堯 宮崎縣 知事님, 金太智 駐日 韓國大使님, 그리고 公私多忙하신 가운데에도 第30回 韓日·日韓經濟人會議를 祝賀하여 주시기 위해 이 자리에 枉臨하신 兩國 代表團 여러분!

방금 司會者로부터 紹介가 있었습니다만, 저는 約 두달 전에 韓日經濟協會 會長의 重責을 맡게 된 金相廈입니다.

여러모로 不足한 점이 많은 사람입니다만, 앞으로 여러분의 協調를 얻어 微力하나마 全心全力 所任을 完遂코자 하오니 많은 指導鞭撻을 付託드립니다.

尊敬하는 兩國 代表團 여러분과 來賓 여러분.

여러분께서도 잘 아시다시피, 本會議는 韓日·日韓民間合同經濟委員會라는 이름으로 1969年 서울에서 開催된 것을 始初로 오늘에 이르고 있으며, 그간 단 한번도 거르지 않고 持續되어 왔다는 자랑스러운 歷史를 지니고 있습니다.

그 동안 우리는 이 會議를 통해, 相互理解의 增進과 協力方案을 모색하고 實踐하는데 많은 노력을 기울여 왔으며, 그 결과 韓日兩國의 經濟協力은 실로 刮目

할 만한 成果를 거두어 왔습니다. 그리고 이번 第30回 會議부터는 그 名稱을 韓日·日韓經濟人會議로 바꾸어 名實共히 進一步한 體制를 갖추기에 이르렀습니다.

이는 오로지 本會議가 발족된 이래 獻身的인 努力을 기울여 오신 兩側의 歷代 會長님들을 비롯한 會員 여러분의 德分으로, 이 자리를 빌어 심심한 感謝와 敬意를 표하는 바입니다.

아울러, 이처럼 뜻깊은 자리에 韓日經濟協會 會長으로 參席하게 된 점 無限한 榮光으로 생각합니다. 그러면서도 한편으로는 淺學菲才한 제가 果然 先代 會長님들께서 이룩하여 놓으신 큰 業績에 累를 끼치지 않고, 주어진 任務를 完遂할 수 있을까 하는 걱정이 앞섭니다.

그러나 豊田章一郎 經濟團體連合會 會長님을 비롯한 日本財界의 元老 여러분과 카운터파트인 藤村正哉 會長님을 비롯한 日本經濟界의 重鎭여러분, 그리고 韓國側의 先輩同僚 여러분의 指導를 얻어 所任完遂에 渾身의 힘을 기울일 覺悟임을 이 자리에서 밝히는 바입니다.

尊敬하는 兩國代表團 여러분.

周知하시는 바와 같이, 바로 엊그제까지만 해도 우리 아시아는 21世紀에 世界經濟發展의 中心이 될 것이라는 囑望을 받아 왔습니다. 그러던 것이, 작년 下半期 이후 各國의 通貨價値 急落과 外換의 流動性 不足에 따른 金融危機로 말미암아 甚한 몸살을 앓고 있습니다. 이같이 어려운 狀況은 韓國은 물론, 世界의 經濟大國 日本에도 그 影響을 미치리라 생각됩니다.

저는 이와같은 모든 難關을 극복하고, 새로운 經濟發展을 도모하는 길은 오직 韓日經濟協力의 强化뿐이라고 굳게 믿고 있습니다. 韓日兩國의 견고한 結束과 協調는 비단 우리 두나라를 위해서 뿐만 아니라, 아시아·태평양 域內 모든 나라들은 물론이려니와 나아가서는 世界 全人類의 發展과 繁榮에 이바지하는 길로 直結된다고 보기 때문입니다.

兩國 代表團 여러분.

韓日兩國의 關係는 옛부터 『一衣帶水』니 『共同運命體』니 하는 말로 表現되어 왔습니다. 그것은 서로 이웃하고 있다는 地政學的인 事實만이 아니라, 歷史的인 유대관계를 강조한 合當한 表現이라고 생각합니다.

지금은 故人이 되신 日本의 福田赳夫 先生께서 한때 韓日關係가 圓滿하지 못했던 時節, 다음과 같은 말씀으로 兩國國民들의 警覺心을 일깨우신 일이 있었습니다. 當時 저로서는 큰 感銘을 받았었기에 暫時 그 要旨를 紹介하고자 합니다.

『이웃과의 사이가 나빠 견디기 어려울 程度로 惡化되면 어느 한쪽이 먼 곳으로 移徙를 가버리면 그만이다. 그러나 나라의 境遇는 이웃이 싫다고 딴 곳으로 옮겨 갈 수는 없지 않은가. 그렇다면 서로 相對方을 理解하도록 努力하고 서로 協力해서 사이 좋게 지낼 수 있는 方途를 講究해야 할 것이 아니겠는가. 이 簡單한 原理를 잊고 서로 相對方을 탓한다면 그처럼 不幸한 일은 없을 것이다』 이런 趣旨의 말씀이었다고 記憶합니다. 이는 우리 두나라는 물론이려니와 다른 아시아 各國과의 關係에도 마찬 가지로 適用되는 理致라고 생각됩니다. 이렇게 어려울 때일수록 韓日 두 나라가 서로 힘을 합쳐서 아시아의 總體的인 經濟難局을 克服하는 先頭에 서야 될 것으로 믿습니다.

兩國 代表團 여러분.

지금 韓國은 金融·外換危機로 말미암아 前에 없었던 어려움을 겪고 있으며, 이러한 困境은 앞으로도 相當期間 繼續될 것으로 豫想됩니다. 실제로 企業의 倒産과 構造調整 過程에서 失業者의 續出도 憂慮되고 있습니다.

그러나 한국국민은 이처럼 狀況이 어려우면 어려울수록 주저 앉을 수는 없으며, 오히려 渾身의 힘을 다하여 最短時日內에 回生하기 위해 全力을 기울일 것입니다. 그리고 그럴만한 意志와 底力이 韓國 國民에게는 있다고 저는 믿고 있습니다.

아무쪼록, 韓國이 현재의 경제적 어려움을 克服할 수 있도록 日本側의 적극적인 協調와 따뜻한 激勵를 부탁드리는 바입니다.

尊敬하는 日本側 代表團 여러분.

실은 이러한 어려움 때문에, 금번 會議를 앞두고 韓國代表團 構成의 規模를 놓고 여러 意見이 오갔습니다. 그러나 우리가 내린 決定은, 이 會議는 이미 1年前에 兩國代表들이 約束한 것이며, 또한 狀況이 어려운 때일수록 이웃과 論議하면서 좋은 助言도 듣고 智慧도 빌리는 好機로 삼아야겠다는 것이었습니다. 그리하여 이처럼 많은 人員이 參加하게 된 것입니다.

여러분께서는 이러한 우리의 衷情을 理解하시어, 이번 會議가 共生共榮을 爲한 內實 있는 結果를 導出하는 具體的인 協力의 場이 될 수 있도록, 많은 協調 있으시기를 再三 付託드리는 바입니다.

다시한번, 이번 會議를 準備하시고 또 우리 韓國側 代表團을 따뜻하게 맞아 주신 日韓經濟協會의 關係者 여러분, 그리고 이 곳 宮崎縣의 官民 여러분께 眞心으로 感謝를 드리면서 저의 人事말씀을 마치겠습니다.

傾聽해 주셔서 대단히 感謝합니다.

〈開會式〉

團 長 人 事

日本側 代表團
團長 藤村 正哉

오늘 옛부터 한국과 깊은 관계를 맺어 온 이곳 九州 宮崎에서 기념해야 할 제30회째의 「日韓·韓日經濟人會議」가 개최됩니다. 「經濟人會議」란 명칭으로 변경된 후 이번이 첫 회의가 됩니다. 이 기념해야 할 회의가 개최됨에 즈음하여 일본측을 대표하여 인사말씀을 드리고자 합니다.

친애하는 金相廈단장님을 비롯하여 한국측 대표단 여러분께 있어서는, 어려운 경제상황에도 불구하시고 이 경제인회의에 참석하기 위해 멀리 이곳까지 나와주신데 대해 진심으로 감사와 환영의 말씀을 표하는 바입니다. 또한, 豊田 經濟團體聯合會 회장님을 비롯한 일본측 대표단 여러분께서도 다망하심에도 불구하시고 많이 나와 주셔서 대단히 감사합니다. 그리고 또, 대단히 다망하심에도 불구하시고 이 자리를 빛내 주시기 위해 왕림해 주신 金太智 주일대한민국대사각하 및 松形(마쯔카타) 宮崎縣지사님께도 감사드리며, 진심으로 영광으로 생각하는 바입니다. 또한 이 회의 개최에 즈음하여 宮崎縣을 비롯하여 회원기업이나 사무국의 관계자 여러분으로부터 다대한 협조를 얻었습니다. 깊은 감사를 드리는 바입니다.

지금부터 시작되는 본회의에 대한 일본과 한국, 양국정부의 기대는 대단히 큽니다. 한국정부로부터 외교통상부 통상교섭본부의 정의용 조정관님과 산업자원

부 무역정책실에 계시는 오강현 실장님께서 참석해 주셨습니다. 또 일본 정부측으로부터 내각외정심의실의 노보루 세이치로 실장님께서 참석하셨습니다. 곧 이어서 김대중 대통령과 하시모토 총리의 메시지가 낭독될 예정입니다. 본 경제인회의는 순수한 민간의 회의입니다. 그러나 이번 회의는 대통령과 총리를 비롯한 양국정부의 강력한 기대속에서 거행되게 되었습니다. 여러분들의 협력하에 본 회의가 더욱 알찬 회의가 되도록 힘쓰고자 합니다.

그런데 우리를 둘러싸는 경제환경에 눈을 돌리고자 합니다. 세계경제는 냉전종식후 시장경제의 확대에 따라서 무역확대가 진전되어 전체적으로는 순조로운 발전을 이룩해 왔습니다. 그러한 가운데, 아시아는 세계의 성장센터라고 불리면서 경제발전의 우등생의 지위를 차지해 왔습니다. 그러나 작년은 아시는 바와 같이 아시아경제가 크게 흔들린 해였습니다. 그때까지 밝은 전망으로 가득 찼던 아시아경제의 앞날에 어두운 구름이 일기 시작하여 많은 나라들이 혹한의 겨울을 맞이하게 되었습니다. 한국은 심각한 경제위기에 빠졌습니다. 일본에서도 금융위기가 심각화되어 대형도산이 잇달아 발생하는 사태를 맞이하기에 이르고 있습니다.

앞으로 한국에서는 金大中 대통령의 신정부 아래서 개혁이 진행될 상황에 있습니다. 저는 지난 2월에 있은 대통령 취임식에 참석하였습니다. 그 때 대통령의 격조 높고 설득력이 있는 취임사에 깊은 감명을 받았습니다. 「국난극복과 재도약의 새 시대를 열어나갑시다. 5000년 역사가 우리를 지켜보고 있습니다.」라는 金大中 대통령의 힘찬 말씀은 아직도 제 귀에 분명히 남아 있습니다.

올해 한국의 경제성장률에 관해서는 많은 연구기관들이 마이너스가 될 것으로 예측하고 있는 것 같습니다. 확실히 당면하는 경제재건으로 가는 길에는 많은 어려움이 기다리고 있을 것입니다. 기업도 어려운 시련의 길을 거쳐 나가야 할 것입니다. 그러나 그다지 멀지 않아 한국경제에는 밝은 빛이 비추게 될 것으로 저는 생각하고 있습니다. 무엇보다 한국사회에는 왕성한 바이탈리티가 있습니다. 단시간내에 국민 여러분께서 많은 금을 모아서 나라에 공출한 단결력이 있습니다. 벌써 무역수지에 관해서는 연속하여 흑자를 계상하고 있습니다. 춥고 어려운 겨울을 극복하여, 이곳 宮崎처럼 따뜻한 날씨가 하루속히 찾아 오기를 기대하는 바입니다.

한편 일본도 작년은 크게 흔들린 한해였습니다. 일본경제의 과제는 뭐니뭐니 해도 한시라도 빨리 내수주도형의 경기회복을 실현시키는 것, 그리고 아시아의 경제위기 극복에 있어서 일본이 큰 역할을 수행하는 것입니다. 사업규모 16조엔을 넘는 사상 최대규모의 종합경제대책이 현재 검토중이며, 이달 24일에는 일본정부가 보다 구체적인 내용을 발표할 예정입니다. 올해는 관과 민이 함께 전력을 다하여 경기회복에 힘써 나가야 합니다.

그런데, 작년에 일본이나 한국을 비롯한 동남아시아에서 일어난 경제현상에는 공통된 면이 많이 있습니다. 환율의 하락, 주가의 침체, 금융시스템에 대한 불안 등 입니다. 불투명하면서 규율이 결여되고, 관과 민이 서로 짜고 있는 것 같이 움직이는 경제시스템이나, 양적인 확대에 의존했던 기업경영이 변혁을 요청받게 되고 있는 것입니다. 경제운영을 더욱 투명화시켜서 국제적으로 통용되는 것으로 바꾸어 나가야 하겠습니다. 기업경영도 단순히 양적 확대나 쉐어를 추구하는 것이 아니라 앞으로는 「질」의 향상, 품질향상을 가일층 경영의 중심에 두어야 하겠습니다.

다만 이것은 아시아가 지금까지 해 온 방법을 전면부정하는 것은 아니라고 생각합니다. 아시아의 높은 경제성장을 뒷받침해 온 기초는 불변입니다. 즉, 높은 교육수준이나 근로에 대한 의욕, 저축률 등은 여전히 건재합니다. 물건의 생산을 중요시하는 자세도 중요합니다. 지금까지 아시아의 성장을 뒷받침해 온 이러한 것들까지 버린다면 경제재건은 있을 수가 없다고 저는 믿고 있습니다.

여러분, 21세기의 아시아의 평화와 발전은 한국과 일본의 경제선진국으로서의 역할을 제외하고서는 생각할 수 없습니다. 하루속히 경제위기를 극복하여 양국이 가일층 긴밀한 관계를 가져 대등한 파트너가 되어서 지역전체를 주도해 나가야 하는 것입니다.

이번 회의는 제30회째가 되는 기념해야 할 회의입니다. 저에게 있어서도 큰 공적을 올리신 羽倉 전직회장님의 뒤를 이어 작년에 일한경제협회의 회장으로서 취임한 후 첫 회의입니다. 또한 한국의 金相廈 회장님도 지난 2월에 많은 공적을 남기신 朴龍學 전회장님의 뒤를 이어 제3대 한일경제협회 회장직에 취임하셨습니다. 金 회장님께서는 대한상공회의소 회장이란 요직을 오랫동안 맡아 오신

한국 경제계의 리더이십니다. 이번 회의에 있어서도 많은 참석자를 전세편으로 파견해 주시는 등 각별히 진력해 주셨습니다. 이 자리를 빌어서 다시 감사를 드리고자 하는 바입니다.

이제 회의가 시작됩니다. 어려운 상황 속에서 개최되는 회의인 만큼, 보다 실질적이고 건설적인 의논이 이루어지기를 기대합니다. 또한 30년을 계기로 우리 협회 활동도 각각 나라의 사정이나 전통을 충분히 고려하면서 보다 실효를 올릴 수 있는 방향으로 재검토해 나가고자 생각하고 있습니다.

이 곳 미야자키는 일본의 건국신화와 대단히 관계가 깊은 고장입니다. 일본의 건국신화중에 유명한 하늘의 바위문이라고 하는 전설이 있습니다. 일본을 건국했다고 하는 아마테라스 오미까미는 스사노 노미코또의 폭행에 분노한 나머지 하늘의 바위문 뒤에 숨어버리고 말았습니다. 그러자 천지는 암흑 속에 가두어 지고 이를 곤란하게 생각한 여러 신들은 어떻게 해서든 하늘의 바위문으로부터 아마테라스 오미까미를 꺼내려고 했습니다. 그렇지만 좀처럼 나와 주지를 않았습니다. 마지막으로 아메노 우즈메노미코또라고 하는 여신이 우스꽝스러운 춤을 추게되자 하늘의 바위문이 열렸습니다. 그리고 천지가 개명이 되었던 것입니다. 순식간에 깜깜했던 세계가 밝아졌던 것입니다. 우리 양국의 경제도, 그리고 현재의 위기도 이번 회의를 계기로 해서 순식간에 밝아지기를 바라마지 않습니다.

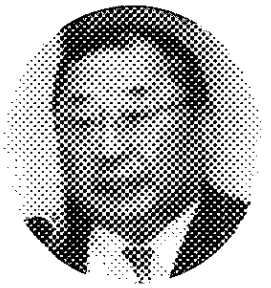
지금으로부터 시작되는 이틀간의 회의를 결실 많은 것으로 해 주시고, 이 회의가 서로의 우정을 더욱 심화시킬 장이 되기를 진심으로 기원하면서 개회인사로 가름하고자 합니다.

마지막으로 다시한번 말씀드리겠습니다. 金相廈 회장님을 비롯한 한국 대표단 여러분, 미야자끼에 잘 오셨습니다. 여러분을 환영합니다.

경청해 주셔서 대단히 감사합니다.

〈開會式〉

金大中 大統領 메시지 (代讀)



駐日大韓民國特命全權大使
金 太 智

친애하는 「후지무라 마사야」日韓經濟協會 會長, 金相廈 韓日經濟協會 會長, 그리고 양국 경제협회 회원 여러분!

역사적으로 우리나라와 가장 교류가 많았던 「큐슈」의 아름다운 해안도시 「미야자키」에서 第30回 韓日·日韓經濟人會議가 열리게 된 것을 진심으로 축하합니다.

日·韓 양측의 새 회장이 취임하고, 우리의 신정부가 출범한 이후 처음 열리는 이번 회의를 통해 양국간 경제협력의 새로운 전기가 마련되기를 기대하는 바입니다.

아시아 전체가 경제적으로 많은 어려움을 겪고 있는 지금이야말로 우리 두 나라가 상호협력을 통해 경제위기 극복의 모델을 제시해야 할 것입니다.

나는 이번 ASEM회의에서 하시모토 총리와 만나서 한국으로부터의 수입증대, 투자사절단 파견, 어업협정 조속타결 등의 문제에 대하여 두나라가 적극적으로 협력해 나가기로 합의하였습니다.

이러한 시기에 양국의 주요 경제인들이 한 자리에 모여 민간 경제협력방안을 논의하는 것은 그 의미가 매우 크다고 생각합니다.

한국은 작년말의 외환위기 이후 IMF와의 합의를 통해 우리 경제의 전반적인 개혁을 적극적으로 추진하고 있습니다.

특히 우리 정부는 외국인의 투자가 우리나라 경제회생의 핵심과제라는 확신을 갖고 투자환경 개선을 위한 획기적인 조치들을 취해 왔습니다.

그 동안 우리는 외국인 투자에 큰 장애가 되어왔던 외환규제와 투자제한을 철폐하고 유연한 노동환경을 적극 조성하는 한편, 대폭적인 세제감면 조치도 단행했습니다.

또한 값싼 공장용지의 지원, 부동산 시장의 개방, 그리고 One-Stop 서비스와 외국인에 대한 M&A 허용 등을 통해 그 동안 외국인 투자자들이 원해 왔던 각종 규제들을 과감히 철폐하고 對韓國 투자의 절차와 조건도 크게 간소화했습니다.

이와 함께 무엇보다 달라진 것은 외국인 투자에 대한 우리 국민들의 인식이 크게 개선되었다는 점입니다.

나는 이와 같은 우리의 投資環境 개선노력에 부응하여 앞으로 일본으로부터 적극적인 투자가 이루어지기를 바라고 있습니다.

특히 韓·日 양국의 지리적·문화적 근접성과 한국이 보유한 고급 노동력, 작지 않은 내수시장 등을 고려할 때, 日本企業이 첨단 기술산업을 중심으로 韓國에 투자할 경우 반드시 성공할 것으로 나는 확신합니다.

나와 우리 정부는 "韓國을 다른 어느 나라보다도 투자하기에 좋은 나라로 만들겠다"는 확고한 의지를 갖고 모든 방안을 강구해 나갈 것임을 강조하는 바입니다.

끝으로 이 회의를 준비해 오신 韓日 양측 관계자 여러분의 노고를 치하하며, 이 會議가 대망의 21世紀를 앞두고 있는 양국 관계의 발전에 크게 기여하게 되기를 기원합니다.

〈開會式〉

橋本龍太郎 內閣總理大臣 메시지 (代讀)

內閣官房內閣外政審議室長
登　　誠 一 郎

금일 제30회 日韓·韓日經濟人會議가 개최되게 된 것을 진심으로 축하합니다. 金相廈 團長을 비롯한 韓日經濟協會 여러분, 정의용 외교통상부 통상교섭본부 조정관을 비롯한 한국 정부관계자 여러분의 방일을 진심으로 환영하며, 이와 같이 성대한 회의를 준비해 주신 후지무라 단장을 위시한 일한경제협회 여러분께 본 회의의 성공을 기원하는 바입니다.

日韓·韓日經濟人會議는 1969년에 제1회 회의를 개최한 바 있는 대단히 전통있는 회의라고 알고 있습니다. 본 회의가 일·한 관계 전체의 발전과 함께 화를 거듭하여 이번에 제30회라고 하는 기념할만한 해를 맞이하게 되었는 바, 이 기회를 빌어 장기간에 걸친 많은 관계자의 노력에 대해 새삼 경의를 표하고자 합니다.

본인은 이번달 초 런던에서 金大中 大統領을 만나 처음으로 허심탄회하게 논의할 수 있는 기회를 가졌습니다. 동 회담에서는 21세기를 앞두고 일·한 양국이 새로운 파트너쉽을 구축하는 일이 중요하다는데 인식을 같이 하였으며, 日韓·韓日經濟人會議를 비롯한 양국간 민간 경제교류의 중요성에 대해서도 본인과 대통령의 의견이 일치하였습니다.

작년 이후 한국은 곤란한 경제정세에 직면해 있습니다. 우리나라에게 있어서 한국은 경제분야의 중요한 파트너일 뿐만 아니라 우호협력관계에 있는 이웃 나라로서, 우리는 한국 경제정세를 높은 관심을 가지고 주시하고 있으며, IMF를 중심으로 한 금융지원에 적극적으로 참가하는 등 여러 가지 측면에서 지원을 해 왔습니다.

한국에서는 金大中 大統領의 지도하에 전 국민이 일체가 되어 곤란을 극복하기 위한 노력을 기울여 온 결과, 최근에는 통화·금융시장이 상당수준 안정을 되찾아 가고 있다는 점에 대해서 기쁘게 생각하는 바입니다.

한국내에서는 고용대책이 주요 과제로 거론되고 있는 한편, 외국인 투자유치가 가일층 적극적으로 추진되고 있다고 들었습니다. 지난번 런던에서 개최된 ASEM회의에서는 金大中 大統領의 강한 이니시어티브에 의해 ASEM으로부터 한국을 포함한 아시아 각국으로의 투자촉진사절단 파견이 결정된 점을 매우 기쁘게 생각합니다. 본인도 동 제안의 실현을 강력히 지지하였습니다.

이러한 가운데 금일 양국 경제계에서 중요한 역할을 맡고 계시는 여러분이 한자리에 모여 의견을 교환하게 된 것은 대단히 시의적절하다고 하겠습니다. 금번 회의에서 의미있는 논의가 이루어지기를 진심으로 바라마지 않는 바입니다. 더욱이 5월 중순에는 일한경제협회를 중심으로 한 일본의 약 70개 기업 및 정부 관계자로 구성된 投資環境調査團이 한국에 파견될 예정인 것으로 알고 있습니다. 금번 회의와 5월 중순의 조사단 파견 등을 통해 많은 만남과 대화가 이루어짐으로써 구체적인 성과를 거둘 수 있게 되기를 기대합니다.

양국 경제협회의 무궁한 발전과 금일 참석해 주신 여러분의 활약을 기원합니다.

〈開會式〉

來 賓 祝 辭

駐日大韓民國特命全權大使
金 太 智

이 자리에 이렇게 많은 분들이 나와 계신 가운데 제가 다시 앞에 서게 된점 죄송스럽게 생각합니다.

잠시 전 저희 金大中 大統領의 이 會議에 당부하는 메시지를 代讀하였습니다만, 다시한번 제30회 한일·일한경제인회의가 개최되는 이 곳 미야자키에서 제가 대사로 참석하여 축사의 말씀을 드리게 된 것을 매우 영광스럽고 기쁘게 생각합니다. 때마침 저 自身 3年 2個月간의 勤務를 마치고 몇일 後에는 歸國하게 되어 있기 때문에 理解를 해주신다면 이 機會에 離任인사겸 한두 말씀 드리고자 합니다.

우선 메시지의 內容에서 여러분께서 感知하셨으리라고 믿습니다만, 新任 大統領의 危機克服을 위해 最善을 다 하겠다는 決意는 매우 강합니다. 그리고 그 決意는 "하면 된다"는 自信으로 다져져 있습니다. 重要한 것은 그와 같은 大統領의 意志가 우리나라 各界, 이 자리에는 우리 經濟界, 財界의 主要 指導者들이 와 계십니다만, 이분들로부터 一般사람들에 이르기까지 浸透가 되어 危機克服 努力이 온 國民的 運動의 樣相을 띄고 있다는 것입니다.

그 동안 우리의 努力은 나름대로의 成果를 거두었다고 생각을 합니다. 그것은

우리의 努力만이 아니라 우리의 友邦과 關係된 國際機構의 支援이 있어서 可能했다는 것은 더 말할 것도 없습니다. 특히 日本의 支援은 매우 값진 것이었습니다. 저 自身도 現地 駐在 大使로서 多少의 努力을 기울였습니다만, 이 자리를 빌어 관계된 일본측 여러분들에게 진심으로 感謝의 말씀을 드립니다.

이번 金融危機를 겪고 있는 것은 우리 韓國만이 아니라 東南亞 몇個國에서 같은 경우를 당하고 있어서 그 동안 經濟的으로 躍進을 거듭해 온 이 地域 國家들로서는 큰 衝擊이 되고 있습니다. 그리고 事態를 잘 克服하는가 與否가 아시아 興亡의 關鍵이 되고 있습니다.

아시아 金融 危機 克服에 있어서 日本의 役割에 큰 期待가 걸려 있다는 것은 새삼 말씀 드릴 必要가 없습니다. 日本이 어느 만큼 中心的 役割을 할 것이며 域內 各國과의 緊密한 協力을 통해서 어느 만큼 成果를 거두어 낼 것인지가 注目의 對象이 되고 있습니다. 아시아的인 새로운 파라다임이 形態를 갖추어 낼 것인지 試驗을 받고 있다고 할 것입니다. 그러한 意味에서 韓日 兩國間의 協力은 어느때 보다도 重要합니다.

2002年에는 韓日 兩國이 같이 World Cup 蹴球競技를 共同 開催하게 되어 있습니다만, 지금 이 事態 克服을 위해 기울이는 兩國의 努力은 勿論 World Cup 共催로 이어지고 이러한 過程에서 펼쳐지는 兩國間의 共同 努力이 成功的인 結實을 맺을 때에는 저절로 21세기에 있어서의 그야말로 새로운 진정한 선린으로서의 韓日 關係가 定立될 것이라고 저는 期待하고 있습니다. 그러한 의미에서 이번 개최되는 양국의 지도적 인사들의 모임은 이 회의에 그만큼 큰 기대가 걸려 있다는 것을 의미합니다. 아무쪼록 알찬 성과가 거두어지기를 바라마지 않습니다.

그 동안 제가 韓國의 駐日大使로서 이 곳에서 勤務하는 동안 여러분께서 베풀어주신 따뜻한 支援에 다시 한 번 感謝를 드리며, 여러분께서 日益 健勝하시기를 祈願하면서 離任의 인사를 代하고자 합니다. 감사합니다.

〈開會式〉

來 賓 祝 辭

宮 崎 縣 知 事
松 形 祐 堯

제30회 日韓·韓日經濟人會議의 개최에 즈음하여 축하 인사를 올립니다. 金相廈 한일경제협회 회장님, 후지무라 마사야(藤村正哉) 일한경제협회 회장님, 具平會 한국무역협회 회장님, 도요다 쇼이치로(豊田章一郎) 경제단체연합회 회장님을 비롯한 日韓 양국 경제계 대표 여러분, 그리고 내빈으로 참석해 주신 金太智 일본국 주재 대한민국 특명전권대사님, 노보루 세이치로(登誠一郎) 내각관방내각외정심의실 실장님, 미야자키에 잘 오셨습니다. 지금 미야자키는 싱그러운 새싹과 그리고 꽃들이 어우러져서 그야말로 봄이 한창입니다. 이 녹음이 눈부신 계절에 여러분들을 맞게되어 대단히 영광스럽고 기쁩니다. 이 지역을 대표하여 진심으로 환영인사 드리는 바입니다.

"太陽과 綠陰의 고장"이라고 불리는 본 미야자키현에는 천혜의 자연 환경과 유서 깊은 역사와 문화, 그리고 손님들을 따뜻하게 대접하는 "人情의 멋"이 남아 있습니다. 이번 기회에 "日本의 故鄕"이라고도 일컬어지는 미야자키를 아무쪼록 만끽해 주시면 감사하겠습니다.

작금의 國際經濟 情勢를 보면 日本등 급성장을 이룩해 온 아시아 국가들의 경제가 커다란 변혁기를 맞이하고 있습니다. 아시아 지역을 선도하고 있으며, 모든 분야에서 깊은 관계를 맺고 있는 日本과 韓國은 아시아 世界의 번영을 위해서라

도 종전 이상의 신뢰를 구축하고 협력 관계를 심화할 필요가 있습니다.

이러한 시기에 양국의 경제계 대표 여러분께서 한 자리에 모여 향후 展望에 대해 確認하심은 대단히 뜻 깊은 일이며, 회의 개최를 위해 盡力해 주신 여러분께 심심한 敬意를 표하는 바입니다.

미야자키현에서는 종전부터 한국과의 국제 교류를 적극적으로 추진하고 있으며, 1986년부터 2년에 한 번씩, 약 150명의 청년들이 참가한 가운데 "日韓 友好植樹의 날개" 사업을 실시하는 등 교류 심화를 위한 다양한 노력을 경주해 오고 있습니다. 이달 24일부터는 제7차 사업으로서 저도 한국을 방문할 예정입니다.

또 본 현의 다카오카초(高岡町)와 報恩郡, 난고손(南鄕村)과 扶餘邑이 각각 자매 결연을 제휴하여 활발한 교류활동을 벌이고 있습니다. 그리고 1993년에 개설된 휴가(日向 - 細島)~부산 간 정기항로는 현재 週 2편 운항되고 있으며, 한국과의 연계가 강화되고 있습니다.

이처럼 한국과 인연이 깊은 본 縣에서 기념할 만한 시점을 맞이한 본 회의가 개최됨을 진심으로 감사하게 생각하며, 이를 기화로 가일층 교류를 돈독히 해 나가고자 생각합니다.

마지막으로 양국의 相互 理解와 友好가 21세기를 향하여 더욱 진전되고, 본 회의의 성공과 함께 여러분들의 가일층의 발전과 건승을 기원드리며 저의 인사로 가름하겠습니다.

〈開會式〉

顧 問 人 事

中小企業協同組合中央會
會長 朴 相 熙

존경하는 후지무라 마사야(藤村 正哉)회장님, 金相廈 회장님, 그리고 이 자리를 빛내주신 내빈과 양국 경제계 인사 여러분.

본인은 일본의 이곳 남부 아름다운 도시 미야자끼에서 개최되는 제30회 한일경제인회의에서 인사 말씀을 드리게 된 것을 영광스럽게 생각합니다.

양국간 민간경제교류를 이끌어 온 본회의가 이제 30년이 됩니다. 본인은 그동안 이룩한 성과에 대하여 보람을 느끼면서 앞으로 더 많은 성과가 있기를 기대하고 있습니다.

돌이켜보면 한국이 후진국의 산업구조에서 벗어나 선진국 수준에 근접하는 경제발전을 이룩한 것은 이웃인 일본경제의 역할이 컸습니다. 그러나 양국간 경제협력에는 항상 긍정적인 평가만 있었던 것은 아니며 부정적인 평가도 적지 않았습니다. 그 부정적 평가중에서 가장 두드러진 것이 양국간 무역수지의 불균형이라 하겠습니다.

비록 한국경제가 최근 외환위기로 IMF구제금융을 받는 등 고통을 받고 있지만 이제 세계경제에서 중요한 역할을 담당하고 있으므로 양국 기업간의 긴밀한 협력

을 통하여 다가오는 21세기에는 세계경제의 중심적인 역할을 한일 두 나라가 담당할 수 있도록 협력을 강화해 나가야 한다고 생각합니다.

최근 일본경제도 구조조정 등을 추진하는 어려움을 겪고 있으나 기본적으로 일본경제는 세계 최강의 경쟁력을 가지고 있으므로 앞으로도 지속적으로 성장하여 세계경제를 이끌어 나가게 될 것으로 믿고 있습니다.

우리나라도 한국민이 그 동안 보여준 민족적 저력을 생각할 때 지금 겪고 있는 여러 가지 어려움을 충분히 극복할 수 있을 것으로 믿습니다. 본인은 이 자리를 빌려 한국경제가 어려움에 처해있는이 시점이야말로 한일·일한경제인회의의 역할이 더한층 강조되어야 할 때라고 생각합니다. 한국 기업이 어려울 때일수록 오랜 우정을 갖고 있는 일본 기업의 협력은 큰 의미가 있다고 보기 때문입니다.

오는 2002년에는 전세계가 주목하는 가운데 우리 두나라가 공동으로 월드컵 대회를 개최하게 되어 있습니다. 이것은 다른 무엇보다 큰 양국간의 협력을 상징하는 행사라고 생각합니다. 2002년 월드컵의 성공적 개최를 위하여 양국 정부뿐만 아니라 양국 기업을 중심으로 한, 특히 중소기업·중견기업 중심으로 민간경제협력기구에서 큰 역할을 담당해야 된다고 봅니다.

아무쪼록 이번 30회 회의를 통해 양국 기업간 상호협력을 더욱 증진시켜 궁극적으로 양국의 경제발전에 크게 기여할 수 있게 되기를 바라며, 특히 지난 30년 동안의 경제교류 경험을 토대로 앞으로 다가올 30년의 한일협력 강화를 위한 새로운 역사의 장이 펼쳐지게 되기를 기대합니다.

함께 참석하신 여러분의 건강과 행운을 기원하면서 인사말을 마치겠습니다.

감사합니다.

〈開會式〉

顧 問 人 事

日本貿易振興會
理事長 豊島 格

방금 소개받은 JETRO의 도요시마(豊島)입니다. 내빈 여러분, 일한 양국 대표 여러분, 일본과 한국의 경제인들이 한 자리에 모이는 본 회의가 올해로 30회를 맞이하여 오늘 日韓·韓日經濟人會議라고 名稱도 새롭게 이렇듯 성대하게 개최되었음을 진심으로 慶賀드립니다. 이런 회의에서 일본측 顧問으로서 인사를 올리는 大任을 맡게 된 것을 크나큰 영광으로 생각합니다.

먼저 한국에서 올해 2월에 金大中 대통령각하의 새 정부가 출범하고, 본 회의의 한국측 주최자인 韓日經濟協會의 會長으로 金相廈 회장님이 새로 취임하셨음에 대하여 진심으로 축하 인사를 드립니다.

여러분 잘 아시는 바와 같이 현재 동아시아 국가들은 작년 7월 태국에서의 외환위기를 계기로 대단히 어려운 경제상황에 직면하고 있습니다. 외환위기 발생 이후 태국에 대해서는 8월에, 인도네시아에 대해서는 10월에 IMF의 긴급지원이 이루어졌습니다. 태국에서는 금융시스템 再建 등의 경제 개혁이 추진되고 있어 환율이 회복세를 보이고 있으나 인도네시아는 아직도 不安定한 상태입니다. 또 한국에서도 97년 들어서 나타나기 시작한 財閥 企業을 중심으로 한 경영 파탄이 점차 확대되었고, 이에 해외 각국의 短期 資金 回收 등도 가세하여 金融 危機가 심각해져 12월에 IMF로부터 긴급 지원을 받는 지경에 이르렀습니다.

이런 상황 타개에 협력하고자 일본 정부는 ① IMF 이사회의 한국 支援策에 따라 12월에 100억불을 지원하기로 결정하고, 올해 들어서 ② 한국을 포함한 아시아의 수출관련 기업 등을 最終 貸出先으로 삼은 當該國 公的機關에 대한 two step loan의 貸付, ③ 한국과의 무역에서 L/C가 없는 去來에 대해서도 短期貿易保險의 대상으로 삼는 등의 방침을 결정한 바 있습니다. 또 일본의 주요 은행은 歐美의 주요 은행과 더불어 한국의 240억불의 短期債務를 1~3년짜리 長期債務로 전환하는데 同意한 바 있습니다.

한국의 무역수지는 '97년에 輸出이 전년 대비 5.0% 신장된 반면 輸入은 3.8% 감소되어 赤字幅이 '96년의 206억불로부터 85억불로 축소되었습니다. 한국이 원자재 등을 輸入하여 이를 加工 輸出하는 貿易構造를 갖고 있음을 감안하면 수입감소로 무역적자가 축소된다는 것은 꼭 바람직한 일이라고만은 볼 수 없습니다. 또 IMF는 긴급지원을 함에 있어서 '98년의 경제성장률을 1% 이내로 억제하는 등의 條件을 부과하고 있어 앞으로 당분간 한국경제가 어려운 環境에 처할 것으로 보입니다. 그러나 그런 가운데서도 한국이 이번 난국을 극복하고 轉禍爲福의 계기로 삼아 새로운 發展을 향해 나아가실 것을 간절히 바라는 바입니다.

日韓 양국간에는 '97년에 다소 축소되었다고는 하지만 100억불을 넘은 貿易不均衡이 존재합니다. 이는 한국의 산업구조상 생산설비와 부품·소재산업이 충분치 않아 輸出을 하려면 輸入이 늘어나는 構造的 문제가 커다란 요인이 되고 있습니다. 따라서 무역불균형을 해결하기 위해서는 단순히 韓國産 상품의 對日輸出을 늘리는 것만으로는 충분치 않고, 생산설비와 부품·소재를 생산하는 기반사업 등을 육성할 필요가 있으며, 일본을 비롯한 선진국 기업으로부터 同 分野에 대한 投資誘致가 효과적입니다. 한국에서는 투자유치 촉진을 위해 법 개정을 포함한 환경정비를 추진하고 있으며, 또 大韓貿易振興公社(KOTRA)도 '95년에 設置法을 개정하여 大韓貿易投資振興公社로 명칭을 변경한 이후 무역진흥과 어울러 투자유치에도 힘쓰고 계십니다.

JETRO는 지금까지 한일경제협회와 KOTRA를 비롯한 한국의 관계기관과 협력하여 한국의 산업육성, 대일수출촉진에 관한 여러 협력사업을 수행해 왔습니다. 최근에는 방금 말씀드린 한국의 基盤産業 育成과 투자유치협력사업에 힘을 쏟고 있습니다.

예를 들면 KOTRA가 작년 10월 서울에서 개최한 逆見本市 형식의 "OEM 파츠 쇼"에 JETRO가 11개사의 일본기업을 이끌고 참가하여 繼續 檢討 안건을 포함하면 합계 870만불의 商談을 실시하는 성과를 거두었습니다. 또 對韓 投資에 관해서는 JETRO와 KOTRA가 각기 투자관련 사업을 총동원하여 對韓 投資를 계획하고 있는 일본기업에게 協力하는 "파일럿 事業"을 실시하고 있습니다. 한국이 이번 難局을 克服하고 가일층 발전하리라 생각된다는 점에서도 앞으로도 본 사업에 힘을 경주하고자 합니다.

나아가서 JETRO는 현재의 동아시아 경제위기 타개에 있어서 일본의 역할에 대한 기대감이 높다는 점에 비추어 危機에 직면한 국가들에 대한 협력의 일환으로 이들 국가로부터의 輸入 促進에 緊急히 힘쓰는 特別한 事業에 착수하였습니다. 그 첫 번째 사업으로서 韓國製 소프트웨어 등의 購買 促進을 목적으로 한 "訪韓情報關聯機器, 소프트웨어産業交流使節團"을 올해 3월 21일부터 24일까지 急遽 派遣하였습니다. 동 사절단을 일본기업 관계자 14명등 도합 18명으로 구성되었으며, KOTRA 등의 많은 협력하에 한국기업과 70건의 商談을 하였습니다. 상담결과 상당한 成果가 기대되고 있습니다만 본 사절단의 가장 큰 성과는 한국의 소프트웨어가 豫想 以上의 水準에 이르러 있다는 것을 사절 단원 기업들이 인식했고, 앞으로 새로운 분야에서 日韓간의 거래를 촉진할 실마리를 마련할 수 있었다는 점이라고 생각합니다.

JETRO에서는 1996년의 日韓 國交正常化 2년 후인 67년에 서울에 事務所를 개설한 이후 KOTRA와 定期協議會를 개최하고 있으며, KOTRA 사장님과 제가 양기관의 협력사업에 관하여 솔직하게 의견교환을 할 자리를 마련하고 있습니다. JETRO는 여러 외국중에서도 유일하게 한국과만 이런 定期會議를 개최하고 있으며, 동회의 석상에서 앞으로도 한국에게 더욱 效果的이고, 또 일한 양국 기업에게도 有益한 協力事業을 실시하기 위하여 협의하고자 합니다.

양국간의 협력관계는 경제분야 뿐 아니라 2002년의 월드컵축구 공동개최, 한국출신 야구선수들의 일본 프로야구계에서의 대활약등 앞으로 넓은 분야로 확대될 것으로 예상됩니다. "어려울 때 서로 돕는 친구가 진짜 친구다"라는 속담이 일본에도 있고 한국에도 있습니다. 현재 日韓 양국 모두 어려운 경제여건 하에 놓여 있습니다. 이런 때인 만큼 지금이야말로 양국의 協力이 가장 必要한 때라고

생각합니다. 또 공히 OECD 회원국인 양국은 쌍무적 관계에 그치지 말고 현재 어려움에 직면한 아시아 경제의 再活性化를 위해서도 서로 손을 맞잡고 적극적 역할을 수행해야 한다고 생각합니다.

본 經濟人會議가 풍부한 결실을 거두어 향후 日韓經濟關係의 발전을 위해 貢獻할 수 있기를 기원드리면서 저의 인사말을 마치고자 합니다.

경청해 주셔서 감사합니다.

基 調 演 說

〈基調演說〉

東아시아의 經濟危機克服과 韓日兩國의 協力方案

(社)韓國貿易協會
會長 具 平 會

尊敬하는 후지무라 마사야(藤村正栽) 會長님과, 金相廈 會長님, 그리고 韓日兩國의 經濟人 여러분을 모시고, 『東아시아의 經濟危機克服과 韓日兩國의 協力方案』에 대해 말씀드릴 수 있는 機會를 가지게 된 것을 榮光으로 생각합니다.

아시아의 經濟危機와 世界經濟環境의 變化

얼마전 까지만해도 21世紀의 世界는 아시아가 主導할 것이라는 豫測이 많았습니다. 이러한 見解는 豫測이라기보다 오히려 旣定事實처럼 받아들여지고 있었습니다. 아시아가 主導하게될 21世紀 世界에서는 특히 日本, 中國, 韓國이 中心的 役割을 감당할 것이라는 豫測도 있었습니다. 심지어 美國議會에 提出된 資料에도 이들 세 國家가 21世紀의 世界를 主導할 10個國에 包含되었습니다.

그러나 지난해 7월 泰國에서 시작된 아시아의 金融危機가 아시아經濟를 흔들어 놓았습니다. 이제는 더이상 아시아主導의 21世紀를 이야기하는 사람이 없는 것 같습니다. 日本에서 시작되어 韓國 및 餘他 아시아國家에서 成功을 거둠으로써

全世界人의 注目을 받았던 아시아型 成長모델이 이제 再評價되는 運命을 맞고 말았습니다. 아시아地域 全體 GDP의 3/4을 차지하고 있는 經濟大國 日本에서도 90年代初부터 시작된 景氣沈滯가 長期化되고 있습니다. 지금 많은 사람들은 아시아 成長神話가 끝난 것이 아닌가하고 지켜보고 있습니다.

아시아의 침통한 雰圍氣와는 달리 유럽地域 國家들은 經濟統合을 加速化하고 있습니다. 來年부터는 單一通貨를 導入하기로 하였으며, 아시아國家들에 못지않은 經濟成長을 보이고 있는 10餘個의 東歐圈國家들도 유럽聯合에의 參與를 기다리고 있습니다. 이제 유럽은 經濟統合과 統合地域의 擴大를 통해 새로운 經濟的 力動性을 보이고 있습니다. 舊大陸으로 불리우던 유럽은 이렇게 新靑年으로 다시 태어나고 있는 것입니다.

世界의 經濟 및 政治를 主導해온 美國도 變化를 거듭하고 있습니다. 內的으로는 慢性赤字이던 財政問題를 解決하고 物價安定, 經濟成長, 雇傭擴大라는 健實한 모습을 보이고 있으며, 外的으로는 北美自由貿易地帶를 結成하여 經濟的 效率性을 높이고 協力關係를 强化하였습니다.

世界市場에서의 影響力을 擴大하려는 유럽과 美國의 적극적인 構造 轉換 努力에 비해 아시아에서는 아시아市場을 擴大하려는 共同努力이 미약했으며, 이는 이번 아시아 經濟危機에서 여실히 드러났습니다. 물론, 아세안과 APEC이 있지만 아세안은 經濟力量이 너무 약하고 加入國家 數도 적으며, APEC은 그에 비해 지나치게 많은 나라와 地域을 포괄하고 있어서 共同의 利益을 찾아내기가 어려운 狀況입니다.

이제 아시아의 共同利益을 代辯하고 域內의 經濟的 力動性을 回復하기 위해 아시아人들의 새로운 協力構造가 要求되고 있으며, 그 中心的인 役割을 해야하는 國家는 바로 아시아의 經濟力을 代表하는 日本과 中國, 그리고 韓國입니다. 특히 中國이 아직 體制轉換過程에 있음을 감안할 때, 日本과 韓國의 協力이 切實하게 필요한 狀況입니다. 韓日兩國의 緊密한 協調關係를 통해 아시아地域의 協力構圖를 創出하는 것만이 現在의 아시아 經濟危機를 가장 迅速히 克服할 수 있는 方案이라고 봅니다.

아시아 經濟危機의 原因과 解決方案

우리를 곤혹스럽게 만들고 있는 아시아 經濟危機는 日本을 除外하고는 모두 外換의 不足, 특히 美國 달러貨의 不足에서 시작됐다고 할 수 있습니다. 深刻한 經濟危機를 당한 國家들은 다음과 같은 共通的인 原因들을 가지고 있었습니다.

첫째, 累積된 經常收支의 赤字입니다. 泰國, 말레이시아, 인도네시아, 韓國은 90年代에 들어 계속된 經常收支의 赤字를 改善하지 못했습니다.

둘째, 金融機關의 不實입니다. 不實貸出 등 金融機關의 放漫한 經營으로 不實債權이 쌓이게 됨으로써 倒産의 危機를 맞았으며, 이것이 다시 企業들의 資金供給을 惡化시키고 더 많은 企業의 倒産을 불러왔습니다.

셋째, 換率政策의 失敗가 그 原因입니다. 經常收支의 赤字와 金融市場의 不安定은 通貨價値의 下落壓力을 惹起시켰습니다. 이 때문에 그나마 充分치 못한 外換保有高가 換率防禦를 위해 消盡되었으며, 換率防禦를 위해 引上된 利子率은 企業들의 資本費用을 높여 오히려 競爭力을 弱化시켰습니다. 이러한 費用을 치르고도 換率防禦는 成功하지 못했습니다.

넷째, 急激한 外換 및 資本自由化가 그 原因이었습니다. 外換 및 資本自由化는 企業의 資本導入을 圓滑하게하여 成長에 도움을 줄 수 있습니다만, 다른 한편으로는 短期性 投機에 使用되어 經濟의 不確實性을 높일 수 있습니다. 특히 韓日兩國은 最近 모두 果敢한 外換市場開放을 斷行하여 外貨의 流出入에 거의 아무런 制限이 없어졌기 때문에 이런 危險은 더 커졌다고 할 수 있습니다.

지금까지 列擧한 事實들이 外換危機를 당한 아시아國家들에서 發見할 수 있는 共通的 原因들입니다.

그러나 日本의 경우는 이들 國家와는 전혀 다릅니다. 日本은 世界最大의 債權國이고, 經常收支黑字國이며, 世界에서 가장 뛰어난 製造業基盤을 가지고 있습니다. 다만 90年代初의 버블붕괴로 金融시스템上에 問題가 發生한데 지나지 않는다고 할 수 있을 것입니다.

아시아 經濟危機의 影響과 對策

그렇지만 아시아國家들의 經濟危機는 서로 相乘作用을 하여 經濟危機를 더욱 增幅시키고 있다는데 問題가 있습니다. 日本 金融機關의 不實債權은 持續的인 金利引下를 招來 公定割引率이 0.5%까지 낮아졌고, 이러한 低金利는 日本의 海外投資를 急速히 增加시켰습니다. 특히 高度成長을 구가하던 아시아國家들에 集中的으로 投入되어 景氣過熱과 버블膨脹이라는 副作用을 招來하였습니다. 즉, 生産性이 낮은 部門에 대한 投資가 可能해졌고 短期的 投機가 助長되었습니다. 이것이 아시아 金融危機의 원인의 하나였다고 생각됩니다.

또한 泰國의 經濟危機가 인도네시아, 韓國 등 다른 國家들에게도 危機를 맞게 한 要因이 되었으며, 日本經濟의 어려움을 더욱 惡化시키고 있습니다. 아시아의 經濟危機는 누구보다도 經濟的으로 相互聯關性이 높은 이 地域 國家들에게 가장 심대한 經濟的 惡影響을 미치고 있습니다. 惡影響의 具體的 內容은 交易縮小와 金融市場의 不安이라고 할 수 있습니다.

危機를 맞은 國家들은 外貨稼得을 위해 輸入減縮과 輸出擴大에 안간힘을 다하고 있습니다. 따라서 이 國家들에 대한 輸出은 줄어들 수 밖에 없습니다. 특히 이 地域에 대한 輸出比重이 높은 日本도 타격을 입을 것으로 豫想됩니다. 아시아의 危機가 發生한 지난해에 이미 日本의 對아시아 輸出比重은 1996年의 46.4%에서 44.5%로 縮小되었으며, 이러한 趨勢는 올해에 더욱 加速化될 展望입니다.

外換市場의 問題도 여전히 어려운 宿題입니다. 아시아國家들의 外換危機가 일단 鎭靜局面으로 들어선듯하나 再發의 불씨가 상존해 있는 狀況입니다. 특히 日本은 아시아國家들에 대한 貸出比重이 72%로 매우 높으며, 昨年 6月末 現在 貸出殘高는 1,238億불에 달하고 있습니다. 그러나 이들 國家들의 外換危機로 貸出回收가 어려워지고 있어서 日本은 國內企業들의 不實債權에 더하여 國際的인 不實貸出이라는 問題에 逢着해 있습니다.

따라서 이 危機가 빨리 克服되면 될수록 이 地域 國家 모두에게 利得이 될 것입니다. 아시아의 危機를 克服하기 위해서는 먼저 危機를 겪고있는 國家들의 輸出이 늘어나야 합니다. 이를 위한 日本의 積極的인 協力이 必要합니다.

최근 日本이 減稅와 財政擴大 등으로 需要를 振作하고 景氣浮揚에 나서겠다는 意向을 밝히고 있어서 좋은 反應을 얻고 있습니다. 지난 9日 하시모토 首相은 總 16兆엔에 달하는 史上 最大의 景氣活性化對策을 施行하겠다고 밝힌 바 있습니다. 자세한 內譯은 이달 下旬頃에 發表될 것으로 알려지고 있으나, 그동안 論亂을 빚어왔던 租稅減縮의 경우 所得稅 住民稅 減稅 4兆엔 外에도, 法人稅와 消費稅率 引下도 포함될 것으로 알려지고 있습니다. 특히 이번 對策에는 經濟危機를 겪고 있는 아시아國家들의 輸出을 支援하기 위해 貿易金融支援도 포함되는 것으로 알려져, 아시아國家들의 큰 期待를 모으고 있습니다.

또한 金融支援도 대단히 重要합니다. 日本政府와 金融機關들은 버블붕괴에 따른 日本 自身의 金融危機에도 不拘하고 이 地域에 대한 巨大한 金融支援을 約束했으며, 債務滿期延長에도 적극 協調했습니다. 이러한 日本의 協調는 이 地域의 外換危機를 安定시키는데 決定的 寄與를 했다고 할 수 있습니다.

한편 昨今의 아시아危機에 대한 對策으로 유럽貨幣制度(EMS)와 같은 協力機構나 아시아國家들이 參與하는 公共的 性格의 헤지펀드가 必要하다는 意見도 提起되고 있습니다. 아시아國家들의 金融安定을 위한 아시아通貨基金(AMF)을 設置하자는 意見도 오래전부터 있어 왔습니다. 어떠한 形態, 어떤 이름의 機構이건 아시아地域의 金融協力機構가 있어야 한다는 것은 우리 모두가 共通으로 느끼고 있습니다. 그리고 이러한 協力을 위해 日本이 앞장서 주기를 期待하고 있습니다.

韓日經濟協力의 必要性과 方案

韓國은 金大中 大統領 當選後 經濟危機克服을 위한 과감한 措置를 취하고 있습니다. 政府組織을 改編하여 效率性을 높이는 同時에 企業活動에 대한 規制를 대폭 緩和하였으며, 金融産業 構造調整이 한창 進行되고 있습니다. 뿐만 아니라 企業도 經營의 透明性과 不實分野의 整理 등 構造調整을 進行中이며, 勤勞者도 經濟回復을 위해서는 整理解雇 등에 따른 犧牲이 불가피하다는데 同意하였습니다. 또한 一般國民들도 金모으기運動에서 보여준 바와같이 經濟危機克服을 위한 一致團結된 意志를 보여주고 있습니다.

그러나 이번 韓國의 經濟危機克服은 韓國 자신의 힘만으로는 안됩니다. 國際機構를 비롯한 先進各國의 協調가 必要하며, 특히 日本의 積極的인 協調가 重要하다 하겠습니다.

첫째, 交易面에서의 協調입니다. 韓國은 지금까지 日本과의 交易에서 絶對的인 赤字를 持續해왔습니다. 韓日國交가 正常化된 1965年 이후 지난해까지 무려 1,386億달러의 赤字를 記錄하였습니다. 그러나 現在 危機에 처한 韓國은 더이상 日本으로부터 이러한 赤字輸入을 持續할 餘力이 없습니다. 景氣浮揚措置로 日本의 對韓輸入이 擴大될 것으로 期待됩니다만, 對韓輸入擴大를 위한 輸入制限 廢止 등 具體的인 對策도 必要할 것으로 봅니다.

다음에는 金融協力에 대한 것입니다. 1997年 6月末 現在 韓國은 日本에 대하여 237億달러에 該當하는 金融負債를 가지고 있습니다. 韓國의 對外負債中 가장 높은 23%에 달하는 金額입니다.

이번 日本 金融機關의 積極的인 協調로 債務滿期延長이 이루어졌고, 또한 日本政府가 100億달러를 支援하기로 約束한 바도 있어 最近 韓國의 金融危機가 安定되어 가고있는 것은 日本의 이러한 支援에 힘입은 바 대단히 크다고 하겠습니다.

이와함께 民間企業의 債務에 대해서도 滿期延長 등 積極的인 協調를 부탁드리고자 합니다. 最近 韓國 金融危機가 急速히 安定되어감에 따라 海外金融機關들의 韓國經濟에 대한 信賴度가 계속 높아지고 있기 때문에 民間企業 債務延長과 關聯된 與件은 훨씬 좋아졌다고 할 수 있습니다.

셋째, 技術協力과 直接投資에 관한 것입니다. 지금 원貨의 平價切下로 企業價値가 지난해의 折半水準으로 떨어져 있습니다. 그러나 韓國의 技術力이나 生産能力은 前과 다름없는 狀況입니다. 더구나 韓國의 新政府는 外國人의 土地取得과 敵對的 M&A의 全面的인 許容 등 外國企業의 對韓投資에 障碍가 되는 거의 모든 問題를 解消하기로 하였습니다.

그리고 日本 또한 日本版 빅뱅으로 外換去來의 全面的인 自由化가 斷行되어, 지금이야말로 日本이 韓國에 投資할 수 있는 適期라고 할 수 있습니다. 특히 日

本의 高級技術과 韓國의 熟練된 勞動力이 結合하면 價格이나 技術面에서 世界的인 競爭力을 維持할 수 있을 것입니다.

넷째, 韓日 兩國間의 文化的 協力에 관한 것입니다. 韓國과 日本의 월드컵 共同誘致는 兩國 國民들의 交流에 좋은 契機가 되고 있습니다. 日本과 韓國, 그리고 아시아 音樂人들이 參與하는 아시아 심포니의 活躍도 바람직한 것으로 생각합니다. 또한 未來를 짊어지고갈 젊은이들이 各界各層에서 서로 交流할 수 있어야 할 것입니다. 産業硏修나 語學硏修, 留學, 相互訪問을 위한 積極的인 支援이 必要하다고 봅니다. 이러한 交流를 위한 基金造成 등에 兩國 企業人들이 앞장서 주시기를 提案하는 바입니다.

저는 韓國의 2002年 월드컵 誘致委員長을 지냈습니다. 韓日兩國間에 치열한 誘致競爭이 있었습니다만, 두 나라가 모두 조금씩 讓步하여 共同開催라는 史上類例없는 協力을 이끌어냈습니다. 두 나라 모두 일부 서운해하는 사람들이 있는 것은 事實이지만 저는 共同開催가 最善이라고 생각했고, 제 생각이 적중했다고 自負합니다. 지난 1일 서울에서 열린 韓日親善 蹴球競技에서는 兩國 應援團이 勝敗와 關係없이 서로 따뜻한 拍手로 激勵하고, 和答했습니다. 韓國 新聞에서는 "和合의 場" 演出이라는 記事를 싣기도 했습니다.

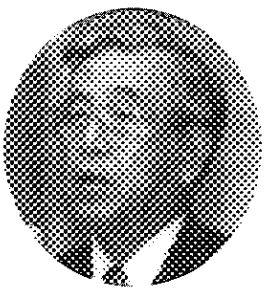
사실 월드컵 共同開催를 이끌어내는데는 兩國 經濟人들의 協力이 決定的 役割을 했습니다. 제가 1994年 8月 고텐바에서 열렸던 韓日포럼에 參加하였을 때 이런 提案을 하였습니다. 韓日兩國이 不幸한 過去를 잊고 未來指向的 協力을 하기 위해서는 2002年 월드컵開催를 日本이 讓步해야 한다고 하였습니다. 그러자 그날 저녁 여기 계신 豊田 會長께서 저에게 월드컵 共同開催를 提議했습니다. 이것이 하나의 契機가 되어 오늘의 結實을 보게 된 것입니다.

2002年 월드컵大會는 단순한 스포츠行事가 아니라 21世紀 韓日協力의 出發點이 된다는 점을 認識하는 것이 重要합니다. 우리 經濟人이 월드컵共同開催 精神에 立脚해서 韓日兩國關係를 未來指向的, 協力的 關係로 바꾸는데 知慧를 모은다면 지금의 아시아 經濟危機를 克服하고, 21世紀를 아시아의 舞臺로 만들 수 있을 것으로 確信합니다.

感謝합니다.

〈基調演說〉

새로운 局面을 맞이한 日韓經濟關係와 그 緊密化를 위하여



(社)經濟團體連合會
會長 豊田 章一郎

1. 머리말

방금 소개받은 經團連의 도요다(豊田)입니다. 金相廈 회장님과 후지무라(藤村) 회장님, 그리고 이 자리에 임석하신 여러분.

30년간의 오랜 세월에 걸쳐서 日韓兩國의 경제교류와 상호이해, 우호친선 촉진에 대단히 중요한 역할을 수행해 오신 日韓·韓日民間合同經濟委員會 會議는 올해 제30회 회의를 계기로 명칭을 日韓·韓日經濟人會議로 바꾸고, 양국 관계의 가일층의 발전을 향한 첫걸음을 내딛게 되었습니다. 저는 재작년 니이가타(新潟)에서 개최된 제28회 일한민간합동경제위원회 회의에서 經團連 회장으로서 처음으로 基調演說을 했으며, 이번에 다시 이 기념할만한 회의에서 基調演說을 할 수 있음을 영광으로 생각합니다.

2. 日本의 經濟 運營 現況과 경제계의 對應

여러분을 니이가타에서 뵌 이래 2년이 지났습니다만, 그 간에 일한 양국을 둘

러싼 환경은 크게 달라졌습니다. 따라서 저는 일본 경제의 현황과 대책, 아시아 외환위기에 대한 대응에 관하여 말씀드리고, 마지막으로 일본과 한국의 경제관계에 관하여 언급하고자 합니다.

먼저 일본경제의 현황에 대해서는 2년 전에 니이가타에서 "일본 경제는 수 차례 景氣 回復의 조짐을 보였으나 끝내 본격적인 回復 軌道에 오르지 못하고 오늘날에 이르렀다"고 말씀드리고 또 長期的인 構造改革 方案을 제시한『經團連 비전 2020』에 대해 설명을 드렸습니다.

景氣 狀況은 그 당시보다 훨씬 악화되었습니다. 작년 가을에 일어난 대형 금융기관의 경영파탄을 계기로 일본의 경제·금융 시스템에 대한 不信感이 急速度로 擴散되고 있으며, 기업인과 소비자, 나아가서는 정책 담당자들조차도 자신감을 상실했습니다. '97년도의 성장률은 제1차 석유파동 후인 1974년 이래 실로 23년 만에 마이너스 성장을 기록할 것이라고 보는 시각도 있습니다.

일본 경제에 梗塞感이 확산되고 좀처럼 好轉되지 못하고 있는 요인으로는 거품경제 시절과 그 이후의 고름이 아직 완전히 빠지지 않은 상태에서 계속 꼬리를 물고 있다는 점과, 국민과 기업이 모두 앞날에 대한 確信을 갖지 못하고 있기 때문이라는 두 가지를 들 수 있을 것입니다.

'98年 3月期 決算에서는 금융기관뿐 아니라 많은 기업에서 종전 이상의 규모로 거품(bubble) 처리, 즉 不實債權·不實資産을 처리하려고 하고 있습니다. 이로 인해 기업의 실적은 대폭 惡化되겠지만 이는 미래의 발전을 위해 꼭 통과해야 하는 關門이며, 決算 數値만 보고 무턱대고 불안감을 부채질하여 景氣를 더욱 惡化시키는 일은 피해야 한다고 생각합니다. 새벽동이 트기 전에 가장 어둡다고 합니다. 현 시점에서 고름을 짜내고 날이 밝기를 기다릴 필요가 있을 것입니다.

장래에 대한 막연한 不安感을 해소하기 위해서는『經團連 비전 2020』에서 제창한 抜本的 構造改革을 추진하고, 국민과 기업이 자신감(confidence)을 회복할 필요가 있습니다.

서두에 말씀드린 景氣정세를 감안하여 自民黨은 작년 10월 이후 4次에 걸친 緊急經濟對策을 수립했습니다. 稅制관련으로는 法人稅 基本 稅率의 인하, 2조엔의 所得稅·住民稅의 특별감세, 地價稅의 동결 등이 결정되었으며, 연말에는 30조엔의 공적 자금을 투입하여 금융시스템 安定化 對策도 수립하여 公的 資金에 의한 銀行으로의 資本 注入이 이미 실시되고 있습니다. 또 증권시장의 活性化 方案으로서 自社株 消却에 대한 규제완화도 지난 3월 말에 법안이 성립되었습니다. 이러한 대책은 모두 經團連이 강력히 요망했던 것으로 관계부처에 그 실현을 촉구

했던 사안들이었습니다.

그런데도 경기가 호전되지 않고 오히려 악화되고 있다 하여 지난번에 일본의 3개 여당은 총액 16조엔을 웃도는 과거 최대 규모의 綜合景氣對策을 수립하겠다는 방침을 발표하였습니다. 公共事業과 부실채권 처리방안이 대책의 근간을 이루고 있으며, 具體的인 내용과 追加的 減稅對策에 관해서는 현재 檢討中이라고 듣고 있습니다.

經團連에서는 현재 추가적인 경제대책으로 무엇을 요망할 것인가에 대해 검토하고 있습니다. 基本은 時機를 놓치지 않도록 신속하게 실시할 것, 그리고 임시방편적인 정책이 아니라 장기적 관점에서 구조개혁에 기여할 수 있는 대책을 취하는 것입니다.

이러한 관점에서 經團連은 대책의 근간으로서 다음 다섯 가지를 생각하고 있습니다. 먼저 첫째로 법인세율을 국제적 수준으로 인하할 것과 소득세율의 累進構造 緩和·最高 세율 인하 등을 포함한 拔本的인 稅制 改革입니다. 이 경우 개인 소득세 4조엔, 법인세 3조엔, 도합 7조엔 정도의 減稅 규모가 필요하다고 보고 있습니다. 둘째로 公共事業을 앞당겨 실시하고 추경 예산으로 추가할 것, 셋째로 주택 취득의 촉진과 土地의 流動化 방안, 넷째로 確定據出型 年金 導入 등 고령화 시대의 도입을 겨냥한 年金 改革, 그리고 다섯번째가 規制의 緩和·撤廢와 高코스트 構造의 是正입니다.

5월의 버밍검 서미트 이전에 금번 綜合經濟對策의 내용이 확정되리라 봅니다만 경단련으로서는 방금 말씀드린 대책의 실현을 정부에 강력히 요구하고 국민과 기업이 장래에 대해 확신을 가질 수 있게 할 생각입니다. 일본의 景氣를 한시라도 빨리 본격적인 회복 궤도에 되돌리는 것이 外換·金融危機에 시달리고 있는 아시아 경제에 대한 최대의 공헌이 되리라 생각하고 있습니다.

3. 아시아 外換·金融危機와 日本 經濟界의 對應

일본을 둘러싼 국제환경이라는 점에서 아시아의 외환·금융문제를 언급하지 않을 수 없습니다.

작년 7월 태국 바트화의 가치 하락이 발단이 되어 일어난 아시아의 외환·금융위기는 순식간에 아시아 각지로 파급되어 한국에도 매우 어려운 시련을 안겨 주었습니다. 일본과 아시아 각국과의 긴밀한 경제관계를 생각해 보면 이번 외환·

금융위기는 그야말로 남의 일이 아닙니다. 經團連으로서도 온갖 기회를 활용하여 實態調査와 對應方案 檢討에 힘써 왔습니다. 그 일환으로 아시아의 외환·금융위기에 관한 特別檢討會를 經團連 내에 설치하여 일본기업들의 대처에 관해 조사하고 또 구체적 대책을 검토하고 있는 중입니다.

현 시점에서 저희들의 기본 입장은 세 가지로 집약될 수 있을 것입니다. 첫째로 이번 위기를 극복하기 위하여 일본이 아시아 여러나라로부터 輸入을 늘릴 필요가 있다 하여 그 중요성이 누차 지적되고 있습니다만, 이를 위해서도 우리로서는 一刻이라도 빨리 國內景氣를 회복시킬 필요가 있다는 점입니다.

經團連은 2월 상순에 '일본의 구조개혁과 경기회복에 기여하는 追加的 經濟對策을 요망한다'라고 建議하는 등 정부를 밀어 주고 있습니다만, 앞으로도 금융부문 개혁과 경영기반 강화, cooperate governance의 확립등 기업 스스로의 문제에도 예의 노력하여 일본경제를 재차 활력 있는 것으로 만들기 위해 전력을 다할 생각입니다. 아울러 일본시장에 대한 접근성(access)을 가일층 개선하는 것도 중요하다고 봅니다.

둘째로 이번 위기를 극복하기 위하여, 혹은 이러한 위기를 미연에 방지하기 위하여 해당국의 경제구조 개혁은 회피할 수 없는 문제가 되었다는 점입니다.

한국에서도 金大中 대통령의 리더쉽 하에 구조개혁이 추진되고 있습니다만, 일본 경제계로서는 技術移轉과 人材養成 등을 통하여 도움을 드릴 수 있었으면 합니다. 이를 위해서는 예를 들면 '92년에 미야자와(宮澤)-盧泰愚 회담에서의 合意에 따라 양국 경제계가 협력하여 설립한 日韓産業技術協力財團 등의 기존 조직을 십분 활용하는 것도 有益하지 않을까 사려됩니다.

셋째는 현재의 경제정세가 어렵다고는 해도 APEC에서 합의를 본 貿易·投資의 自由化·圓滑化의 움직임을 멈추어서는 안된다는 점입니다. 한국은 OECD 회원국으로서 일본과 함께 아시아 지역의 무역과 투자의 자유화·원활화를 리드하는 입장에 서 있습니다. 또 일본으로서는 일본의 국제공헌을 추진한다는 관점에서 통화 안정을 위해 엔화의 國際化에 필요한 조건정비를 하고 決濟通貨로서의 역할을 강화하는 것도 중요하다고 생각됩니다.

다음 주 토요일(4월 25일)에는 아시아의 민간경제단체의 최고 책임자를 초빙하여 「아시아 隣人會議」를 개최할 예정이며, 이 자리에서도 아시아의 국가와 지역이 직면하고 있는 危機에 대한 對應이라든지 향후 展望 등에 관하여 각국 경제계 지도자들과 대화를 나눌 생각입니다.

4. 韓國이 직면한 經濟 問題와 그 해결을 위한 日韓 協力

여기에서 한국의 경제상황에 관하여 살펴보면, 현재 한국에서는 외환·금융위기에 대처하여 國內經濟를 회복시키기 위하여 정부와 경제계가 중심이 되어 각종 대책을 실행에 옮기고 있다고 알고 있습니다.

한편 日本도 잠시 전에 말씀드렸듯이 國內景氣 回復, 금융시스템 재구축, 기업의 경영체질 강화, 발본적인 경제사회 시스템 전반에 걸친 改革 등의 문제에 직면해 있습니다. 이러한 가운데 한국의 指導者 여러분들의 강력한 리더쉽과 한국의 정치경제 시스템의 높은 機動力에 깊은 감명을 받아 왔습니다.

예를 들면 이번 외환·금융위기 시에도 IMF와의 合意가 성립되자 金大中 대통령이 취임전부터 경제위기에 적극적으로 대응하겠다는 결의를 천명하시고 국민들에게도 협력을 당부하셨습니다. 또 정부, 경제계뿐 아니라 勞組도 이에 부응하여 「勞使政 協議對策委員會」를 설치하여 구조개혁을 위한 환경정비에 힘쓰고 계십니다. 나아가서 종래의 재정경제원을 財政經濟部로 개편하고 청와대 직속 기획예산위원회를 설치하여 경제운영에 주력하는 체제를 갖추었습니다. 또 外交部와 通産部의 일부를 합병하여 外交通商部로 만드는 등 정부의 기구개혁을 대담하게 실행하여 강력한 리더쉽을 발휘하고 계십니다. 그리고 이 달 초에 개최된 "아시아·유럽 頂上會談"에서도 한국 정부가 한국의 경제 재건을 위하여 「開放化」, 「效率化」, 「民主化」를 골자로 한 3개 原則과 規制緩和 推進策을 발표하여 국제사회에 韓國 政府의 決意를 보이셨습니다.

한편 한국 경제계에서도 오늘 임석하신 여러분들의 지도하에 기업경영의 투명성을 확보하고 가일층 체질을 강화하기 위한 개선책을 적극적으로 강구하며 實施하고 계시고, 정부에게 規制 緩和·撤廢를 건의하고 계신다고 듣고 있습니다. 이처럼 한국의 여러분들은 어려운 상황을 견뎌 내면서 문자 그대로 擧國 一致 體制로 대처하고 계신 것입니다. 저는 이번 아시아 외환·금융위기가 발생한 이후 한국분들은 물론 歐美 여러나라 분들과 만나 의견교환을 하고 있습니다만, 이러한 한국의 개혁에 대한 적극적인 대처 자세는 세계 각국에서 대단히 높이 평가되고 있습니다.

이런 점들에 미루어 저는 이번 危機가 한국의 發展을 위한 새로운 발판이 될 수 있으며, 이 경제위기를 극복해 냈을 경우 국제사회 속에서의 한국의 위상은 종전이상으로 높아질 것으로 확신하고 있습니다.

이미 대우와 GM, 삼성과 포드가 提携한다는 構想이 구체화되고 있다는 報道도

나오고 있습니다. 금융·노동·외자도입·무역등 각 분야에서 제반 개혁이 추진되고 있다는 점이 그 배경이 되고 있으며, 이로 인해 한국내 法制度의 국제적 整合性과 透明性이 높아져 한국이 歐美 기업뿐 아니라 일본기업에게도 세계에서 가장 投資하기 좋은 魅力的인 국가의 하나가 되리라고 저는 봅니다. 그렇게 되면 일본기업과 한국기업의 Joint venture도 종전 이상으로 늘어나 日韓 경제관계는 더욱 긴밀해지지 않을까 생각합니다.

5. 보다 긴밀한 日韓 經濟關係의 구축을 위하여

이러한 가운데 저는 아까도 말씀드렸듯이 日韓 양국의 産業協力에 대해 더욱 內實을 기하는 것이 중요하다고 생각하고 있습니다.

한국기업은 국제적으로도 高水準의 技術力을 갖고 있습니다. 예를 들면 미쓰비시자동차와 현대자동차는 사반세기에 걸쳐서 製品의 共同企劃·生産을 계속하고 있으며, 아시아의 외환위기 속에서도 협력관계는 변함이 없고 사업은 적극적으로 이루어지고 있다고 듣고 있습니다. 또 재작년의 기조연설에서도 소개 올렸습니다만, 金相廈 회장님이 계시는 三養社가 일본기업게게는 없는 독특한 기술을 제공하여 미쓰비시商事가 資金協力을 하고 있는 파키스탄의 폴리에스터 사업을 순조롭게 추진하고 있다고 합니다.

양국간의 기술이전도 한쪽에서 다른쪽으로 單純히 傳授하는 단계는 이미 지났으며, 양국 기술자가 서로 이마를 맞대고 고생하면서 共同으로 商品開發을 하는 단계에 이르렀다고 봅니다.

또 환경·에너지 문제로 상징되듯이 선진국의 산업기술은 21세기의 세계를 지탱함에 있어서 가장 중요한 의미를 지니게 되었으며, 커다란 사업기회가 될 수도 있습니다. 따라서 우리 일본과 한국, 양국 경제인들이 技術開發을 위한 人材를 養成하고 관련 법제도를 확충하는 등의 課題를 하나 하나 해결해 나가는 것도 급선무입니다.

6. 東北亞 協力의 發展과 展望

日韓 협력의 성과는 양국뿐 아니라 아시아 지역의 발전에도 기여한다고 생각합

니다. 예를 들면 동북아에서의 日韓中 3개국의 협력을 들 수 있습니다. 저희 經團連은 全經聯과 함께 日韓 共同 訪中團을 파견하여 최근에 首相에 취임한 주룽지(朱鎔基)씨를 비롯한 중국 지도자들과 環黃海經濟圈에서의 日韓中 産業協力에 관하여 대화를 했습니다. 일본과 한국 경제계의 경험과 기업이 보유한 기술을 활용하여 중국의 環境·에너지문제 해결과 産業 高度化에 공헌하는 것도 대단히 중요한 일이라고 생각됩니다.

이러한 3개국 協力이라는 發想은 정치 외교분야에서는 좀처럼 실현되기 어려운 것이며, 經濟原理로 움직이는 經濟界이기에 共同作業이 가능한 것입니다. 따라서 앞으로는 이런 利點을 살려서 日韓, 韓中이라는 쌍무적인 형태로 추진해 온 經濟交流를 3개국 協力이라는 형태로 가져가 多者間 産業協力의 틀을 구축해 나가고자 합니다.

또 북한 정세에 관해서는 일본 경제계도 지대한 관심을 갖고 있습니다. 저는 이 多者間 산업협력의 틀을 통하여 북한도 국제적 경제활동에 참여하게 하고, 이를 통해 南北 統一을 위한 環境造成에 경제 분야로서 협력할 수 있는 것이 아닌가 생각하고 있습니다.

7. 끝으로

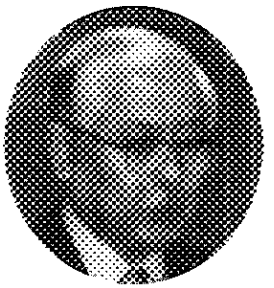
현재 일본과 한국은 모두 커다란 과제를 안고 있습니다. 그러나 한국에서는 김대중 대통령의 강력한 리더쉽 하에 한국경제의 底力을 발휘하려고 하고 있으며, 일본에서도 景氣回復과 금융시스템 안정을 위한 조치가 취해지려고 하고 있습니다. 저는 양국경제의 재건과 양국관계의 미래에 대하여 밝은 희망을 안고 있습니다.

일본과 한국 뿐 아니라 국제사회 속에서도, 일한 양국관계는 수많은 쌍무적 관계 중에서도 가장 중요한 관계 중의 하나입니다. 그런 의미에서도 본 日韓·韓日經濟人會議에게 부여되는 역할은 더욱 중요해지고 있습니다. 開會에 즈음하여 이번 회의가 많은 결실을 거두시기를 기원드리면서 基調演說로 가름하겠습니다.

경청해 주셔서 대단히 감사합니다.

全 體 會 義 ①

一般經過報告



社團法人 日韓經濟協會
專務理事　村上　弘芳

조금전 안내 말씀드린 바 있습니다만, 30년 동안 사용해온 「民間合同經濟委員會 會議」라는 명칭이 배부해 드린 설명자료와 같이 이번 第30回 會議부터 「經濟人會議」로 변경되었다는 점을 우선 보고드립니다.

그러면 一般經過報告를 말씀 드리겠습니다. 작년 4월 韓國 釜山廣域市에서 개최된 第29回 韓日・日韓民間合同經濟委員會 會議에서 합의된 각사항의 실시상황 및 관련된 양국간의 협력사업 등에 대해 報告 드리겠습니다. 그리고 4個 專門委員會의 活動狀況에 대해서는 잠시후 각 專門委員會의 日本側 委員長으로부터 報告가 있을 예정입니다.

첫째, 訪日輸出促進團의 訪日에 대한 事項입니다.

이 사업은 韓日・日韓 兩市場協議會가 주관하여 실시하고 있습니다. 양국 시장협의회의 사무국은 일본측은 日本貿易振興會가, 한국측은 韓日經濟協會가 각각 담당하고 있습니다. 작년에는 한국으로부터 6월과 11월 2회의 수출촉진단이 파견되어 63개사 78명이 東京, 大阪을 비롯한 일본 각지 延 5개도시에서 商談會를 개최하였습니다. 상담건수는 419건에 달하고, 대일수출의 확대에 공헌하였습니다.

둘째, 韓國으로부터의 産業協力團의 訪日件입니다.

방일단의 명칭은 對日輸出, 對韓技術導入 등의 촉진이라는 측면에 비중을 두어 「投資誘致團」에서 「産業協力團」으로 개칭하였습니다. 작년 7월 盧泳旭 韓國通産部 貿易委員會 常務委員을 단장으로 정부관계자 및 민간기업 30개사 57명이 방일하여 東京, 大阪 2개도시에서 일본 기업관계자에 대해서 한국의 投資環境에 대한 說明會와 개별기업과의 貿易·投資·技術商談會를 개최하였습니다. 投資說明會에는 東京, 大阪에서 320명이 참가하였고, 商談會는 東京, 大阪에서 131개사, 188건의 실적을 올렸습니다. 또한 本産業協力團의 수용에 있어서는 日韓經濟協會가 중심 후원단체가 되어 日韓産業技術協力財團, 日本貿易振興會, 日本商工會議所 등의 협력을 얻었습니다만, 그 외 關係通産局, 都府縣의 지원과 大韓貿易投資振興公社(KOTRA) 일본지부의 적극적인 지원활동이 있었습니다.

셋째, 産業技術協力財團의 事業에 대해서 입니다.

양국 産業技術協力財團에 의한 日韓産業技術協力의 事業은 1993년부터 개시되어 5년이 경과되었습니다. 그 동안 양국의 정부, 관계경제단체 및 기업 등의 많은 분들로부터 다대한 지원과 협력을 받으면서 활동을 계속해 왔습니다. 작년도 日本側 財團은 산업기술 인재육성의 사업을 305명에 대해 실시하여 과거 5년간의 누계는 1,474명이 되었습니다. 또한 생산성향상 협력사업 등을 36개사에 실시하여 과거 5년간의 누계는 104개사가 되었습니다. 産業技術交流밋션의 수용, 세미나 및 테크노마트의 기술상담회 개최, 조사홍보 등의 여러 가지 사업을 수행하였습니다. 이들 사업을 실시하는데 있어서 海外技術者硏修協會(AOTS), 科學技術國際交流센타(JISTEC), 北九州國際技術協力協會(KITA) 등에 위탁하여 협력을 받았습니다. 韓國側 財團은 산업기술인력연수를 283명, 부품산업협력지원으로서 11건, 26명을 실시한 것 외에, 전문분야별 세미나, 산업협력단 파견, 각종 조사 등의 사업을 하였습니다. 금년도 한일재단사업의 대행기관수는 전부 20개 기관에 이르고 있고, 이 가운데 예산점유율이 높은 대행기관은 中小企業振興公團, 韓國科學財團, 生産技術硏究院 등입니다. 또한 兩財團의 사업 가운데 6개의 사업은 韓日·日韓 兩財團의 공동사업으로 실시하였습니다. 이상과 같은 兩財團의 사업성과에 의하여 한국 中小企業의 산업기술인재의 육성과 회사·공장의 경영관리 개선이 도모되고, 그 결과는 소위 서포팅·인더스트리의 생산·기술력 향상에 도움이 될 것으로 생각됩니다.

넷째, 中小企業의 技術提携 斡旋事業에 대해서 입니다.

본건은 한국측 韓日經濟協會를 창구로하여 일본측 日韓經濟協會가 알선사업의 수용측으로하여 1983년부터 활동해 왔습니다. 금년 2월, 한국의 전기, 전자, 금속 업종의 3개사(전년도는 10개사)로부터 제조기술을 중심으로한 기술이전 요망이 제출되었습니다만, 본사업의 과제인 한국측의 기업정보, 상세한 기술이전 희망내용등 검토에 필요한 자료제공을 받아 사무국이 경영자와 면담, 알선의뢰기업을 吟味·엄선하는 방법을 한국측에 요청하였습니다. 이와 병행하여 일본측 기술이전 희망기업의 회사개요를 송부하고, 사무국이 검토하는데 참고로 하고 있습니다만, 작년에 이어 성과는 거두지 못하고 있습니다.

다섯째는 經濟人交流促進事業에 대해서 입니다.

이 사업은 1989년에 「中堅經營人交流促進團」으로서 제1회를 개최한 이래 주로 일본에서 개최하여 왔습니다만, 1995년에 「經濟人交流促進團」으로 명칭을 변경, 韓國 江原道 龍平에서 한국개최로서는 2회째, 통산 7회째가 개최되었고, 1996년에는 제8회가 일본에서 개최되어 한국측에서 33개사 34명이 방일하여, 경제인 예방, 산업시설 견학, 일본의 톱경영인 초청강연회, 경제전문가 초청세미나 등을 실시한 바, 이를 계기로 양국 중견경영인간의 상호이해와 교류증진에 큰 성과를 거두었습니다. 작년에는 10월에 麻生 泰 麻生시멘트 社長을 단장으로하는 第9回 經濟人交流促進團의 파견을 계획하고 있었습니다만, 직전에 한국측의 사정에 의해 중지되었습니다.

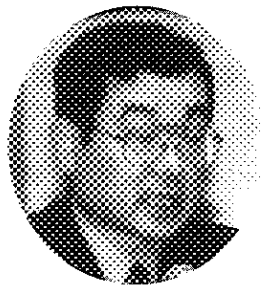
마지막으로 青少年交流事業에 대해서 입니다.

本件 事業은 앞서 말씀드린 經濟人交流事業과 함께 韓日·日韓 兩經濟協會만이 하고 있는 사업입니다. 1985년 이후 여름방학을 이용하여 실시되고 있는 青少年交流事業에 있어서는 작년에 韓國으로부터 40명이 訪日하였고, 日本에서는 28명이 訪韓하였습니다. 한일 양측의 학생이 7박 8일간의 滯在기간중에 민박, 양국 학생교류, 사적이나 문화·산업시설의 견학을 통하여 폭넓은 상호이해와 우호친선을 깊게 할 수 있었습니다.

이상으로 經過報告를 마치겠습니다.

〈全體會議①〉

韓日 · 日韓貿易投資委員會 報告



日韓貿易投資委員會
委員長　小島　幹生

제24회 한일 · 일한무역투자위원회는 한국측에서 황두연 위원장 이하 위원 22명, 일본측에서 小島 위원장 이하 위원 16명, 계 38명이 참가하여 작년 9월 25 · 26 양일에 걸쳐 서울 인터콘티네탈호텔에서 예정대로 개최되었습니다.

일부러 예정대로라고 말씀드리는 것은 본위원회의 한국측 위원장으로 본회의를 주최하고, 意義 깊은 회의가 되도록 열의를 다해 주셨던 유득환 위원장께서 병환으로 쓰러지시는 슬픈 일이 있어 회의 개최가 어렵게 되었기 때문입니다. 다행스럽게 황두연 현위원장의 결단으로 예정대로 개최할 수가 있었던 것입니다.

의장으로서 훌륭하게 위원회를 주최하고, 회의를 성공적으로 이끌어주신 황두연 위원장님께 감사 말씀을 드리는 바입니다. 참으로 유감스럽게도 유득환 전위원장께서는 회의 종료를 끝으로 작년 9월말에 작고하셨습니다. 여기서 다시한번 보고드리면서 故人의 冥福을 기원드립니다.

이하 무역투자위원회의 개요를 보고 드리겠습니다.

회의는 『무역』 및 『투자』라고하는 不可分한 2개의 큰 테마에 대해 양국간의 양적 질적확대책을 논의하였습니다.

(A)『투자』분야

「벤처기업에 대한 상호투자문제」
「동남아시아 통화혼란과 홍콩반환 후의 중국에 대한 양국기업의 대응」

(1) 새로운 시점에서 벤처기업과 캐피탈을 들어「벤처기업에 대한 상호투자문제」를 테마로 한일쌍방의 전문가위원으로부터 말씀을 듣고, 그것에 기초하여 의견을 교환하였습니다.
결론으로써 금후 양국경제의 가일층 활성화를 위해 벤처·비지니스의 창업의 환경만들기와 발굴·육성이 매우 중요하다는데 인식을 같이하였습니다.

(2) 다음으로 태국을 진원으로한 당시 진행되고 있었던『동남아시아의 통화혼란과 홍콩반환 후의 중국에 대한 양국기업의 대응』에 관한 논의를 하였습니다.
우선 복수의 일본측 위원으로부터 견해 발표가 있었고, 이를 중심으로 논의가 전개되었습니다. 아시아에 있어서 통화혼란과 이에 대한 지역경제변화의 대응에 있어서는 한일양국 산업계의 상호협력의 의의를 다시한번 인식하고, 대처해야할 것이라는 결론에 이르렀습니다.

(B)『무역』분야

「전자상거래의 무역확대로의 영향」
「일본의 조달시장에 관한 공동세미나 개최」

(1) 「전자상거래의 무역확대로의 영향」이라고하는 한국측 위원회의 의욕적인 제안에 따라 한국측 위원의 견해를 듣고, 양국 위원으로부터 질문과 코멘트를 발표하는 형식으로 논의를 진행하였습니다.
위원회의 결론으로 전자상거래라고하는 미래지향적인 테마를 채택했다는 것에 대해 높이 평가하면서, 전자상거래는 아직 초기발전·개발단계이고 이러한 새로운 시스템을 전면적으로 채용하고 활용하는데는 상당한 시간과 노력이 필요되며, 무역확대의 영향에 대한 평가에 대해서는 검토를 필요로한다고 하는데 인식을 같이하였습니다.

(2) 다음으로 양국의 무역확대책의 일환으로 한국측 위원회로부터 제안이 있었던 「일본의 정부조달시장에 관한 공동세미나 개최」에 대한 토론이 있었습니다.

일본에서는 정부조달은 各省廳·자치단체가 각각 독자적으로 실시하고 있고, 민간에서는 충분한 지식을 갖고 있는 전문가도 찾기가 어렵기때문에 세미나 개최 가능성에 관해서는 앞으로 양국 위원회에서 계속 협의를 해가기로 했습니다.

(3) 『자유토론』

(1) 한국으로의 활발한 외자유치를 위해서는 정부 및 민간의 양레벨에서의 규제완화와 경제시스템의 개선에 대한 대화의 필요성이 일본측 위원으로부터 제시되었고, 또한 한일경제 관계의 긴밀화책의 일환으로 한국기업은 일본 특정지역(예로 지리적으로 매우 가까운 구주지역) 기업과의 연대강화 도모의 유효성이 지적되었습니다.

(2) 한국측 위원으로부터는 재한국외국기업은 주재원을 포함 가급적 한국의 상관습과 문화를 이해하고, 존중하는 상호주의의 원칙에 따라 활동하는 것이 경제관계 강화에 연결되는 것이라는 지적이 있었습니다.

차기 회의인 제25회 한일·일한무역투자위원회는 금년 일본에서 개최하고, 상세한 것은 양국사무국에 일임하는 것으로하여, 이상을 내용으로한 각서교환 후 회의를 종료하였습니다.

〈全體會議①〉

韓日・日韓機械工業委員會 報告

日韓機械工業委員會
委員長　大慈彌省三

지금 소개받은 기계공업위원회의 일본측 위원장을 맡고 있는 石川島播磨重工業(株)의 大慈彌입니다. 기계공업위원회의 활동상황에 대해 보고드립니다.

제23회 기계공업위원회 합동회의는 작년 5월 16일, 서울에서 양측위원 50명이 참가한 가운데 개최되었습니다.

의제발표는 한국측 과제가 2개, 일본측 과제가 1개였습니다. 한국측의 제1발표는 대우경제연구소의 崔圭善 연구원의 「한국기업의 해외직접투자확대와 기계업계의 과제」라는 주제로 발표되었습니다. 기계업계의 수주생산, 기술집약적 자본재라는 상품의 특성상 해외생산의 이점이 별로 없었으나, 장래에는 기계업계에서도 해외진출이 증가할 것으로 예상됩니다. 해외생산이 성공하기 위해서는 기술개발 능력, 부자재조달 능력, 마케팅 능력등 종합능력의 강화가 필요하며, 이를 위해 일본의 종합상사와 제휴를 적극적으로 해야 한다는 지적이 있었습니다.

한국측의 제2발표는 산업연구원의 하재영 박사의 「전문용도 자본재기계의 경제효율 증대」라는 주제였습니다. 전문용도 자본재기계업계에서는 수주, 생산, 판매의 각단계에서의 경제적 부담을 줄이기 위해 수요자와 공급자간의 협력체제가 필요불가결이며, 특히 인간관계가 중요합니다. 이러한 협력체제는 한일양국의

업계에도 성립하며 상호 특기분야에서 수평적인 분업체제 및 ISO시리즈 등의 기계류 규격화 및 표준화설정 등에서 협조해야 된다고 말씀하였습니다.

일본측에서는 石川島播磨重工業(株)의 朝來野 泰宏 取締役의 「중기계업계에서의 해외조달전략」이라는 주제 발표가 있었습니다. 해외조달 전략전개는 세계적인 분업체제와 네트워크의 구축이며, 이를 위해 그룹 외의 제휴사와 대등하고 또한 상호의존 관계가 강한 「이코르 파트너십」의 조직이 요구되고 있다고 말씀하셨습니다. 「글로벌 네트워크 구축」, 「상품의 차별화」, 「경영의 스피드화」의 3개 요소가 글로벌, 보더레스 경쟁시대의 키워드라고 말씀하셨습니다.

일본측 발표는 한국측의 관심이 많았으며 「한국기계류가 일본에서 어떠한 평가를 받고 있는가」, 「일본의 기계업계에서 한국제의 비중을 높이기 위해 무엇이 필요한가」, 「한일양국간의 글로벌적인 분업체제는 구축가능한가」등의 질문·의견이 있었습니다.

계속하여 주제의 설정없이 양측의 위원이 개인입장에서 자유로이 발언하는 「의견발표」가 있었습니다. 이는 '96년 제22회 기계공업위원회 합동회의에서 향후 본회의는 상호기업간, 위원 개인간의 자유로운 정보교환 및 발표의 장소로 한다는 방침이 제시된 이후 최초의 일입니다. 한국측에서는 기술인재의 효율적인 육성에 관해 일본정부, 기업의 계획 및 자격제도, 퇴직 기술자의 인재활용제도 등에 대한 의견이 있었습니다. 한편으로 일본측에서는 작년 4월에 출판된 한국경제의 여성연구가의 저서에서 한국 산업용기계부문의 향후 과제는 숙련 형성이 필요하다는 설을 인용하였습니다. 처음으로 실시된 관계로 인해 주제의 편중과 일방통행이 없지 않았으나, 시간제약을 생각하면 비교적 좋은 평가를 할 수 있습니다.

작년의 합동회의는 한일양국의 기계공업위원회에 매우 유익한 회의였으며, 이 자리를 빌어 동회의에 참석하여 주신 양측위원 여러분에게 감사 말씀드리며, 제23회 한일·일한기계공업위원회의 보고를 마치겠습니다.

감사합니다.

〈全體會議①〉

韓日・日韓中堅中小企業委員會 報告

日韓中堅中小企業委員會
委員長　　菅 野　利 德

전국중소기업단체중앙회의 菅野(칸노) 입니다. 한일중견중소기업위원회의 일본측 위원장을 금년 1월부터 맡게되었습니다. 최근 한국측도 이원택 위원장에서 이원호 위원장으로 바뀌었습니다. 앞으로도 여러분의 많은 성원과 지원을 부탁드립니다.

그러면, 중견중소기업위원회의 활동개요에 대해 보고 드리겠습니다. 제16회 한일・일한중견중소기업위원회 합동회의는 금년 3월 17일, 18일 2일간에 걸쳐 대한민국 서울특별시에서 양국으로부터 34명의 위원이 참석한 가운데 개최되었습니다. 이번 회의에서는 (1) [벤처기업 육성책], (2) [업종별 단체간 교류], 그리고 (3) 참가자의 자유토의로써 [이업종교류]의 3개 공통의제에 관한 논의가 있었습니다.

첫 번째 의제인 [벤처기업]에 관련하여 한국측으로부터는 중소기업연구원의 서건일씨가 [한국의 21세기 벤처비지니스 활성화 방안]이라는 제목으로 또, 일본측으로부터는 요꼬하마 시립대학 상학부 교수인 요시가와 도모미찌(吉川智教)씨로부터 [일본 벤처기업의 현황과 육성정책 - 일한벤처기업 교류]라는 제목으로, 양국의 대응 현황에 대한 소개가 있었습니다. 위의 두분께서는 벤처기업은 일종의 붐으로서 각광을 받아 탄생하고 있지만, 제도적 시스템의 미정비, 지원시책의 불

충분 등의 이유에서 아직 경제 활력을 끌어내는데는 뿌리내리지 못하고 있다는 현황을 지적하셨습니다.

특히, 서건일씨께서는 한국에서 1997년 8월에 [벤처비지니스 육성에 관한 특별조치법]이 제정되고, 또 김대중 신임 대통령도 벤처시책의 강화를 표명하고 있음을 말씀하셨습니다. 아울러, 요시가와(吉川) 교수도 일본의 개폐업율의 동향을 소개하면서 벤처에 대하여는 경제활성화와 고용확보라고 하는 면에서 기대가 크며, 벤처기업 육성에 관해 미국에서는 대학을 핵으로하여 SBDC(SMALL BUSINESS DEVELOPMENT CENTER)라는 기관에 개인투자가, 변호사, 회계사, 상담역, 벤처캐피탈 등을 집결시켜 종합지원을 하고 있음을 소개하고, 향후 일한 벤처 관계자가 상호교류 및 의견교환을 할 기회를 갖기를 기대한다고 밝히셨습니다.

두 번째의 업종별 단체간 교류로서는 한국레미콘공업협동조합연합회 및 일본전국 생콘크리트공업조합연합회의 사이에 교류가 있었습니다. 양단체는 지금까지도 제13회 합동회의를 계기로 상호방문, 정보교류를 실시한 적이 있지만, 이번의 재교류로 정보·자료교환의 계속 및 오는 6월의 방일 밋션의 수용 등에 대해 합의하였습니다. 회의 다음날에는 일본측 참가자 전원이 서울 근교의 레미콘 공장을 견학하였습니다.

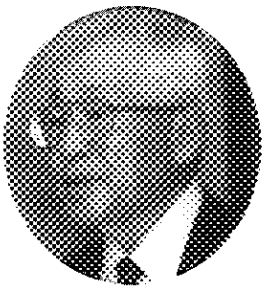
마지막 자유토의 시간에는 한국측 김영수 전자공업협동조합 이사장의 [이업종 교류의 중요성과 일한공동협력 방안의 모색]이란 문제제기로 의견교환이 있었습니다. 한국측 이업종 교류는 일본의 대응실태 등을 참고로하여 시발되었으며, 현재 한국내의 이업종 교류를 더욱 확대코자 하는 계획이 진행되고 있으며, 이와 관련하여 향후 양국간의 이업종 교류등 협력관계를 강화하고 싶다는 취지의 의견이 있었습니다. 이에 대해 이노우에 가즈도시(井上和俊) 일본상공회의소 서울사무소장 등으로부터 일본상공회의소의 '96년도의 설문조사 결과 등을 근거로, 일본의 이업종 교류 현황을 소개하였는 바, 많은 경우가 일정지역내의 사업자간의 거리낌없는 교류로서 행해진다는 것과 최근에는 신규그룹의 결성이 정체경향에 있다는 것 등이 지적되었습니다. 이업종교류에 관해서는 한·일간에 이미 몇 개의 정보교환 채널이 있기 때문에 이와 같은 채널을 통해 상호 정보교환에 힘쓰는 일이 중요하다고 하는 인식에 일치하였습니다.

마지막으로 본회의에 출석하신 양측위원 여러분께 다시한번 감사말씀 드리며, 중견중소기업위원회 합동회의의 경과보고를 마치겠습니다.

감사합니다.

〈全體會議①〉

韓日・日韓産業一般委員會 報告



日韓産業一般委員會
委員長　渡里杉一郎

日本側 委員長 東芝・ 渡里입니다. 産業一般委員會의 活動狀況에 대해 報告드리겠습니다.

産業一般委員會는 韓日兩國間의 共通된 經濟問題 가운데 既存의 貿易投資, 機械工業, 中堅中小企業의 3個 委員會 所管 以外의 問題에 대하여 討議・情報交換等을 실시할 目的으로 設置되어 1990年부터 活動을 시작하였습니다.

本 委員會에서는 過去 3가지 테마 즉 「韓日産業技術協力의 方向」, 「韓日環境問題의 現況과 産業界의 對應」, 「投資環境으로써의 韓國의 勞使問題」에 대하여 調査硏究를 실시하고, 그 成果는 本 韓日經濟人會議에서 報告드린 바 있습니다.

1996年 2月에 開催된 第4回 産業一般委員會 合同會議에서는 4번째 테마로 勞使關係調査는 이미 완료되어, 『勞使問題 以外의 投資環境要因』을 調査키로 합의하고, 兩事務局은 調査의 推進方法 等에 대해 協議를 해 왔습니다. 그 동안의 추진경위에 대해서는 昨年 釜山 會議에서 趙錫來 韓國側 委員長으로부터 報告된 바 있습니다.

釜山會議 開催後 韓國側으로부터 「勞使關係 以外의 投資環境要因」에 대한 具體的인 調査方法等 推進計劃이 日本側에 提示되었습니다. 이를 수용하여 日本側委員會는 推進方法 等을 檢討한 結果, 今年은 지금까지의 韓日合同 TASK FORCE 方式이 아닌 個別로 推進하는 方案을 韓國側에 提案하였습니다. 兩國調査의 目的은 日本側은 直接投資에 限定하지 않고, 새로운 時代에 대응하는 韓日協力關係를 모색하는 것으로 하였으며, 韓國側은 外國人 投資企業으로 하여금 對韓投資에 대한 意慾을 고취시킬 수 있는 方向을 모색키로 하였습니다.

(今日 配付해 드린 것이 그 報告書입니다.)

목표한대로 되었는가는 읽어보시고 忌憚없이 意見을 말씀해 주시면 感謝하겠습니다.

韓國側, 日本側 各各의 報告書 作成까지의 경위에 대해 간단하게 報告드리겠습니다.

韓國側은 앞서 말씀드린 目的을 달성하기 위해 亞太企業諮問硏究所의 李潤鎬 社長을 팀장으로한 實務委員會의 TASK FORCE를 構成하여, 韓國投資市場에 대한 3차례의 檢討會를 거쳐 問題點에 대한 綜合的인 制度改善策을 提案하게 되었습니다. 잘 아시는 바와같이 IMF事態로 인한 變革이 外國人投資促進에도 매우 바람직한 方向으로 움직이고 있는 것으로 分析됩니다.

日本側은 國內委員會 멤버企業을 중심으로 主要産業을 代表하는 9個社에 執筆을 依賴하였습니다. 今番 4月부터 靑山學院大學 經濟學部 助敎授로 活動하게 되신 當時 長銀總硏 主任硏究員인 深川由起子씨의 諮問을 받으면서 各社로 부터 協力事例에 대한 자료를 要請받았습니다. 日本側의 各論은 韓國어프로치에 대한 各社의 具體的인 事例와 各各의 經驗, 그리고 생각을 중심으로 記述하였습니다. 또한 어드바이저인 深川由起子씨와 함께 執筆者 全員은 課題와 題言에 대해 論議한 後, 深川씨께서 總論을 정리해 주셨습니다.

꼭 한번 읽어주실 것을 부탁드리오며, 특히 바쁘신 분께서는 日本側의 總論部分과 韓國側의 要約部分만이라도 읽어주실 것을 당부드립니다.

IMF事態로인해 産業一般委員會는 合同會議를 開催하지 못하였습니다만, 兩側委員長은 테마 發表方法(報告書 作成方法等)과 다음 年度의 테마 選定을 文書로 合意 確認하였습니다.

今番은 共通의 테마를 對象으로 兩側이 各各 獨自의 立場에서 考察해야할 內容으로 兩國의 報告書를 各各 그대로 發表하는 것으로 하였으며, 아울러 共同의 檢討會等은 開催하지 않았습니다.

以上으로 韓日産業一般委員會의 活動報告를 마치겠습니다.

感謝합니다.

第 1 分 科 會

(貿 易 關 聯 分 野)

〈코디네이터〉

韓國側 : 李　吉　鉉　(株)HOTEL新羅 社長
日本側 : 麻生　　泰　麻生시멘트(株) 社長

〈第 1 分科會 백그라운드 페이퍼〉
(貿易關聯分野)

韓·日 貿易의 現況과 經濟協力 方向

對外經濟政策研究院
責任研究員 程 勳

방금 사회자로부터 소개받은 對外經濟政策研究院의 程 勳입니다. 오늘 第30回 韓日·日韓經濟人會議 미야자키(宮崎) 會議에서 韓日 兩國의 經濟界 指導者 여러분을 모시고 말씀드리게 된 것을 대단한 榮光으로 생각합니다.

1965년 國交 正常化 이후 韓·日 양국은 經濟面에서 政府次元의 協力을 크게 확대해 왔으며, 오늘 열리고 있는 韓日·日韓經濟人會議와 같은 民間會議를 통하여 양국 經濟界 人士들의 交流를 增進시켜 왔습니다. 특히 本 會議는 韓日兩國의 貿易關係를 다각적인 측면에서 분석하고 이를 바탕으로 하여 상호간의 協力方向을 모색하는 場을 제공해 왔다고 생각합니다.

오늘 저는 양국간 국교정상화 이후 30여년의 역사를 갖는 兩國의 貿易關係를 개관함과 아울러 懸案問題를 검토하고 양국의 經濟協力 方向을 찾아보는 순서로 말씀을 진행하겠습니다.

1. 韓日貿易의 現況

韓日貿易은 1965년 이후 지금까지 점진적인 확대의 과정을 걸어왔습니다. 兩國間의 全體貿易量은 1965년 2억 달러의 수준에서 1980년에는 88억 달러, 그리고 1996년에는 472억 달러의 수준으로 크게 증가했습니다. 특히 1996년의 경우 日本은 韓國輸出總額의 12.2%를 차지하여 16.7%인 美國 다음으로 큰 비중을 차지하고 있고, 韓國의 輸入에 있어서도 총액의 20.9%를 차지함으로써 22.1%인 미국 다음의 지위를 점하고 있습니다.

이렇듯 양국간의 貿易은 외관상으로는 확대일로를 걷고 있다고 할 수 있지만 그 내용을 보면 균형된 모습을 갖고 있지 않습니다. 다시 말해서 한국은 韓·日國交正常化 이후 계속해서 日本에 대해 赤字를 보이고 있는 것입니다. 비록 일시적으로는 적자폭이 감소되는 경우도 있었으나 1996년 현재 156억 달러의 적자로 여전히 만성적인 적자에서 벗어나지 못하고 있습니다.

특히 1985년 플라자합의 이후의 엔高현상으로 價格競爭力面에서 적지 않은 이점을 누렸던 한국제품은 95년 이후의 지속적인 엔低현상으로 그 國際競爭力이 크게 저하되는 어려움을 겪었습니다.

또한 한국의 對外總交易 중 日本과의 總交易이 차지하는 비율은 1965년 이후 계속해서 저하되어 왔습니다. 이러한 현상은 한국의 輸出·入 對象國이 점차 多邊化되고 있는 증거라고 볼 수 있으므로 바람직한 현상이라 할 수 있지만, 그간 계속해서 증가해 온 양국의 교역규모가 1996년을 분기점으로 감소로 돌아섰다는 사실은 대단히 우려할 만한 일이라 하지 않을 수 없습니다.

그런데 앞에서 말씀드린 한국의 계속적인 對日 貿易赤字 累積의 원인으로는 다음 몇 가지를 들 수 있겠습니다.

첫째로는, 韓國經濟의 高度成長 과정에서 성장에 필요한 資本財 및 中間財의 對日依存度가 높았던데 그 원인을 찾을 수 있습니다. 둘째로는, 韓國 輸出商品의 競爭力이 취약한 데 그 원인을 찾을 수 있으며, 셋째로는 韓國業界의 日本市場 開拓努力이 부족했던 데 그 원인을 찾을 수 있습니다. 이들 세 가지는 모두 對日貿易赤字 累積의 원인을 韓國의 內部에서 찾고 있다는데 공통점이 있습니다.

그러나 이들 한국측 요인들 이외에 네 번째로는 1990년대 들어 日本經濟가 극도의 침체상태에 빠진 것을 들 수 있습니다. 日本은 지속적인 經常收支黑字 현상으로 인해 美國 등으로부터 내수진작의 압력을 계속해서 받아왔습니다. 그러나 그 동안의 간헐적인 景氣浮揚 대책에도 불구하고 현재의 일본경제는 회복이 불투명한 상태에 있습니다. 심지어는 1997년과 1998년의 실질GDP성장률이 마이너스를 기록할 것이라고 예측한 민간연구소도 있을 정도입니다.

이러한 日本經濟의 低成長 추세는 일본의 輸入需要를 약화시키고 그로 인해 한국의 對日輸出에도 적지 않은 영향을 미칠 것으로 예상됩니다.

다섯째로는 일본의 제품수입 비중이 낮고, 일본시장이 폐쇄적인 성격을 띄고 있는 점을 들 수 있으며, 마지막으로는 일본이 부메랑효과를 두려워하여 韓國에의 技術移轉에 소극적이었던 점을 들 수 있겠습니다.

2. 韓日貿易의 현안

앞에서 韓日貿易의 현황에 대해 살펴보았지만 양국의 貿易에는 해결되어야 할 몇 가지 懸案들이 존재하고 있습니다.

우선 한국측의 입장에서 볼 때는 크게 보아 이미 언급한 貿易不均衡 문제뿐 아니라 GSP(特惠關稅)制度의 철폐문제가 있을 수 있겠고, 일본측의 입장에서 볼 때는 輸入先多邊化 문제가 현안으로 되어 있다고 할 수 있습니다.

우선 1971년부터 운용되어 오고 있는 日本의 GSP제도는 선진국 중에서 가장 까다롭고 또한 그 공여의 폭도 대단히 좁다고 알려져 있습니다. 한국의 경우 1998년 4월 현재까지 일본 GSP제도의 혜택을 받고 있으나 일본은 한국의 OECD 가맹을 이유로 머지않은 장래에 한국을 수혜대상국으로부터 완전히 제외시키려는 움직임을 보이고 있습니다. 현재 日本은 IMF기준에 따라 1인당 國內總生産이 9,386달러 이상인 국가를 대상으로 對日輸出額이 연간 1억 달러를 초과하거나 日本市場 占有率이 25% 이상인 품목에 대해 GSP제도의 적용을 중지한다는 원칙을 세우고 있습니다. 이러한 기준에 따른다면 한국의 1인당 국내총생산은 1996년에

1만 달러를 넘어섰으므로 당연히 GSP제도의 수혜대상국으로부터 제외되어야 할 것입니다. 그러나 한국의 일각에서는 1998년에는 경기부진과 원화가치 하락으로 9,000달러 이하로 떨어질 것이므로 GSP제도가 계속 유지되어야 한다는 주장도 있습니다. 日本國內에서 對韓 GSP공여 제외의 문제는 주로 民間業界를 중심으로 논의되어 온 경우가 많았으므로 GSP제도 적용연장의 문제는 다른 개도국과의 조화를 생각하면서 민간업계가 한국의 의견에 귀를 기울여야 할 것으로 생각됩니다.

다음으로 輸入先多邊化制度는 한국이 만성적인 貿易赤字를 개선하고 국산제품을 보호하기 위해 1978년 도입한 일종의 수입규제제도입니다. 이 제도에 대해서는 이 제도가 명목상으로는 세계 모든 국가를 대상으로 하지만 실제로는 輸入超過額이 많은 日本을 대상으로 하고 있다고 하여 일본으로부터 그 동안 많은 이의제기가 있었습니다.

그런데 한국은 1997년 12월 IMF와의 합의에 기초하여 그 동안 시장규모가 커 규제대상이 되어 왔던 자동차, 컬러 TV, 이동전화기, 전기밥솥 등의 품목들에 대해서도 가급적 빠른 시일내에 수입선다변화제도를 폐지키로 결정했습니다. 본래는 2000년 1월로 예정돼 있었던 수입선다변화제도의 폐지시기가 1999년 6월로 앞당겨지면서 개방에 대한 대비책을 미처 세워놓지 못한 해당업계는 이로 인해 적지 않은 타격을 입을 것으로 예상되고 있습니다.

3. 韓日投資 및 技術交流의 現況

이번에는 앞에서 설명한 貿易 이외에 韓日간에 이루어지고 있는 直接投資와 技術移轉의 문제를 간단히 살펴보겠습니다. 사실 한국이 일본에 대해서처럼 大規模의 貿易赤字를 기록하지 않고 있는 美國이나 EU(유럽연합)와의 관계에 있어서는 이러한 직접투자나 기술이전이 그다지 중요한 문제라고는 할 수 없을지도 모릅니다. 그러나 日本과의 관계에 있어서는 직접투자나 기술이전의 문제가 지극히 중요한 문제로 제기될 수 있다고 봅니다. 그 이유는 앞에서 말씀드린 바 있는 막대한 對日 貿易赤字가 상당한 정도로 아직 기술수준이 저열한 상태에 있는 한국에 대해 일본으로부터의 直接投資와 技術移轉이 충분히 이루어지지 않았던데 기인하고 있기 때문입니다.

우선 韓日간의 直接投資를 살펴 보면, 한국의 對日投資 그리고 일본의 對韓投資가 공히 1996년을 계기로 축소되는 경향을 보이고 있습니다. 한국의 對日投資의 경우 投資額 기준으로 1992년과 1995년에 각각 전년에 비해 327%, 81.0%의 대폭적인 증가를 보였으나 1996년에는 -22.9%로 돌아섰습니다. 또한 일본의 對韓投資도 1993년과 1994년에 각각 84.5%와 49.7%의 증가를 보였으나 1995년 이후에는 감소현상을 보이고 있습니다. 특히 세계전체의 한국에 대한 直接投資가 1995년과 1996년에 걸쳐 크게 증가했음에도 불구하고 일본의 對韓投資가 감소한 것은 주목할 만한 사항이라 아니할 수 없습니다.

최근에 이르러 이렇게 양국간의 직접투자가 부진하게 된 것은 일본의 경우에는 높은 생산코스트(임금, 지대 등)와 복잡한 流通構造 및 商去來 慣習, 그리고 市場의 閉鎖性 등에 기인하고 있는 듯 합니다. 또한 한국의 경우는 높은 생산코스트, 그리고 복잡한 행정절차 및 생활환경의 미비 등에서 기인하고 있다고 말해지고 있습니다.

다음으로 技術移轉에 대해 살펴보겠습니다.

韓日간의 技術交流에 있어서는 韓國은 주로 日本으로부터 技術을 導入하는 受惠國의 입장에 있다고 할 수 있습니다. 현재 한국에 있어 日本은 기술도입 건수에서 최대의 技術導入對象國의 지위를 차지하고 있습니다. 한국의 對日 技術導入은 매년 조금씩 줄어들고 있는 추세에 있지만, 아직도 件數基準으로는 전체의 40% 전후, 金額基準으로는 30% 전후를 차지하고 있는 것으로 알려져 있습니다. 그리고 한국의 對日 기술도입에 있어 두드러진 특징이라 할 수 있는 것은 導入件數는 줄어들고 있으나 支給額은 오히려 증가하고 있다는 점입니다. 예를 들면, 1996년의 경우 對日 기술도입 건수는 41건으로 1995년의 69건에 비해 감소했지만 기술료지급액은 7억 2,400만 달러로 1995년의 6억 9,500만 달러에 비해 오히려 증가했습니다.

4. 經濟協力 方向

지금까지는 韓日간에 이루어져 온 貿易, 投資, 技術移轉의 문제에 대해 그 개괄

적인 내용을 살펴보았습니다. 그러면 이제부터 이러한 韓日간의 經濟交流 現況을 바탕으로 兩國의 懸案問題를 해결하고 앞으로 보다 바람직한 經濟協力關係를 설정해 나가기 위해서는 양국이 어떤 노력을 경주해 나가야 할 것인가에 대하여 말씀드려 볼까 합니다.

첫째로, 韓日간의 貿易에 있어 가장 큰 문제점인 만성적인 貿易不均衡 問題를 해소하기 위해서는 한국의 경우 가능한 한 對日輸出을 늘리면서 對日貿易赤字를 줄여갈 수 있는 방안을 적극 모색해 나가야 할 것입니다. 특히 앞서 말한 바 있는 「輸入先多邊化制度」의 폐지로 인해 발생할 지도 모르는 對日貿易赤字의 급증에 대비하기 위해서도 한국은 貿易構造 개선을 위한 産業構造調整에 힘써야 할 것입니다. 한편 일본의 경우에는 최근 國內景氣의 침체로 야기된 輸入減少를 가능한 상쇄하기 위해 적극적인 景氣浮揚策을 써야 할 것입니다. 특히 위축된 投資心理와 經營者心理를 되살리기 위해서도 여기 참석하신 경제인 여러분의 역할이 중요하다고 생각됩니다. 일본정부는 이미 지난 3월 26일 국내경기의 회복을 위해 지금까지 집착해 온 均衡財政政策에서 과감한 政策轉換을 하겠다는 방침을 밝힌 바 있어 그 시기와 실행방법이 주목되고 있습니다.

둘째로, 韓日간의 미진한 投資를 확대시키기 위해서는 양국기업이 진출하는데 장애가 되는 요소들을 제거해 나가야 할 것입니다. 이와 동시에 投資促進을 위한 政策開發과 投資環境의 개선을 위해 노력하고 자국에 대한 보다 적극적인 홍보에도 힘써야 할 것입니다. 한국의 경우 IMF 구제금융 이후 外國人投資를 활성화시키기 위해 여러 조치를 강구했습니다. 外國資本에 의한 국내기업의 적대적 M&A를 허용했고 또한 외국인이 자유롭게 국내의 토지를 소유할 수 있도록 했습니다. 지금 한국은 外資不足의 상태에 있기 때문에 외국자본, 그 중에서도 특히 日本資本을 절실히 필요로 하고 있습니다. 앞에서 말씀드린 貿易뿐만 아니라 投資에 있어서도 경제인 여러분의 적극적인 역할이 기대됩니다.

셋째로, 韓日간의 技術交流를 보다 활성화하기 위해서는 기술측면에서 이미 선진대열에 들어선 일본이 한국에 대해 적극적인 기술이전을 수행해야 할 것입니다. 지금까지 일본은 한국에 대해 다른 어떤 나라보다도 많은 기술이전을 해 왔던 것이 사실입니다. 그러나 앞에서 말씀드린 만성적인 對韓貿易黑字를 줄여가기 위해서도 일본은 한국에 대한 기술이전이 불가피한 실정에 있습니다. 한국에

서도 自體 技術開發과 더불어 日本에의 進出을 통한 現地技術의 습득과 硏究開發 등에도 점차 노력을 경주해 갈 생각입니다.

이상과 같은 貿易, 投資, 技術移轉 측면에서의 經濟協力 이외에도 韓日 兩國이 협력할 수 있는 분야는 대단히 광범위하다고 생각합니다. 양국은 國際分業, 情報, 敎育, 觀光, 文化 등의 면에서 協力擴大가 필요합니다. 그러나 이와 같은 다양한 經濟協力의 바탕을 이루는 것은 양국의 人的交流입니다. 오늘날과 같이 經濟에 있어 국경의 개념이 없어지고 세계적인 大競爭時代가 도래해 있는 상황에서는 한국도 일본도 서로간의 競爭과 協助를 조화시키면서 새로운 經濟協力의 패러다임을 정립해가지 않으면 안됩니다.

韓·日 양국은 지금까지 政府와 民間次元에서 상호간의 人的交流를 크게 확대해 왔습니다. 양국은 이미 1990년부터 韓·日 通商長官 회담을 4차례에 걸쳐 개최하였고, 1993년부터 經濟交流會議를 열기 시작하여 양국을 오가며 벌써 4번이나 상호간의 관심사를 논의했습니다. 특히 재계에서는 韓國의 全國經濟人聯合會와 日本의 經濟團體連合會간에 14차례에 걸친 韓·日 財界會議의 개최를 통해 상호이해와 친목을 도모하고 있으며, 韓·日 企業人懇談會도 열고 있습니다. 뿐만 아니라 KOTRA(大韓貿易投資振興公社)와 JETRO(日本貿易振興會)는 한일간의 貿易擴大, 産業交流의 촉진, 그리고 投資促進을 위해 여러 가지 행사를 개최하고 있습니다. 일례로 지난 3월 22일과 23일 양기관은 「情報關聯機器·소프트웨어 産業交流밋션」을 통하여 새로운 산업분야에서의 韓日 企業交流의 새 장을 열었습니다.

또한 오는 5월에는 電子·컴퓨터 분야에 대한 對韓投資와 技術移轉을 활성화하기 위해 일본이 中小企業을 중심으로 대규모의 投資環境調査團을 파견하기로 되어 있습니다.

아무쪼록 앞에서 말씀드린 여러 모임을 통하여 韓國과 日本의 經濟交流가 가일층 확대되고 양국간에 未來指向的인 관계가 설정되기를 바라마지 않습니다. 얼마 전까지만 해도 韓·日관계는 韓·日 漁業協定이 파기됨에 따라 상당히 경색된 양상을 보였습니다. 일본측의 어업협정파기 선언과 한국측의 조업자율규제합의 중지선언으로 한때는 대단히 불편한 관계가 지속되었지만 이제는 양국이 점차 냉정을 회복하고 있습니다. 이미 韓·日 양국은 漁業問題의 타결을 위해 민간레벨

의 대화를 추진하기로 합의하였고, 또한 지난 4월초에는 아시아·유럽정상회의(ASEM) 에서 양국간 漁業交涉의 再開問題를 논의한 바 있습니다. 양국 정부의 협력도 중요하지만 무엇보다도 양국 경제인들의 협력이 절대적으로 필요합니다.

부디 이번 韓日·日韓經濟人會議가 좋은 결실을 맺기를 간절히 기원하면서 저의 미진한 논문발표를 마치겠습니다. 대단히 감사합니다.

〈表 1〉 韓國의 對日 交易 推移

(단위 : 백만 달러, %)

	1965	1980	1990	1995	1996	1997 1~11
輸出	45	3,039	12,638	17,049	15,767	13,640
輸入	167	5,858	18,574	32,609	31,449	25,959
貿易收支	△122	△2,819	△5,936	△15,557	△15,682	△12,319
日本과의 總交易 規模(A)	212	8,897	31,212	49,658	47,216	39,599
對外總交易 規模(B)	638	39,797	134,860	260,177	280,054	258,466
比重(A/B)	33.2	22.4	23.1	19.1	16.9	15.3

資料 : 한국무역협회, 『무역통계』, 각년호.

〈表 2〉 韓·日간의 直接投資 推移

(단위 : 백만 달러, %)

	1991	1992	1993	1994	1995	1996
對日投資	15	64	58	58	105	81
	(36.4)	(327)	(△9.4)	(0)	(81.0)	(△22.9)
對韓投資	226	155	286	428	418	255
	(△4.2)	(△31.4)	(84.5)	(49.7)	(△2.3)	(△39.0)
投資收支	△211	△91	△228	△370	△313	△174

註 : 괄호안은 전년대비 증가율
資料 : 한국은행 국제부 외환실, 『해외투자통계연보』, 각년도.
재정경제원, 「외국인투자 및 기술도입 동향」, 1997년 6월.

〈第 1 分科會 백그라운드 페이퍼〉
(貿易關聯分野)

外換危機 以後의 아시아 貿易의 變化 - 韓國을 中心으로

日本貿易振興會 海外調査部
아시아大洋州課長 石川幸一

본 백그라운드 페이퍼는 외환위기 이후의 아시아 무역에 관하여 事實관계와 데이터를 정리하고 현황과 문제점을 설명하고자 하는 것이다. 무역통계를 기본 데이터로 사용하고 문제점 설명은 通說化되어 있는 견해를 援用했다. 외환위기 이후의 동아시아 각국의 무역 통계를 보면 總額베이스로 이용할 수 있는 것은 12월까지이며, 외환위기 발생 이후 시기에 관해서는 국가별, 품목별 데이터가 공표되지 않는 국가, 지역도 많아 데이터 면에서 제약이 있었다. 또 본 페이퍼에서 제시된 견해는 집필자의 소속 조직을 대표하는 것이 아니며, 집필자 개인의 견해임을 미리 밝혀 양해를 구하고자 한다.

1. 아시아의 外換危機와 貿易에 미치는 영향

'97년 7월 2일 태국 바트貨가 通貨바스켓制로부터 管理變動換率制로 이행된 것이 계기가 되어 발생한 외환위기는 동아시아 각국으로 파급되었다. 통화 하락률이 컸고 '98년 들어서도 외환시세가 계속 불안정하여 당초 예상했던 것보다 훨씬 대규모의 심각한 전개 양상을 나타냈다. 외환위기 그 자체에 관한 고찰은 본고의 목적이 아니므로 여기서는 생략하겠으나, 동아시아지역으로 파급된 요인으로

는 ① 높은 저축률을 넘는 과잉 투자, ② 투자과잉에 따른 경상수지 적자를 단기 자본으로 financing한 점, ③ 단기 자본 비율이 높은 거액의 외채 등을 공통적 요인으로 지적할 수 있다. 또 홍콩지역 최대의 투자회사인 페레그린社가 거액의 융자를 한 인도네시아 택시회사의 경영 파탄으로 인해 도산했다는 사실에서 전형적으로 나타나듯, 동아시아 域內 經濟가 相互依存關係를 심화하고 있다는 것도 파급 요인으로 꼽을 수 있다.

80년대에 심각한 對外 債務 위기에 처하여 '잃어버린 10년'이라고 일컬어지는 장기간의 경제침체를 겪어야 했던 중남미 국가들과는 달리 정부의 재정수지가 건전하고 인플레율도 낮은 등 경제의 펀더멘틀즈 면에서는 비교적 양호한 국가/지역에까지도 외환위기가 파급되고 있다는 점, 단기자본의 국경을 초월한 이동이 큰 폭의 환율변동을 초래했다는 점, 주된 채무자가 정부가 아닌 은행을 포함한 민간기업이라는 점 등이 이번 아시아 외환위기의 특징이라고 할 수 있다.

동아시아 각국/지역의 통화는 인도네시아 루피아의 약 80%를 비롯하여, 달러에 대한 최대 하락률이 태국과 한국 모두 50%를 넘었다(IMF방식). (표1 참조) 3월 16일 시점에서도 달러에 대해 인도네시아 루피아가 75.6%, 태국 바트화가 35.5%, 한국 원이 39.8% 하락된 상태이다.

외환위기가 무역에 미치는 영향은 다음과 같이 정리할 수 있다. 우선 직접적인 영향으로서 통화가치가 하락한 나라는 ① 외화표시 수출 가격이 저하되므로 가격 경쟁력이 강화되어 수출이 증가하는 한편, ② 국내통화표시 수입가격이 상승하므로 수입이 억제된다. 다음으로 외환위기에 대한 대응책도 무역에 영향을 준다. 외환위기에 직면한 나라는 資本 유출을 방지하기 위하여 ③ 금리를 인상한다. 또 투자 과잉 상태인 투자/저축 간의 균형을 시정하기 위하여 ④ 歲入 증가, 歲出 삭감 등의 긴축 정책을 도입하고, 개발 프로젝트 중지, 연기 등의 조치를 취한다. 또 ⑤ 통화하락으로 자국통화표시 외채가 팽창하여 상환금 부담이 커지고 이는 기업의 재무구조, 收益상황을 악화시킨다. 상기 ③④⑤는 투자와 소비를 위축시키고 국내 경기를 침체시킨다. 따라서 통화 하락국들의 '98년 경제전망은 발표시기가 늦을수록 내용이 비관적이며 한국, 인도네시아, 태국에 대해서는 마이너스 성장이라는 견해도 나오고 있다. (표2 참조) 상기 ②와 더불어 경제성장률 저하는 수입 수요를 둔화시키므로 통화 하락국/지역의 '98년의 무역은 수

출은 증가하되 수입은 현저하게 감소할 것으로 보인다. 일본 엔화는 美 달러에 대해서 약세적 추이를 나타내고 있으나 중국과 홍콩을 제외한 동아시아 통화에 대해서는 대폭 切上되었다. 따라서 일본의 對동아시아 무역은 이론적으로는 수출은 둔화 혹은 감소하고, 수입은 증가될 것으로 보인다.

2. 外換危機 發生 後의 東아시아 貿易

2-1 동아시아 각국/지역의 달러 기준으로 본 무역동향

1995년 동아시아 각국/지역의 수출은 10%臺인 인도네시아, 홍콩을 제외하면 20% 이상의 신장세를 보였다. 그러나 '96년에는 필리핀 이외는 한자리수 대로 신장세가 둔화되었고, 특히 태국은 달러표시로는 마이너스를 기록했다. '96년의 수출 둔화는 ① 각국/지역의 통화가 실질적으로 달러와 연계되어 있고, '95년 중반 이후 달러가 약세로부터 강세로 돌아서면서 수출경쟁력이 떨어졌다는 점, ② 주요 수출품인 전자제품의 시황이 좋지 않았다는 점 등이 요인이 되었으며, 이는 '97년의 외환위기 초래 요인의 하나로 지적되고 있다.

'97년 상반기의 수출은 20%를 넘은 필리핀과 중국, 8.8%인 인도네시아를 제외하면 전년 동기대비 증가율이 한국이 0.2%였고, 가장 높은 臺灣조차 3.7%로 침체 국면이 계속되었다. 외환위기가 발생한 7월 이후에도 중국과 필리핀은 비교적 순조롭게 늘어났으나 그 밖의 나라/지역은 변동이 심하여 현저하게 늘어났다고는 할 수 없다. 최초로 통화가치가 하락한 태국은 9월, 10월에 10%를 넘는 신장세를 보였으나 11월에는 6.1%로 줄었다.

말레이시아도 10월, 11월은 마이너스였다. 인도네시아도 8%대로 견실했으나 상반기와 비교해 볼 때 통화하락에 따른 수출증가는 나타나지 않았다. 한국은 7월에 19.4%로 큰 폭의 회복세를 보이고 9월까지는 근 15%가량 늘었지만 원화하락이 진행된 10월, 11월은 약 5% 증가로 둔화되었다. 또 통화가치가 유지되고 있는 중국의 수출은 11월까지 순조롭게 확대되었으나 12월에는 4.7%로 신장세가 저하되었다.

통화하락에도 불구하고 수출증가가 현저치 않은 것은 ① 동아시아 역내로의 수출비율이 높아지고 있는데 반하여 동아시아 각국은 외환위기의 영향으로 경기가 침체되고 있다는 점, ② 競合 관계에 놓여 있는 동아시아 각국의 통화가 절하되어 통화하락에 따른 가격경쟁력 강화의 利點이 減殺되었다는 점, ③ 외채의 優先償還과 금융시스템 재건을 위한 자기자본비율 인상조치 등으로 말미암아 수출기업으로 운전자금이 회전되지 못하고 있다는 점, ④ 금융위기에 처한 국가의 금융기관에 대한 신인도 저하로 이들 금융기관이 개설한 신용장을 해외에서 받아주지 않아 수출에 필요한 원자재, 부품을 수입할 수 없다는 점 등을 이유로 꼽을 수 있다. 예를 들어 태국이 9월, 10월에 수출이 늘어났다가 11월에 줄어든 배경으로는 在庫분을 수출에 돌렸다가 그 후 원료, 부품 조달난으로 인해 수출이 줄어들었을 것으로 볼 수 있다. (표3 참조)

한편 輸入은 수출과 마찬가지로 '95년에 대폭 늘어난 후 '96년에는 필리핀을 제외하고 저조한 상태이다. 輸入의 많은 부분이 수출품 생산에 사용되는 원료, 부품이므로 수출이 수입을 유발하는 산업구조를 갖고 있는 나라가 많기 때문이다. '97년 상반기의 輸入도 대만과 필리핀 이외는 저조하며 특히 경기가 減速 경향이었던 태국에서는 8.9% 줄었다. 외환위기 발생 이후에는 減少가 뚜렷하여 태국의 경우 7월의 11.5%를 위시하여 시간이 지날수록 감소율이 커지고 있다. 수출이 순조롭게 늘어나고 있는 필리핀을 제외한 아세안 4개국은 통화 하락과 더불어 수입이 감소하고 있으며, 한국에서도 거의 전년 수준이었던 9월을 제외하면 수입감소 경향이 현저하여 외환위기에 따른 내수 침체가 분명하게 나타나고 있다. (표4 참조)

이처럼 수출 신장세는 뚜렷하지 않은 반면 輸入이 줄어들고 있으므로 무역수지와 경상수지는 개선되는 경향을 보인다. 태국은 9월부터 貿易收支가 흑자로 전환되었고, 10월에는 經常收支도 흑자를 기록하였다. (표5 참조)

수출증가, 수입감소로 무역수지, 경상수지가 개선되어 외국자본이 유입되는 것이 외환위기로부터 경제를 회복시키는 방법인 바, 아시아의 외환위기의 경우 수출이 부진한 반면에 국내경제 위축으로 輸入이 대폭 줄어들어 무역수지, 경상수지가 개선되고 있는 형태인 것이다.

2-2 외환위기 이후의 일본의 對동아시아 무역

일본의 對동아시아 무역은 외환위기 이후 축소 경향이 현저하다. 엔화표시로 볼 때 '97년의 아세안 4개국(태국, 인도네시아, 말레이시아, 필리핀)으로의 수출은 전년 대비 4.4% 증가로 '96년의 10.6% 증가와 비교할 때 신장세가 둔화되었음을 알 수 있다. 한국으로의 수출도 '96년에는 9.0% 증가였음에 비해 '97년에는 1.2% 감소로 돌아섰다. 외환위기 발생 이후의 동향을 보면 태국으로의 수출은 上半期도 0.5% 감소로 저조했던 터에 7월 이후 감소 폭이 확대되었고 11월, 12월에는 전년 동월대비(이하 같음) 30% 정도의 대폭 감소를 기록했다. 상반기의 경제활황으로 연간 증가율이 24.8%였던 인도네시아는 10월의 증가율이 22.0%였는데 11월에는 0.9% 증가로 격감되었고 12월에는 11.1%의 감소로 돌아섰다. 말레이시아로의 수출도 11월에는 마이너스로 바뀌었고, 아세안 4개국으로의 수출은 10월부터 계속 줄어들고 있다. 한국으로의 수출은 상반기에는 5.1% 증가했으나 하반기에는 10월의 4.8% 증가를 제외하면 감소를 기록, 7-12월은 7.2%의 감소였다. (표6, 표8 참조)

다만 輸出을 품목별로 보면 국내시장의 제품이거나 또는 국내시장용으로 제조되는 제품에 사용할 원료, 부품의 일본으로부터의 수출은 뚜렷하게 줄어든 반면, 동아시아의 수출산업용 부품으로 쓰이기 위해 수출되는 경우는 줄지 않는 등의 차이가 나타난다. 예를 들면 아세안으로의 자동차 수출은 '97년 상반기에는 4.1% 증가했는데 7월에 8.5%로 감소하기 시작하였고, 시간이 지날수록 감소 폭이 커져 12월에는 55.8%의 대폭 감소를 기록했다. 國內市場型의 대표적 업종인 自動車는 외환위기로 인한 국내경기 침체의 영향을 가장 크게 받고 있으며, 예를 들어 태국의 자동차 판매 대수는 '96년 58만 9천대에서 '97년에는 36만 4천대로 줄었고, '98년에는 18만대가 될 전망이다. 한편 반도체등 전자부품의 對아세안 수출은 상반기에 2.0% 감소였으나 하반기에는 계속 증가하고 있다. (표7 참조)

다음으로 '97년의 輸入에 대해서 보면 각 국/지역이 공통적으로 '96년에 비하여 현저하게 감소되고 있다. 아세안 4개국은 '96년의 25.9% 증가로부터 '97년에는 8.2% 증가로 증가세가 둔화되었다. 특히 하반기의 감소가 현저하여 상반기에 18.0% 증가했던 것이 10월 이후 마이너스로 바뀌어 하반기에는 0.7%의 감소를 기록하였다. '96년엔 7.0%였던 한국으로부터의 輸入은 '97년에는 1.6% 증가로

증가세가 둔화되었다. 하반기 증가율은 1.2%로 간신히 플러스였으나 월별로 보면 9월, 11월, 12월에 감소를 기록했다. 이처럼 통화하락률이 커짐에 따라 일본의 輸入이 둔화 또는 감소되고 있다는 것이 커다란 특징이다. 일본 엔화는 아세안 4개국과 한국의 원화에 대해 큰 폭의 강세여서 일본의 輸入이 늘어날 것으로 보이는데도 감소하고 있는 것은 2-1에서 설명한 바와 같은 수출국 측의 요인으로 통화 면의 유리함을 활용하지 못하여 수출을 늘리지 못하고 있기 때문이다. 수입국 측의 요인으로는 국내경기 침체로 인한 수입수요 감퇴, 수입가격의 저하, J커브 효과 등을 지적할 수 있을 것이다. (표6, 표8 참조)

3. 外換危機 以後의 日韓貿易

日韓貿易 최대의 문제는 무역불균형이며, 한국의 부품, 소재산업의 발달이 불충분하여 경제발전에 수반하여 對日貿易赤字가 증가한다는 한국의 산업구조문제가 그 배경이 되고 있다. 무역분야 뿐 아니라 일본기업의 투자유치, 기술협력 등의 종합적 방안이 그 해결책이라고 여겨지고 있다.

일본계 기업의 생산거점 이전과 해외조달로 말미암아 말레이시아로 부터의 TV/VTR 輸入이 90년대 중반에 급증하는 등 일본기업의 투자증가로 수평분업이 진전되고 '96년에 일본의 무역흑자가 축소했음은 투자의 중요성을 나타내는 것이다. 또 후카가와(深川)는 日韓 양국 기업의 글로벌化로 利害關係가 복잡해지고 있음을 지적하고, 예를 들면 일본기업의 해외 생산 진전에 따라 일본으로부터의 輸入을 규제하는 輸入先 多邊化 制度가 유명무실해지고 있고, 섬유, 신발, 잡화, 가전조립제품 등에서 일본이 수입한 아세안 제품 중에 한국기업 생산품이 포함되어 있는 등 移管處로 부터의 對日供給이 한국으로부터의 對日 수출을 代替하는 효과를 거두고 있다고 말한다. (註)

이렇듯 해외생산 증가에 따른 무역구조 변화가 진전되던 와중인 '97년에 外換危機가 발생했던 것이다. 日韓간의 무역을 보면 輸出은 '96년의 3조 1,923억엔에서 '97년에는 이보다 1.2% 감소한 3조 1,532억엔을 기록했고, 輸入은 '96년의 1조 7,353억엔에서 '97년 1조 7,628억엔으로 1.6% 증가했다. '96년에 전년 대비 11.6% 확대되어 과거 최대인 1조 4,570억엔을 기록한 무역수지 흑자는 '97년에는 1조

3,905억엔으로 4.6% 축소되었다. 하반기에 수출둔화 경향이 가속화되었으므로 무역흑자는 상반기 7,492억 달러에서 하반기에는 6,413달러로 감소했다. 그러나 통화 하락이 진전된 연말에는 輸出入이 모두 전년 동월에 비해 줄었고 實額면에서도 낮은 수준이어서 貿易이 縮小 경향임을 나타내고 있다. (표9 참조)

주요 품목별 수출동향을 보면 화학품이 4,538억엔으로 10.4%, 반도체등 전기기계가 9,346억엔, 9.3%로 비교적 높은 신장세를 나타내고 있으나 7,487억엔인 일반기계는 17.6%의 대폭적인 감소를 기록했다. 철강은 2,481억엔으로 3.4% 증가했다. 화학품과 전기기계등 연간 단위로는 증가한 품목들도 12월에는 감소로 돌아섰다. 다음으로 輸入은 철강등 금속품이 2,403억불로 11.0% 증가, 광물성 연료도 1,834억불로 7.0% 증가했다. 감소가 눈에 띄는 것은 섬유제품으로 1,664억불, 21.7%가 줄었다. 반도체는 1.9%, 식료품은 0.1%로 둘 모두 약간 감소되었다. 년간 동향을 보면 섬유제품은 일관하여 계속 감소되고 있고, 반도체의 경우에는 뚜렷하게 나타나 듯이 전반부에 감소 혹은 저조했던 것이 6월, 7월, 8월에 증가세를 보였다가 연말에 가서 다시 감소되었다. (표10, 표11 참조)

이상과 같이 '97년의 日韓 무역은 연말이 가까워짐에 따라 양국 경제의 경기침체로 輸入 需要가 부진하여 축소되었다. 통화 하락에 의한 경쟁력강화라고 하는 요소를 2-1에서 설명한 수출기업의 처한 상황으로 말미암아 活用하지 못하고 있는 것도 그 一因이라고 볼 수 있다. 이러한 무역침체로 일본의 輸出에서 한국이 차지하는 쉐어는 '96년 7.1%에서 '97년에는 6.2%로, 또 輸入에서 차지하는 쉐어는 마찬가지로 4.6%에서 4.3%로 감소되었다.

한국의 경제성장률은 '98년에 상당히 저하되므로 일본의 對韓 輸出은 답보상태 혹은 감소를 보일 것으로 예상된다. 한국의 對日 輸出은 일본의 경기 동향과 수출기업의 자금사정, 원자재, 부품조달 상황의 개선여부에 좌우될 것이다. 일본무역진흥회의 조사에 의하면 일본의 아시아 戰略은 외환위기로 인해서 長期的으로 변함이 없지만 投資計劃에 관해서는 관망하겠다는 대응이 많다. 당분간은 수출강화와 현지조달 강화, 合理化를 추진하겠다는 기업이 많아 동아시아로의 투자는 단기적으로는 증가하지 않을 것으로 보인다. 따라서 종전부터 진전되고 있는 日韓기업의 글로벌화를 통해 형성된 무역구조에 당분간은 커다란 변화는 없다고 볼 수 있을 것이다.

註：日韓貿易不均衡에 관해서는 예를 들면 柳得煥 「轉換期의 韓日經濟協力」, 第28回 日韓・韓日民間合同經濟委員會 會議 報告書, 日韓經濟協會. 深川由紀子 「韓國・先進國 經濟論」, 日本經濟新聞社 1997年.

표1 동아시아 통화의 下落率 (6월 30일 대비)

	대 미 달 러 환 율					
	6월30일	98년 2월25일		최대하락율, 일시, 환율		
태 국	24.65바트	△42.6	42.95바트	△53.5	98. 1.12	55.75바트
필 리 핀	26.36페소	△34.7	40.46페소	△42.7	98. 1. 6	46.10페소
말레이시아	2.5243링기	△32.2	3.7237링기	△47.1	98. 1. 8	4.770링기
인도네시아	2,431.3루피아	△74.1	9,400루피아	△81.2	98. 1.26	12,950루피아
싱가포르	1.4305S$	△12.4	1.6325S$	△20.6	98. 1.12	1.8020S$
홍 콩	7.7487HK$	0.0	7.747HK$	0.0	98. 1. 8	7.750HK$
대 만	27.812NT$	△14.6	32.551NT$	△19.3	98. 1.12	34.481NT$
한 국	887.8원	△45.9	1,642원	△54.7	97.12.23	1,963원

(주 1) 1998년 2월 25일 현재

(주 2) 종가. TTC 환율로는 1월 26일에 1달러 15,000루피아를 기록했음.

(주 3) 통화 하락율은 IMF방식으로 계산.

표 2 경제성장율 전망

	1970年~1996年平均	1997年	1998年	1999年
中 国	9.1	8.9	6.3	7.5
香 港	7.5	5.1	1.8	3.8
인도네시아	6.8	5.4	−5.2	2.9
말레이시아	7.4	7.4	1.6	1.8
필 리 핀	3.6	4.8	1.9	4.0
싱가포르	8.2	7.6	2.7	5.0
韓 国	8.4	5.6	−2.5	1.7
台 湾	8.3	6.3	5.0	5.7
태 국	7.5	−0.7	−4.0	3.7

출처 Economist誌 98年3月7日号

표 3 동아시아의 최근의 수출 신장율 (달러 기준)

(単位 : %)

	95年	96年	97.1-6	97.7	97.8	97.9	97.10	97.11	97.12
태 국	24.7	Δ 1.2	1.1	6.7	0.7	11.1	10.7	Δ 6.1	n.a
말레이시아	25.9	6.0	3.0	4.4	2.4	0.8	Δ 2.3	Δ 1.8	n.a
인도네시아	13.4	9.7	8.8	12.7	8.8	8.5	n.a	n.a	n.a
필 리 핀	29.4	17.7	22.1	21.8	27.3	24.6	23.4	n.a	n.a
韓 国	30.3	3.7	0.2	19.4	14.2	14.7	5.8	4.9	n.a
싱가포르	22.5	5.8	0.5	4.1	Δ 1.1	7.3	Δ 2.3	n.a	n.a
香 港	14.9	4.0	3.2	3.5	3.7	0.6	10.0	5.3	n.a
台 湾	20.0	3.9	3.7	13.0	Δ 1.8	10.7	6.1	11.1	n.a
中 国	23.0	1.5	26.3	25.4	13.5	23.6	17.1	23.2	4.7

(주) △는 마이너스 성장을 나타냄

(출처) 각국의 무역 통계를 기초로 하여 JETRO가 작성.

표 4 동아시아의 최근의 수입 신장율 (달러 기준)

(単位 : %)

	95年	96年	97.1-6	97.7	97.8	97.9	97.10	97.11	97.12
태 국	30.0	2.1	Δ 8.9	Δ11.5	Δ20.4	Δ14.3	Δ21.1	Δ32.8	n.a
말레이시아	30.6	1.0	5.2	5.5	Δ 0.1	Δ 1.4	Δ 5.9	Δ 7.7	n.a
인도네시아	27.0	5.7	0.6	1.7	Δ 4.3	Δ 5.3	n.a	n.a	n.a
필 리 핀	24.4	22.2	10.9	11.8	17.4	0.2	16.8	n.a	n.a
韓 国	32.0	11.3	2.2	Δ 0.7	Δ11.3	1.2	Δ 7.0	Δ12.5	n.a
싱가포르	21.5	5.4	0.1	8.5	8.6	9.5	Δ 2.2	n.a	n.a
香 港	19.2	3.0	4.6	9.0	5.8	1.9	10.7	1.5	n.a
台 湾	21.3	Δ 1.1	8.2	24.9	7.4	26.3	7.6	12.8	n.a
中 国	14.2	5.1	Δ 0.2	13.1	Δ 0.6	11.5	13.6	4.1	Δ 5.0

(주) △는 마이너스 성장을 나타냄

(출처) 각국의 무역 통계를 기초로 하여 JETRO가 작성.

표 5 동아시아의 최근의 무역 동향 (달러 기준)

(단위 : 억 달러)

		95年	96年	97.1-6	97.7	97.8	97.9	97.10	97.11	97.12
태 국	輸 出	564	557	280	48	48	50	52	46	n.a
	輸 入	708	723	347	54	50	48	47	39	n.a
	收 支	Δ 144	Δ 166	Δ67	Δ 6	Δ 2	2	5	7	n.a
말레이시아	輸 出	739	783	394	67	71	67	66	64	n.a
	輸 入	776	784	405	70	67	63	66	62	n.a
	收 支	Δ37	Δ 1	Δ11	Δ 3	4	4	0	2	n.a
인도네시아	輸 出	454	498	256	46	47	47	n.a	n.a	n.a
	輸 入	406	429	214	37	33	35	n.a	n.a	n.a
	收 支	48	69	42	9	14	12	n.a	n.a	n.a
필 리 핀	輸 出	174	205	117	21	23	23	23	n.a	n.a
	輸 入	265	324	173	32	33	29	33	n.a	n.a
	收 支	Δ91	Δ 119	Δ56	Δ11	Δ10	Δ 6	Δ10	n.a	n.a
韓 国	輸 出	1,251	1,297	652	118	111	115	125	120	n.a
	輸 入	1,351	1,503	743	126	115	115	126	117	n.a
	收 支	Δ 101	Δ 206	Δ91	Δ 8	Δ 4	Δ 1.0	Δ 0.8	3	n.a
싱가포르	輸 出	1,185	1,252	618	111	100	112	109	n.a	n.a
	輸 入	1,248	1,316	654	121	111	115	113	n.a	n.a
	收 支	Δ63	Δ64	Δ36	Δ11	Δ10	Δ 3	Δ 5	n.a	n.a
香 港	輸 出	1,746	1,815	871	177	168	165	185	161	n.a
	輸 入	1,937	1,994	997	196	182	173	198	172	n.a
	收 支	Δ 191	Δ 179	Δ 125	Δ19	Δ13	Δ 8	Δ13	Δ11	n.a
台 湾	輸 出	1,117	1,159	587	107	95	109	104	114	n.a
	輸 入	1,036	1,024	552	101	92	97	94	101	n.a
	收 支	81	135	35	6	3	11	10	13	n.a
中 国	輸 出	1,488	1,510	808	155	160	166	178	168	192
	輸 入	1,321	1,388	630	128	111	115	128	121	191
	收 支	167	122	178	27	49	51	50	47	1

(주) △는 적자를 나타냄.

(출처) 각국의 무역 통계를 기초로 하여 JETRO가 작성

표 6 일본의 對 동아시아 수출입 신장율 (전년 동기(월) 대비, 엔화 기준)

(單位 : %)

	96年		97年		97年																98年			
					1－6月		7－12月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月	
	ex	im	ex	im	ex	im	ex	im	ex	im	ex	im	ex	im	ex	im	ex	im	ex	im	ex	im	ex	im
ASEAN4－韓国	10.0	20.0	2.3	6.4	9.3	13.5	Δ 4.2	Δ 0.2	0.4	5.0	Δ 0.7	2.1	Δ 0.7	4.6	1.1	Δ 1.0	Δ 9.9	Δ10.2	Δ13.9	Δ 1.1	Δ29.1	Δ 8.8	Δ35.0	Δ18.1
ASEAN4	10.6	25.9	4.4	8.2	11.8	18.0	Δ 2.4	Δ 0.7	5.6	2.4	3.2	2.5	1.8	6.5	Δ 1.0	Δ 3.3	Δ11.4	Δ10.7	Δ12.2	Δ 0.7	Δ21.3	Δ12.1	Δ33.0	Δ21.3
태 국	7.5	17.0	Δ11.2	4.2	Δ 0.5	8.0	Δ22.1	0.5	Δ14.7	Δ 2.1	Δ18.0	1.1	Δ18.2	8.1	Δ19.0	Δ 0.1	Δ33.3	Δ 4.9	Δ29.6	1.9	Δ34.4	Δ 4.6	Δ41.0	Δ15.0
말레이시아	6.1	28.9	5.2	7.6	9.2	19.0	1.6	Δ 3.1	8.5	4.9	0.4	Δ 3.5	6.4	1.5	1.1	Δ 4.1	Δ 4.3	Δ15.8	Δ 2.7	Δ 0.9	Δ15.9	Δ17.8	Δ24.7	Δ22.0
인도네시아	5.5	23.8	24.8	7.0	30.2	18.5	19.9	Δ 3.3	40.3	Δ 1.8	47.5	2.5	28.0	8.9	22.0	Δ 8.0	0.9	Δ14.1	Δ11.1	Δ 5.6	Δ18.3	Δ16.0	Δ56.0	Δ30.7
필 리 핀	37.1	50.8	14.9	23.3	26.0	38.4	6.0	10.9	9.5	20.9	9.4	21.5	5.8	7.1	2.9	6.3	4.9	1.1	4.1	11.4	Δ 7.4	3.8	Δ 0.5	Δ 1.8
美 国	9.0	7.0	Δ 1.2	1.6	5.1	2.0	Δ 7.2	1.2	Δ10.7	12.2	Δ 7.3	1.1	Δ 5.2	Δ 0.3	4.8	5.6	Δ 7.2	Δ 9.0	Δ17.0	Δ 2.1	Δ41.8	1.9	Δ38.8	Δ 7.8
싱가포르	4.7	23.7	8.4	Δ10.9	5.1	Δ 9.1	11.8	Δ12.7	11.3	Δ22.5	11.8	1.0	26.1	0.7	18.6	Δ 4.1	4.2	Δ20.4	0.4	Δ24.0	Δ 4.5	Δ12.7	Δ 9.1	Δ13.2
香 港	6.2	9.0	19.5	Δ 2.8	19.7	2.7	19.3	Δ 8.3	16.8	Δ19.9	33.3	Δ 8.2	14.1	Δ 0.6	23.1	Δ 9.5	9.3	Δ12.3	21.5	2.2	4.0	0.2	9.3	Δ21.4
台 湾	4.3	20.8	18.1	Δ 7.2	14.3	Δ 5.9	21.6	Δ 8.5	18.1	Δ10.4	25.0	Δ 4.7	28.5	1.7	22.5	Δ 8.2	15.1	Δ16.2	21.3	Δ11.3	16.4	Δ 8.0	20.2	Δ16.1
中 国	15.5	30.1	10.4	15.0	15.4	24.0	6.6	8.0	17.4	9.3	3.5	8.1	16.6	12.2	18.3	4.2	Δ11.6	1.1	3.8	13.8	11.7	7.8	9.3	Δ16.3

(주) △는 마이너스 성장율 나타냄

(출처) 일본 대장성 통관 무역 통계에 의거하여 JETRO가 작성

表－7 a 일본의 주요 품목의 수출액, 신장율 (전년 동기 (월) 대비)

① 鉄 鋼

(単位：100万円、%)

	97年1～6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
世 界	923.244 (13.9)	154.987 (8.0)	156.214 (13.6)	175.939 (30.2)	167.110 (23.4)	155.813 (14.4)	196.375 (25.6)
ASEAN	259.447 (18.1)	40.715 (1.4)	42.482 (17.2)	50.959 (23.9)	45.044 (14.5)	39.769 (0.3)	41.799 (Δ 2.3)
NIES	330.737 (10.2)	53.738 (Δ 2.0)	56.685 (10.4)	63.461 (27.3)	62.881 (32.1)	57.686 (17.6)	64.182 (14.6)
中 国	96.319 (0.7)	17.184 (8.5)	16.937 (58.7)	18.180 (62.8)	20.802 (44.0)	16.482 (16.8)	23.054 (20.6)
美 国 USA	101.676 (23.1)	15.371 (19.1)	17.565 (18.1)	21.522 (43.2)	17.853 (29.6)	14.678 (1.5)	30.047 (83.8)

(출처) 일본 대장성

(주) ASEAN은 97년 1월-6월 및 7월이 싱가포르, 태국, 말레이지아, 인도네시아, 필리핀, 부르네이, 베트남 등 7개국, 8월 이후는 여기에 라오스, 미얀마를 추가한 9개국.
아시아 NIES는 한국, 대만, 홍콩, 싱가포르.

② 原 動 機

(単位：100万円、%)

	97年1～6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
世 界	806.374 (7.3)	123.090 (Δ 1.0)	107.829 (Δ 9.6)	128.367 (Δ 6.3)	138.642 (0.8)	118.767 (Δ 9.0)	142.241 (7.0)
ASEAN	142.159 (8.1)	26.437 (19.4)	17.165 (Δ17.4)	21.224 (Δ 7.8)	21.332 (Δ 6.2)	16.702 (Δ17.2)	14.851 (Δ23.7)
NIES	85.615 (15.8)	13.679 (Δ 5.6)	11.726 (3.3)	15.653 (0.1)	15.636 (2.1)	13.111 (6.1)	14.645 (Δ 2.3)
中 国	26.822 (Δ 7.6)	4.491 (Δ 5.3)	4.288 (Δ 4.0)	3.710 (Δ 0.2)	4.992 (29.7)	5.839 (18.3)	6.799 (83.8)
美 国 USA	291.882 (8.0)	40.655 (Δ17.6)	36.549 (Δ14.9)	44.926 (Δ 0.5)	50.477 (Δ 2.4)	44.191 (Δ11.9)	49.828 (5.8)

(출처) 同上
(注) 同上

③ 事務用機器

（単位：100万円、%）

	97年1～6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
世　界	1,877,347 (28.5)	312,843 (10.3)	283,012 (11.2)	324,635 (11.9)	358,495 (21.7)	331,696 (9.0)	338,196 (12.4)
ASEAN	208,808 (52.8)	35,148 (5.7)	34,021 (15.9)	35,100 (4.2)	38,114 (8.0)	35,334 (1.5)	35,720 (6.3)
NIES	301,410 (31.9)	51,966 (5.1)	48,466 (14.1)	52,045 (11.4)	54,217 (6.4)	49,133 (Δ 1.0)	50,918 (Δ 3.7)
中　国	31,204 (32.7)	7,783 (60.4)	4,476 (Δ 3.5)	6,016 (43.6)	5,375 (20.5)	5,426 (Δ 1.2)	6,747 (Δ 3.7)
美　国 USA	823,030 (28.1)	145,258 (12.9)	127,343 (9.8)	144,251 (6.0)	161,668 (23.0)	145,360 (1.3)	148,678 (12.7)

（資料）同上
（注）同上

④ 半導体等電子部品

（単位：100万円、%）

	97年1～6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
世　界	1,992,280 (0.0)	346,316 (8.8)	325,159 (11.2)	356,510 (14.3)	367,008 (12.0)	334,028 (5.2)	345,633 (7.5)
ASEAN	647,863 (Δ 2.0)	112,793 (7.1)	105,003 (10.0)	109,035 (11.6)	121,260 (11.9)	111,007 (4.6)	116,606 (9.0)
NIES	839,683 (3.7)	148,917 (8.7)	141,249 (14.1)	151,354 (16.3)	163,117 (20.4)	147,667 (8.6)	149,512 (6.8)
中　国	54,865 (48.9)	10,615 (53.7)	8,492 (25.6)	11,025 (52.6)	10,769 (46.6)	10,870 (38.1)	12,105 (29.7)
美　国 USA	422,689 (Δ13.2)	72,068 (7.0)	66,299 (7.0)	79,004 (14.6)	69,843 (2.2)	63,741 (2.1)	64,241 (5.7)

（資料）同上
（注）同上

⑤ 自 動 車

（単位：100万円、%）

	97年1～6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
世　　界	3,413,998 (32.5)	648,795 (32.3)	543,734 (41.3)	654,823 (23.1)	640,988 (28.0)	596,170 (15.5)	613,710 (19.8)
ASEAN	265,997 (4.1)	42,370 (Δ 8.5)	33,788 (Δ16.1)	36,939 (Δ21.4)	29,719 (Δ35.2)	22,352 (Δ55.8)	18,719 (Δ60.8)
NIES	162,885 (42.3)	36,991 (123.7)	29,367 (87.8)	30,321 (31.2)	28,379 (74.1)	25,087 (34.2)	26,577 (51.6)
中　　国	39,436 (132.3)	10,837 (110.2)	4,520 (Δ 4.2)	7,668 (4.7)	6,432 (44.1)	6,220 (46.2)	6,009 (25.6)
美　　国 USA	1,357,432 (32.7)	258,282 (19.1)	191,577 (41.5)	254,906 (15.2)	251,298 (16.7)	240,476 (9.3)	215,330 (2.9)

출처）同上
（注）同上

⑥ 自動車　部分品

（単位：100万円、%）

	97年1～6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
世　　界	917,426 (1.2)	146,492 (Δ 6.3)	130,515 (Δ 7.0)	154,287 (Δ 2.3)	160,187 (Δ 4.7)	137,459 (Δ12.2)	143,133 (Δ 7.5)
ASEAN	174,320 (8.9)	28,723 (Δ 5.4)	23,084 (Δ 9.3)	26,135 (Δ 6.0)	21,719 (Δ21.7)	16,686 (Δ39.2)	12,688 (Δ55.5)
NIES	87,966 (Δ 3.5)	14,765 (4.9)	12,116 (Δ 2.9)	14,455 (0.0)	15,224 (Δ 4.8)	14,410 (Δ10.3)	16,178 (Δ 3.7)
中　　国	17,781 (8.8)	2,753 (2.9)	2,645 (Δ 6.9)	3,262 (Δ 0.2)	3,174 (10.8)	2,630 (Δ 1.8)	2,846 (Δ28.0)
美　　国 USA	378,228 (Δ 1.8)	57,409 (Δ12.9)	50,997 (Δ13.4)	63,037 (Δ 0.3)	68,449 (Δ 6.4)	63,108 (Δ 8.2)	64,872 (8.2)

（출처 同上
（注）同上

表－7b　日本の主要品目の輸入額、伸び率（前年同期［月］比）

① 魚介類

（単位：100万円、%）

	97年	97年1~6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
世　界	1,835,845 (1.2)	904,034 (6.9)	163,897 (Δ9.2)	150,224 (Δ8.0)	148,001 (6.5)	172,841 (0.0)	143,540 (Δ 12.8)	153,306 (1.2)
ASEAN	368,537 (4.5)	175,422 (4.8)	32,173 (6.1)	29,112 (5.5)	29,528 (9.2)	38,664 (7.7)	33,194 (Δ5.4)	33,666 (4.3)
NIES	225,445 (Δ 13.6)	121,965 (Δ 11.0)	19,953 (Δ 19.8)	16,000 (Δ 10.4)	15,982 (2.3)	16,951 (Δ1.6)	14,459 (Δ 30.4)	20,138 (Δ 21.0)
中　国	267,217 (16.2)	147,127 (28.8)	22,335 (0.0)	14,937 (4.3)	16,530 (11.6)	22,167 (18.7)	22,340 (3.4)	21,780 (Δ6.4)
美　国 (USA)	197,792 (Δ 12.3)	93,033 (Δ1.1)	19,495 (Δ 21.5)	24,138 (Δ 30.3)	14,853 (Δ 17.2)	24,169 (8.9)	12,184 (Δ 39.3)	9,922 (Δ 15.9)

(출처) 일본 대장성

(주) ASEAN은 97년 1월-6월 및 7월이 싱가포르, 태국, 말레이지아, 인도네시아, 필리핀, 부르네이, 베트남 등 7개국, 8월 이후는 여기에 라오스, 미얀마를 추가한 9개국.
아시아 NIES는 한국, 대만, 홍콩, 싱가포르.

② 衣類・同付属品

（単位：100万円、%）

	97年	97年1~6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
世　界	2,011,081 (Δ5.6)	888,467 (Δ0.5)	170,079 (Δ7.1)	214,206 (Δ 10.0)	249,963 (Δ5.4)	213,165 (Δ 17.2)	132,931 (Δ 17.2)	142,270 (6.3)
ASEAN	190,389 (0.3)	94,647 (10.2)	15,810 (7.1)	16,879 (Δ9.6)	19,494 (Δ3.1)	17,432 (Δ 24.5)	13,085 (Δ 13.4)	13,175 (Δ2.1)
NIES	159,217 (Δ 26.5)	80,257 (Δ 23.2)	12,954 (Δ 32.5)	14,807 (Δ 32.2)	15,267 (Δ 33.8)	13,259 (Δ 28.2)	10,729 (Δ 29.7)	11,944 (Δ 16.1)
中　国	1,264,022 (Δ0.3)	519,132 (5.1)	98,571 (Δ0.8)	140,487 (Δ2.0)	173,338 (0.2)	146,499 (Δ 13.3)	91,455 (Δ 14.5)	94,540 (14.9)
美　国 (USA)	91,505 (Δ 19.9)	51,910 (Δ 15.9)	5,836 (Δ 20.4)	7,265 (Δ 22.4)	8,420 (Δ 24.0)	8,265 (Δ 26.0)	5,257 (Δ 35.3)	4,552 (Δ 16.1)

(출처) 同上
(注) 同上

③ 事務用機器

（単位：100万円、％）

	97年	97年1~6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
世　　界	2,264,082 (10.3)	1,199,383 (18.1)	180,405 (3.2)	152,958 (5.0)	190,403 (15.1)	177,074 (1.7)	168,965 (Δ6.2)	194,896 (Δ1.1)
ASEAN	720,075 (6.8)	385,171 (20.9)	56,908 (Δ5.1)	49,790 (5.5)	54,178 (0.0)	62,256 (Δ0.8)	55,338 (Δ 17.3)	56,436 (Δ 12.8)
NIES	583,998 (Δ 12.3)	308,672 (Δ9.0)	46,185 (Δ 24.7)	41,450 (Δ8.5)	43,786 (Δ0.1)	46,559 (Δ 10.3)	45,420 (Δ 23.8)	51,927 (Δ8.9)
中　　国	167,386 (36.5)	87,301 (43.4)	16,486 (68.4)	12,196 (30.5)	12,197 (31.9)	13,934 (58.3)	13,211 (Δ 15.4)	12,063 (Δ8.4)
美　　国 (USA)	736,450 (14.8)	397,409 (23.0)	54,065 (11.8)	46,623 (0.7)	70,256 (26.3)	54,552 (2.1)	53,163 (2.0)	60,382 (Δ3.5)

（출처）同上
（注）同上

④ 音響映像機器

（単位：100万円、％）

	97年	97年1~6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
世　　界	733,292 (1.9)	371,596 (7.6)	62,777 (Δ2.4)	50,644 (0.9)	55,762 (Δ4.0)	63,411 (Δ6.3)	62,008 (Δ9.1)	67,095 (1.6)
ASEAN	303,618 (Δ4.1)	157,531 (0.4)	23,951 (Δ4.5)	19,761 (Δ5.8)	21,433 (Δ3.7)	26,250 (Δ 11.5)	25,954 (Δ 12.1)	28,978 (0.4)
NIES	132,023 (Δ 16.8)	67,973 (Δ 14.4)	11,812 (Δ 20.3)	9,245 (Δ 12.1)	9,718 (Δ 20.5)	10,828 (Δ 17.8)	10,568 (Δ 22.0)	11,380 (Δ9.2)
中　　国	165,494 (13.5)	74,271 (15.2)	13,986 (9.7)	12,668 (15.6)	14,662 (14.4)	16,194 (14.1)	16,211 (0.5)	17,504 (20.3)
美　　国 (USA)	114,119 (8.1)	63,947 (28.8)	11,397 (15.3)	8,313 (3.7)	7,627 (Δ 29.2)	7,804 (Δ 13.3)	8,058 (Δ6.7)	6,972 (Δ 27.5)

（출처）同上
（注）同上

⑤ 半導体等電子部品

（単位：100万円、%）

	97年	97年1~6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
世　界	1,555,735 (8.0)	767,066 (1.1)	132,502 (14.8)	131,074 (34.9)	140,480 (19.6)	139,665 (26.2)	125,548 (4.6)	119,399 (Δ1.7)
ASEAN	281,135 (12.3)	132,519 (Δ1.6)	24,344 (0.5)	24,099 (32.9)	26,484 (27.9)	27,455 (51.1)	22,814 (32.3)	23,420 (34.5)
NIES	520,569 (0.8)	250,054 (Δ 18.6)	45,643 (21.2)	45,362 (50.0)	46,817 (42.8)	50,627 (47.0)	43,126 (11.7)	38,940 (8.4)
中　国	24,943 (52.9)	10,932 (68.1)	2,120 (30.3)	1,938 (24.3)	2,486 (58.3)	2,681 (47.9)	2,314 (45.0)	2,471 (49.8)
美　国 (USA)	723,905 (4.9)	374,760 (11.5)	59,657 (8.8)	59,894 (22.2)	63,202 (Δ1.1)	59,140 (2.9)	55,593 (Δ 12.1)	51,659 (Δ 21.0)

（出処）同上
（注）同上

⑥ 木製品

（単位：100万円、%）

	97年	97年1~6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
世　界	751,934 (8.6)	413,409 (29.0)	60,251 (Δ3.3)	59,745 (3.7)	57,219 (Δ1.9)	60,534 (Δ 13.6)	51,712 (Δ 23.3)	49,062 (Δ 12.8)
ASEAN	33,027 (9.6)	194,540 (45.8)	25,785 (Δ 10.1)	27,470 (4.1)	24,673 (Δ 10.0)	23,443 (Δ 30.6)	19,437 (Δ 35.4)	17,836 (Δ 26.1)
NIES	16,744 (Δ4.4)	9,153 (6.1)	1,339 (Δ7.6)	1,067 (Δ 22.2)	1,224 (Δ6.4)	1,461 (Δ 13.3)	1,277 (Δ 19.7)	1,224 (Δ 16.6)
中　国	54,135 (8.7)	26,491 (20.3)	4,052 (14.6)	4,125 (22.7)	4,383 (15.6)	5,472 (11.2)	5,044 (30.5)	4,567 (10.2)
美　国 (USA)	122,393 (2.9)	64,035 (11.3)	10,293 (Δ 10.8)	10,324 (45.9)	7,883 (Δ 20.0)	11,339 (Δ2.9)	8,239 (Δ 29.5)	10,280 (7.8)

（出処）同上
（注）同上

표 8 일본의 對 동아시아 무역 동향 (전년 동기(월) 대비, 엔화 기준)

(単位 : 百万円)

		96年	97年	97.1-6	97.7	97.8	97.9	97.10	97.11	97.12
아세안 4	輸出	5,557,135	5,801,326	2,985,025	517,832	463,491	484,062	486,669	422,759	442,170
	輸入	4,534,866	4,908,280	2,550,662	411,426	371,806	392,816	413,671	360,512	401,095
	收支	1,022,269	893,046	434,363	106,406	91,685	91,246	72,998	62,247	41,075
태 국	輸出	1,987,969	1,764,366	993,129	151,360	133,137	133,854	126,346	107,279	119,345
	輸入	1,111,154	1,157,321	585,508	98,064	87,777	95,176	105,770	92,436	91,768
	收支	876,815	607,045	407,621	53,296	45,360	38,678	20,576	14,843	27,577
말레이시아	輸出	1,668,420	1,755,532	872,245	160,920	135,486	149,229	153,897	136,132	147,889
	輸入	1,278,512	1,375,091	733,838	115,656	100,662	100,239	112,549	95,782	115,075
	收支	389,908	380,441	138,407	45,264	34,824	48,990	41,348	40,350	32,814
인도네시아	輸出	986,013	1,230,176	605,811	114,451	111,631	112,697	111,756	89,071	84,820
	輸入	1,653,175	1,769,383	926,647	144,942	136,286	145,530	141,287	126,076	145,469
	收支	△ 667,162	△ 539,207	△ 320,836	△30,491	△24,655	△32,833	△29,531	△37,005	△60,649
필 리 핀	輸出	914,733	1,051,252	513,840	91,101	83,237	88,282	94,670	90,277	90,116
	輸入	492,025	606,485	304,669	52,764	47,081	51,871	54,065	46,218	48,783
	收支	422,708	444,767	209,171	38,337	36,156	36,411	40,605	44,059	41,333
韓 国	輸出	3,192,333	3,153,238	1,629,217	256,825	245,806	254,760	289,081	245,782	232,278
	輸入	1,735,329	1,762,757	879,716	163,624	133,446	143,180	158,554	137,546	148,023
	收支	1,457,004	1,390,481	749,501	93,201	112,360	111,580	130,527	108,236	84,255
싱가포르	輸出	2,259,586	2,449,630	1,189,418	211,673	197,166	227,448	220,456	196,004	207,499
	輸入	796,741	710,083	366,875	55,439	54,275	57,597	63,874	54,428	56,935
	收支	1,462,845	1,739,547	822,543	156,234	142,891	169,851	156,582	141,576	150,564
香 港	輸出	2,759,968	3,297,762	1,561,612	276,270	278,977	287,891	292,940	271,574	329,929
	輸入	280,099	272,146	141,806	20,115	19,931	24,886	22,785	20,368	21,752
	收支	2,479,869	3,025,616	1,419,806	256,155	259,046	263,005	270,155	251,206	308,177
台 湾	輸出	2,825,133	3,335,154	1,574,958	283,799	265,633	296,012	307,180	280,285	327,482
	輸入	1,627,657	1,510,932	794,406	131,361	109,156	116,240	123,882	111,113	120,933
	收支	1,197,476	1,824,222	780,552	152,438	156,477	179,772	183,298	169,172	206,549
中 国	輸出	2,382,363	2,630,721	1,191,113	227,507	185,812	216,730	235,465	229,076	344,878
	輸入	4,399,676	5,061,673	2,407,317	409,490	424,162	491,376	494,665	405,973	425,739
	收支	△ 2,017,313	△ 2,430,952	△ 1,216,204	△ 181,983	△ 238,350	△ 274,646	△ 259,200	△ 176,897	△80,861

(주) △는 적자를 나타냄

(출처) 대장성 통관 무역 통계에 의거하여 JETRO가 작성

표 9 일본의 對 한국 수출 (총액과 주요 제품)

(단위: 10억엔, 하단은 %)

	96年	97年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
総額	3,192.3	3,153.2	242.5	261.4	293.7	300.1	272.6	258.8	256.8	245.8	254.7	289.1	245.8	232.3
신장율	9.0	Δ 1.2	19.5	4.1	2.3	12.5	0.4	Δ 4.5	11.9	Δ 7.3	Δ 5.2	4.8	Δ 7.2	Δ17.0
化学品	411.9	453.8	37.2	38.0	42.4	44.9	40.0	35.1	35.5	35.2	36.0	38.8	35.9	34.8
신장율	5.1	10.4	20.6	9.7	9.6	24.2	5.8	5.3	7.3	11.8	18.3	16.6	4.1	Δ 5.6
金属品	343.9	365.1	26.4	29.5	34.8	29.6	31.6	30.4	28.9	29.6	30.7	34.5	31.3	27.8
신장율	6.3	6.0	Δ 0.4	Δ 1.8	3.5	Δ 0.5	9.8	10.0	3.0	13.2	17.2	27.1	5.7	Δ10.0
(鉄鋼)	239.8	248.1	16.3	18.3	23.1	20.0	21.9	20.8	19.0	19.9	22.1	24.4	22.6	20.0
신장율	8.1	3.4	Δ16.1	Δ17.6	Δ 3.0	Δ 4.8	11.6	6.6	Δ 3.1	4.2	18.1	34.8	19.9	Δ 1.0
一般機械	908.9	748.7	58.4	66.5	68.6	79.4	69.5	62.5	60.9	61.0	61.2	66.6	49.8	44.4
신장율	14.8	Δ17.6	18.3	5.5	Δ14.1	6.1	Δ15.0	Δ23.8	Δ35.9	Δ24.6	Δ31.2	Δ11.0	Δ22.3	Δ39.8
電気機械	854.9	934.6	64.4	74.5	85.9	88.7	73.8	78.7	77.2	69.2	75.7	90.6	78.0	77.9
신장율	12.6	9.3	21.7	10.2	12.8	23.9	8.6	7.4	3.1	Δ 0.1	5.4	18.6	6.2	Δ 2.1
(半導体等電子部品)	351.1	370.2	29.0	32.0	32.7	34.8	28.8	30.6	31.8	28.0	29.3	34.6	29.9	28.8
신장율	13.3	5.5	26.6	21.5	7.9	21.9	6.8	1.2	4.1	Δ 2.6	0.5	7.6	Δ 5.3	Δ14.5

(출처) 무역개황

(주) 신장율은 전년 (동월) 대비

표 10 일본의 對 한국 수입 (총액과 주요 제품)

(단위: 10억엔, 하단은 %)

	96年	97年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
総額	1,735.3	1,762.8	142.3	132.7	152.8	152.5	152.3	147.1	162.9	133.7	142.8	158.4	137.5	148.0
신장율	7.0	1.6	Δ 0.9	Δ 5.1	3.1	Δ 2.6	Δ 1.5	18.3	12.2	1.1	Δ 0.3	5.6	Δ 9.0	Δ 2.1
食料品	199.4	199.1	14.7	12.2	14.8	17.0	15.0	12.8	21.0	14.7	16.3	22.8	18.1	19.7
신장율	15.2	Δ 0.1	19.7	Δ 2.3	2.1	Δ18.7	Δ17.4	Δ11.3	39.4	7.1	Δ 5.4	10.2	Δ10.4	Δ 0.1
鉱物性燃料	171.3	183.4	15.0	19.8	21.7	16.1	17.1	11.8	15.0	8.0	12.2	13.4	13.2	20.0
신장율	114.2	7.0	52.8	152.9	77.5	28.3	9.0	7.9	0.5	Δ46.7	Δ10.4	Δ27.6	Δ31.0	Δ 4.8
機械機器	573.4	597.2	46.8	42.7	50.9	48.4	52.7	55.8	57.0	50.0	50.4	50.9	46.2	45.5
신장율	0.3	4.1	Δ20.6	Δ21.1	Δ19.2	Δ 2.8	5.7	40.8	25.5	40.0	23.4	22.5	Δ 4.4	Δ 1.9
(半導体等電子部品)	268.7	263.6	19.8	17.8	21.0	20.7	23.8	27.3	25.4	24.2	23.3	22.7	20.0	17.6
신장율	Δ12.7	Δ 1.9	Δ41.9	Δ41.7	Δ42.4	Δ14.7	1.4	75.8	47.6	71.7	47.3	42.8	Δ 5.0	Δ13.3
繊維製品	212.6	166.4	13.7	13.1	14.7	15.9	13.4	12.5	14.9	14.7	14.3	13.7	12.6	13.1
신장율	Δ 9.5	Δ21.7	Δ22.9	Δ29.9	Δ15.3	Δ24.9	Δ19.2	Δ16.5	Δ22.2	Δ24.5	Δ30.3	Δ30.3	Δ20.3	Δ11.4
金属品	216.3	240.3	22.1	16.4	18.4	22.4	20.1	20.4	20.3	17.7	20.8	23.5	18.1	20.0
신장율	Δ 5.1	11.0	Δ29.3	Δ 4.3	29.7	16.5	8.4	36.2	13.9	0.1	7.2	6.6	Δ 2.7	1.9
(鉄鋼)	160.2	174.5	16.5	12.3	13.2	15.7	14.4	14.4	13.5	13.7	15.1	17.8	12.7	15.1
신장율	Δ 5.9	9.2	28.2	Δ 5.0	35.5	11.6	7.7	32.2	9.1	4.1	2.2	5.8	Δ 7.8	1.7

(출 처) 무 역 개 황

(주) 신장율은 전년 (동월) 대비

〈第 1 分科會 自由討論〉
(貿易關聯分野)

自 由 討 論

麻生 泰 日本側 코디네이터

그럼 지금부터 자유토론을 시작하겠습니다. 지금까지 양측으로부터 무역관련 문제에 대해 발표가 있었습니다만, 이 발표를 토대로하여 활발한 의견개진을 부탁드립니다. 서두에서도 말씀을 드렸습니다만, 질문이나 의견이 있는 경우에는 손을 들고 회사명과 소속, 성함을 말씀해 주신 후에 의견을 말씀해 주시면 고맙겠습니다. 그리고 발언시간은 5분 이내로 하겠습니다. 그럼 의견이 있으신 분 계십니까? 네, 經團連의 미요시(三好)씨 부탁드립니다.

三好正也 (社)經濟團體連合會 參與

경단련의 미요시(三好) 입니다. 두 분의 발표는 특히 최근의 여러 가지 데이터를 인용한 것이어서 많은 참고가 되었습니다. 방금 휴식시간에 제2분과회에서 후카가와(深川) 조교수가 말씀하신 포인트를 들었습니다만, 본 분과회와 관련이 많아 그 관련부분만 인용하여 말씀드리겠습니다.

과거 한일간의 무역·경제관계는 쌍무적인 관계로 논의되어 왔습니다만, 멀게는 10년전, 가깝게는 3~4년전부터 일본은 對아시아투자가 증가하였고, 한국도 아시아국가에 투자를 하고 있습니다. 이에 따라 한국제품이 제 3국을 경유하여 일본으로 들어 오거나, 아니면 일본제품이 제 3국을 통하여 한국으로 들어가는 복잡한 구조를 갖게 되었습니다.

그러나 앞으로는 현재의 외환위기라든가 혹은 일본의 장기적인 불황과 한국에서도 큰 이슈가 되고 있는 금융빅뱅 등으로 인하여 다시 양국간의 대화가 상당히 활발해 질 것 같다는 후카가와(深川)씨의 지적이 있었습니다.

어제 고지마(小島) 위원장의 말씀도 있었지만, 무역과 투자가 일체화되어 있다는 면에서 양국의 경제구조는 앞으로 계속 통합의 방향으로 나아갈 것으로 생각됩니다. 어제 具平會 회장의 발표에서도 지적이 있었습니다만, 중국과 한국, 일

본 3개국이 지역통합을 추진하여 구미에서 나타나고 있는 활황을 되찾아야 된다는 말씀에 저도 전적으로 동감입니다. 중국은 지금 약간 특수한 상황에 있어 일단은 한국과 일본이 서로 협력을 활발히 해야 할 것으로 생각합니다.

그럼 먼저 이시가와(石川)씨에게 질문하겠습니다. 어제 具平會 회장이 제안하신 중국과 한국과 일본의 경제통합은 어느 정도의 시간이 소요될 것인지, 그리고 오늘 발표하신 내용 가운데, 필리핀의 경제가 순조롭게 잘 풀려 나가고 있는 원인은 무엇인지에 대해 말씀 부탁드립니다.

다음으로 程勳 박사께 2가지 질문을 드리겠습니다. 하나는 수입선다변화제도의 철폐에 대해서 입니다. 철폐 스케쥴은 대부분이 '99년 1월로 철폐하는 것으로 알고 있는데, 16개 항목은 '99년 6월까지 남아 있을 것이라고 말씀하셨습니다. 그러면 일본측이 관심을 갖고 있는 자동차라든가 이동통신단말기 등이 그 16개 항목에 포함되는지 안되는지에 대해 말씀해 주시기 바랍니다. 사실 개별업계의 입장에서 보면 6개월 차이라는 것은 대단히 큰 차이이기 때문입니다.

또하나는, 具平會 회장의 연설에서 제안된 중국, 한국, 일본의 경제통합의 가능성에 대해 말씀해 주시기 바랍니다.

다음으로 질문은 아닙니다만, GSP에 관한 사항입니다. 저는 GSP제도가 후퇴되는 일은 있을 수 없다고 생각합니다. 이미 재작년에 한국은 OECD에 가입하여 선진국입니다. GSP라는 것은 선진국이 개도국에게 공여하는 특혜국대우관세인 것이고, 하나의 기준으로서 1인당국민소득이 1만달러라고 하는 척도가 있는 것입니다. 일단 OECD에 가입한 이상은 약간 어려우시겠지만 좀 참고 견뎌야 할 것으로 생각합니다.

마지막으로 기술이전 지급액에 관한 사항입니다. 기술이전이 건수는 줄었는데 기술료는 늘어나고 있다는 말씀이 있었습니다. 건수는 플로어입니다. 그해 그해에 따라서 적어지기도 하고 많아지기도 합니다. 그렇지만 기술료라고 하는 것은 몇 년 계약이라는 식으로 지불이 됩니다. 따라서 기술료가 늘어난다고 하는 것은 누계로 하는 것이기 때문에 너무나도 당연한 일이라고 생각합니다. 이 부분이 지나치게 강조되게 되다 보면 오해의 소지가 있기 때문에 말씀드리는 것입니다. 감사합니다.

麻生 泰 日本側 코디네이터

그러면 죄송합니다만, 이시가와(石川)씨 답변해 주시겠습니까?

石川幸一 日本貿易振興會 海外調査部 아시아大洋州課長

그럼 두번째 필리핀 문제부터 답변드리겠습니다. 80년대 여러분들 기억이 아직까지 새로우시겠습니다만, 아키노사건도 있고 해서 경제, 정치가 대혼란상태에 빠졌습니다. 그것을 수습하기 위해서 IMF로부터 융자를 받아서 IMF의 지도를 받았습니다. 이번에 외환위기에서 각국이 받아들이고 있는 것과 같은 대규모적인 것은 아닙니다만, IMF의 지원을 받았던 적이 있습니다. IMF 지원중에서 특히 외자도입을 위한 환경을 조성한다든지 혹은 정부의 재정수지를 개선한다든지, 그리고 국유기업의 민영화를 추진하는 식으로 경제 자체의 체질을 강화하는 정책을 추진해 왔습니다. 그러한 과정에서 대외채무 등도 많이 줄어들어 여타 아세안 나라들, 예를 들어서 태국이 부동산 버블로 된 것과 비교하면 필리핀이 상당히 그러한 면에서는 경제의 기반이 좋아졌다는 것이 하나 있습니다.

그리고 또하나 80년대에 대단히 혼란상태에 있었다는 점이 반대로 아주 장점으로 작용해서 성장률이 높지 않았었기 때문에 외국의 단기자금이 다른 나라보다 크게 유입을 하지 않았다는 사실이 있습니다. 예를 들어서 버블등 거품경제도 다른 나라보다는 두드러지지 않았다는 사실이 있습니다. 따라서 경제혼란의 결과로서 다른 나라보다 고성장을 이루지는 못했지만 그것이 오히려 현재 장점으로 작용했다고 볼 수 있습니다.

그리고 또하나 수출에 대해서 말씀드리면, 필리핀의 경우 과거의 경우도 있고 해서 대미 수출이 많은 편입니다. 아시다시피 미국의 경기는 아주 호조입니다. 그래서 다른 나라에 비해서 그러니까 동아시아 역내, 일본을 포함하면 5할 정도가 되는데, 필리핀의 경우는 미국에 대한 것이 상당부분을 차지하고 있습니다. 그래서 역내 부분이 경기가 침체되어 있기 때문에 역내 대상은 줄어들고 있습니다만, 미국을 향한 것은 아주 좋습니다. 그래서 대미국 수출이 좋다는 것은 수출의 신장률도 비교적 양호하다는 원인이 되지 않을까 생각합니다.

그리고 첫번째 질문, 한국·중국·일본의 경제지역통합 문제입니다. 이 문제에 대해서 하나는 민간차원에서 무역투자를 통해서 관계가 깊어지고 있다는 상황은 추진되고 있습니다. 저는 아세안쪽에서 상당히 오랫동안 관여를 해 왔기 때문에, 예를 들어서 일본과 아시아관계도 통화위기에 따른 무역축소는 있습니다만, 장기적인 추세로 보면 일본과 아시아의 관계가 깊어지고 있습니다. 예를 들어 중국의 경우 중화경제권이라고 하는 생각도 있습니다만, 중국·홍콩·대만과 같은 중화민족경제권을 통합해 나가는 생각도 있습니다. 그리고 아시아 속에서도 아세안을 하나의 경제권으로 보자는 생각도 있습니다. 그리고 또하나는 아시아뿐만

아니라 미국이 큰 존재인데 이번 외환위기에서도 미국을 향한 수출은 신장세를 보이고 있기 때문에 일본·한국·중국이 협력해서 문제를 해결하는 것은 저는 전적으로 찬성을 하고, 무역투자를 통해서 경제관계를 심화시키는 것도 좋다고 생각은 합니다만, 일본과 한국, 중국 3개국만의 지역통합이라는 것은 여러 다른 움직임을 볼 때 아직 어떨까 라는 생각이 저의 인상입니다. 이상입니다. 감사합니다.

三好正也 (社)經濟團體連合會 參與

시간적으로 어느 정도 소요될 것 같습니까?

石川幸一 日本貿易振興會 海外調査部 아시아大洋州課長

일본·중국·한국만으로 추진하는 것이 어떨까? 현재 日中, 日韓, 韓中, 韓日 관계는 각각 진행되고 있습니다. 그래서 그것과 어떤 식으로 관련될 것인지, 따라서 시간적인 문제를 언급하는 것은 대단히 어렵습니다. 예를 들어 중국도 통화를 절하하지 않고 평가를 그대로 받고 있습니다. 그런데 국내쪽으로 보면 국유기업의 개혁을 비롯한 국내의 경제개혁이라든지 행정개혁을 추진하지 않으면 안되고, 일본도 현재 빅뱅과 큰 경기침체를 맞이하고 있습니다.

그리고 한국에서도 IMF시대라는 경제위기에 직면하고 있고, 그 속에서 노력을 하고 계십니다. 그러니까 경제환경이 대단히 어려운 상황입니다. 이를 감안하면 지역통합이 어느 정도 시간을 두고 이루어질 것인지라는 것은 말하기가 참 어렵습니다. 물론 21세기에 들어가면 통화위기의 영향에서 각국 경제는 회복할 것입니다. 따라서 그것을 생각하면 21세기의 과제라고 할까요? 이것은 어디까지나 저의 인상적인 말씀입니다. 이상입니다.

麻生 泰 日本側 코디네이터

程勳 박사님, 질문이 있었는데, 그 중에 대답해 주실 수 있는 범위내에서 말씀해 주셨으면 합니다.

程 勳 對外經濟政策研究院 責任研究員

대단히 좋은 질문을 해 주셨습니다. 네가지 질문이 있었는데 하나하나 간단히

답변하겠습니다.

수입선다변화제도를 원래 일정인 2000년 1월 폐지에서 1999년 6월로 앞당겨 폐지하기로 되어 있습니다만, 일본의 관심의 대상이 되고 있는 수입선다변화 품목 가운데 한국에서 1998년 1월에 25개 품목을 폐지했습니다. 그 가운데는 배기량 1,000cc 이하인 세단형자동차, 배기량 1,000~1,500cc 사이인 가솔린엔진의 지프형자동차, 레이저디스크플레이어, 보온병, 아날로그·디지탈겸용 손목시계와 같은 품목들이 포함되어 있습니다. 그리고 아까 그 16개 품목을 말씀하셨는데 '98년 1월 1일 현재 잔존해 있는 수입선다변화 품목은 88개가 남아 있습니다. 예를 들면 아까 말씀드린 배기량이 1,000cc 초과인 세단형자동차라든가 1,500cc 초과인 지프형자동차, 전기밥솥, 캠코더, 21인치이상 컬러TV, 팩시밀리, 휴대전화등 여러가지 품목이 포함되어 있습니다. 그러나 이러한 품목의 해제는 민간업계의 의견을 들어서 산업자원부 장관이 그 품목을 공시하기로 되어 있기 때문에 앞으로 어떤 품목들이 '99년 1월에 폐지될 것인가는 저로서는 말씀드리기가 어렵습니다. 그러나 어쨌든 IMF 구제금융을 계기로 한국이 IMF와 협약한 것도 있고, 또 아까 논문에서도 지적이 되었습니다만, 외국으로부터 해외투자가 많이 들어오는 경향에 있기 때문에 수입을 규제하는 자체가 별로 의미가 없지 않느냐, 그래서 아마 한국 정부에서도 수입선다변화 품목은 가능한한 빨리 철폐시키려고 노력해 갈 것으로 예상이 됩니다. 이상으로 수입선다변화제도에 대한 질문에 대신하겠습니다.

두번째로 중국·한국·일본의 경제통합에 대한 제 나름대로의 생각을 부탁하셨습니다만, 이것에 대해서는 제가 연구한 바 있습니다. 중국이 지금 상당히 부상하고 있습니다. 대만, 홍콩은 이미 편입이 되었습니다만, 중국을 중심으로한 화인경제권이 지금 대두하고 있고, 또 아세안이 비록 지금 통화위기로 약간 침체상태에 있긴 하지만 아세안의 발언권이 상당히 확대되고 있습니다. 그러니까 중국이나 아세안은 어느 정도 경제권이 있는 것이죠. 그러나 한국, 일본에는 글로벌한 경제권에 있죠. 예를 들면 APEC이라든가 ASEM 등이 있지만 실질적으로 자기들이 주도권을 행사할 수 있는 경제권이 없는 실정입니다. 그래서 중국의 부상, 아세안에 대한 대응을 위해서도 한국·일본의 공동대응이 필요하지 않느냐 하는 생각이 듭니다. 다시 말해서 소외되는 현상을 막기 위해서라도 공동대응이 필요하지 않겠는가? 그 한 예로서는 중국진출을 위해서 한국과 일본이 공동으로 협조해서 중국진출을 한다던가, 아니면 한국, 일본, 화인경제권에 있는 말레이지아, 대만 등과 같이 기업끼리 협동해서 중국에 진출할 수 있는 방안도 모색될 수

있겠습니다. 어쨌든 지금 미국, 러시아, 중국, 한국이 북동아시아를 구성하고 있습니다. 그러나 그들간의 협력은 아직 활성화되지 못하고 있는 형편입니다. 우리나라에서는 환황해경제권, 그리고 일본에서는 환일본해경제권과 같은 구상이 떠오르고 있습니다만, 아직은 출발단계에 있다고 할 수 있습니다. 일본의 동아시아연구소의 재일교포 강영지씨가 계시는데 그 분이 한·중·일·러시아와 같은 북동아시아간의 협력을 위한 국제심포지움을 두 세차례 개최하였습니다. 그래서 예를 들면 두만강개발이라든가 큐슈와의 경제교류, 연변과의 경제교류를 위해서 민간인들간의 협력을 활성화시키고 있습니다. 그러나 결론적으로 말씀드려서 한·중·일의 경제권형성은 아직은 먼 이야기가 아닌가 하는 느낌이 듭니다.

세번째 질문에 답하겠습니다. GSP에 대해서 재고해 달라는 의견이 있었습니다만, 한국이 이미 OECD에 가입해 있기 때문에 GSP제도 폐지를 재고해 달라는 것은 어렵지 않느냐고 말씀해 주신 것은 저도 동감합니다. 현재 한국 정부로서도 일각에서는 이 GSP를 요구하는 것이 조금 무리지 않느냐 하는 견해도 있습니다. 그러나 지금 한국경제는 IMF 구제금융사태로 인해서 대단히 어려운 상태에 있습니다. 어쨌든 1인당국민소득이 9천달러 이하로 떨어질 것이 확실하고 그런 형편에 있기 때문에 일본이 한국의 경제상황을 봐 가면서 이 GSP제도를 점진적으로 회수해 나가는 것을 저는 주장하는 것입니다. 폐지라는 원칙에는 저도 동감합니다만, 일본이 지금까지 경기부양책을 상당히 점진적으로 실시해 왔는데 우리 한국에 대한 GSP 폐지에 대해서도 보다 점진적으로 재고해 줄 것을 요청합니다.

다음으로 네번째 기술도입지급료에 대해서 말씀하셨는데 제가 말씀드린 것은 플로우, 그러니까 매년 이루어지는 지급에 대한 통계를 바탕으로해서 말씀드린 것입니다. 그러나 기술도입이라는 것은 계약후에 지급되는 것까지의 타임레그도 있을 수 있을 것이고, 그런 문제가 있기 때문에 통계에 대해서는 논란의 여지가 있지만, 한국에서 발행되는 통계에 의하면 1993년에 35,290만달러의 기술지급료가, 1994년에는 39,860만달러, 1995년에는 69,460만달러, 1996년에는 72,390만달러로 대폭적으로 증가하고 있는 것만은 확실합니다. 이 부분에 대해서 개인적으로 나중에 서로 디스커션을 할 기회가 있을 것으로 생각이 되고, 어디까지나 일본이 보다 적극적으로 기술후진국인 한국에 대해서 기술공여를 해 주시기를 원합니다. 제가 일본경제연구센타에서 나오는 일본경제연구라는 잡지에 발표한 것이 있는데, 일본이 동남아시아를 위시한 동아시아에 직접투자를 늘려도 수출은 줄지 않고 있습니다. 가만히 생각해 보니까 일본이 해외직접투자를 하면 원래 수출이

줄어야 하는데 늘고 있는 것은 동아시아국가들이 Supporting Industry(기반산업)가 발달이 안되서 원자재 부품을 전부 일본에서 수입하고 있습니다. 그래서 일본에서 직접투자를 해도 생산에 필요한 원자재 부품을 전부 일본에서 가져다 쓰다보니까 중간재 수출이 늘어나게 되어서 수출도 줄지 않고 늘어난 것이 아닌가라고 일본의 一橋대학의 후까오교지 교수와 공동연구한 결과 판명이 되었습니다. 미국이나 유럽에 대해서는 일본의 직접투자가 늘면 수출이 줄어드는 현상이 엿보이는데, 아시아에 대해서만 유독 직접투자가 늘어도 수출이 늘어나는 이상한 현상이 발생되고 있는 것입니다. 이상입니다. 감사합니다.

李 吉 鉉 韓國側 코디네이터

미요시(三好) 선생께서 좋은 질문을 하셨는데 제가 경험한 것을 한 두가지 말씀드리면, 여러분 서울에 오시면 아마 볼 수 있을 것입니다. 서울에 아끼하바라와 같은 가전전자상가가 용산에 있습니다. 그 곳에 가보면 한국 국내에서 만든 가전제품보다 일제 제품이 10%, 심지어는 25%까지 저가로 팔리고 있습니다. 그런데 일본 국내에서 만들어서 도입해 온 것이 아닙니다. 중국에서 부품을 만들어서 동남아시아의 싼 임금의 나라에서 조립한 물건들이 전부 상륙해 오고 있습니다. 그래서 실제로 많이 팔리고 있고 거기에는 아까 지적하신 휴대전화를 비롯하여 여러 가지 가전제품이 많이 있다는 것과, 또 해외에서 만든 일본의 자동차도 역으로 한국에 들어온 것이 한국의 국내자동차 2,000cc, 2,500cc, 3,000cc보다 더 싸게 팔리고 있다는 것도 여러분이 와서 조사해 보시면 알 수 있을 것입니다.

또 하나 제가 30년 가까이 일본의 기술도입을 해 온 경험으로 비추어 볼 때, 역시 기술이라고 하는 것은 여러분이 가지고 다까라노 모찌구사레가 아니고 제때에 그것을 합당한 가격으로 넘겨 줬을 때, 그것이 무슨 건수나 금액으로 따질 것도 아니고, 어디까지나 정부의 강제가 아닌 민간기업끼리 잘 협동해서 찬스를 잘 포착하는 그런 기업이 살아남지 않겠느냐는 생각이 들어서 답변에 보충해서 말씀을 올렸습니다. 고맙습니다.

麻生 泰 日本側 코디네이터

감사합니다. 그러면 일본측에서 질문했기 때문에 한국측에서 발표하실 분 계시면 부탁드리겠습니다.

李 吉 鉉 韓國側 코디네이터

다른 또 보충질문 있으시면 한국측에서 말씀해 주시면 고맙겠습니다. 一橋대학의 객원교수로 와 계시는 김도형 박사께서 말씀해 주시기 바랍니다.

金 都 亨 一橋大學 招聘敎授

고맙습니다. JETRO의 이시가와(石川)씨에게 네가지 정도 제 의견과 함께 질문을 드리겠습니다.

첫째, 여러분도 아시다시피 현재 불행하게도 아시아 통화위기 극복을 위해서 전혀 관련국들이 제 역할을 하지 못한채 중국의 통화가치 절하자제에 의존하는 상황이 지금 벌어지고 있습니다만, 중국의 통화가치 절하도 금년중에 예상이 되고 있고, 또 선진 각국에서 금리를 인상하려는 움직임을 보이고 있습니다. 이런 상황에서 이시가와(石川)씨가 제일 마지막에 결론을 내리고 있습니다만, 앞으로 당분간은 일본의 아시아지역에 대한 수출 강화와 현지조달 강화, 합리화를 추진하겠다는 기업이 많기 때문에 동아시아로의 투자도 단기적으로는 증가하지 않을 것이다라는 의견에 저도 전적으로 동감을 합니다. 이렇게 된다면 앞으로 아시아 금융위기가 당분간은 해결되지 않고 상당 기간 지속될 것이 아니냐는 전망을 할 수가 있겠습니다. 여기에 대한 의견을 말씀해 주시기 바랍니다.

두번째는, 어제 JETRO의 토요지마(豊島) 이사장님께서도 말씀하셨습니다만, 일본의 수출입은행이 무역투자신용, 소위 투스텝론 등의 제도를 활용해서 한국에 도움을 주겠다는 말씀을 하셨습니다. 제가 알기로는 일본 정부에서 준비하고 있는 이 무역투자신용제도, 또는 기존의 보험기능 확대조치 등은 주로 대 아세안진출 일본기업용으로 마련되고 있기 때문에, 이것이 한국 수출기업에 과연 확대 적용될 수 가 있을 것인지 의문을 갖습니다. 여기에 대해서 확인을 하고 싶습니다.

세번째, 금년 들어서 일본의 조선업계가 한국 정부, 혹은 일본 정부에 대해서 IMF 구제금융을 활용해서 사양화, 경쟁력이 떨어져 가고 있는 한국의 조선업계에 보조금을 지급하게 되면 오히려 한국의 조선업을 도와주는 격이 되기 때문에 그것은 결국 일본의 시장에 침투하게 되는 결과를 초래하게 된다, 따라서 그것을 자제했으면 좋겠다는 의사를 신문지상을 통해서 발표를 한 적이 있습니다. 이와 같이 조선부문을 포함해서 반도체, 철강, 석유화학 등이 한국이 원화절하, IMF 구제금융, 내수부진 등을 원인으로 해서 대일수출이 급증하게 되면 일본시장이 상당히 한국제품에 의해서 잠식이 될 것을 우려하는 분위기가 지금도 남아있는

상황에 있습니다. 그러나 이런 각 부문에 있어서의 한국 산업의 취약점, 말하자면 한국의 경우는 반도체 메모리가 90%를 차지하고, 또 철강도 주요 고급부품은 일본에서 수입하고, 조선의 경우도 주요 기자재, 엔진 등은 일본에서 수입하는 대일수입의존도가 높을뿐만 아니라 원화가 절하되었다고 하더라도 이렇게 대일수입의존도가 높기 때문에 수입부품가격의 상승으로 인해서 채산성이 개선되고 있지 않습니다. 이시가와(石川)씨께서 계산해 놓았습니다만, 금년 2월말 현재로해서 원화가 50% 정도 절하가 되었지만, 그 절하된 만큼 한국 수출기업의 채산성이 개선되고 있지 않습니다. 제 계산으로 한다면 불과 7% 정도밖에 채산성이 개선되고 있지 않습니다. 이런 상황에 있음에도 불구하고 일본의 수입기업들은 한국 수출업체에 대해서 수출가격 인하요구를 강하게 하고 있습니다만, 채산성이 확보되지 않은 상황에서 저가로 투매하는 상황은 앞으로 없지 않을까 하는 생각을 합니다. 이렇게 일본의 동종업계가 지나치게 우려를 하고 있기 때문에 한국의 수출이 상당히 지장을 받는 결과를 초래하고 있어서 업계상황에 대해서 좀 확인을 하고 싶습니다. 그래서 앞으로는 가능한한 한국은 무모한 설비투자도 자제해야 되겠지만, 한일양국이 합의적인 분업을 해 나가야 되지 않겠느냐는 생각을 하고 있습니다. 여기에 대한 답변을 해 주시기 바랍니다.

마지막으로 아시아의 통화위기란 결국은 압도적인 달러의존체제에서 비롯된 것이기 때문에 장기적으로 봐서 엔(¥)을 포함한 복수통화제도로 수정을 해야 됩니다만, 아직도 여전히 압도적으로 달러에 의존하는 체제하에 있기 때문에 엔(¥)의 국제화가 시급한 상황에 있습니다. 제 연구소에서 계산한 바에 의하면, 만약에 타이와 인도네시아, 필리핀, 한국을 포함해서 달러의 연동변화율을 지금까지와는 달리 2배로 증가시키고, 엔의 연동변화율을 1/2로 삭감을 했다고 한다면, 아시아 각국에 대한 단기자금의 유입·유출이 상당히 억제되었을 것으로 계산이 되고 있습니다. 이것을 염두에 둔다면 여하히 엔을 복수통화 속에 높은 비율을 차지할 수 있도록 엔과 연동시켜 가느냐 하는 문제라고 생각이 됩니다. 이렇게 하자면 엔의 국제화가 시급한 과제로 등장하고 있습니다. 여기에 대해서 일본 정부, 혹은 관련연구기관은 어떠한 자세로 임하고 있는지에 대해서 알려주시면 감사하겠습니다. 이상 네가지를 부탁 말씀드렸습니다. 고맙습니다.

麻生 泰 日本側 코디네이터

진행역으로 우선 말씀드리겠습니다만, 처음에 말씀드렸듯이 지금 집필자 두 분께 질문이 집중되고 있는데, 지금까지와 같이 집필자와 여러분과의 의견교환이

주된 목적이 아닙니다. 따라서 플로어에서도 자유로운 발언을 기대하겠습니다. 지금 김도형 박사님께서 이시가와(石川) 선생님께 네가지를 질문하셨습니다. 대답할 수 있는 범위내에서 이시가와(石川) 선생님, 코멘트를 해 주셨으면 합니다. 저를 포함해서 모든 분들이 관심을 갖고 있는 부분입니다. 부탁드립니다.

石川幸一 日本貿易振興會 海外調査部 아시아大洋州課長

방금 김도형 선생님께서 네가지 아주 중요하고 광범위한 질문을 해 주셨습니다. 두번째 수출입은행의 안건에 대해서는 저희와 다른 정부기관이고 업무내용도 완전히 다르기 때문에 책임있는 대답을 할 수 없기 때문에 관계자가 계시면 그 분이 설명해 주시기 바랍니다. 그리고 일본 업계의 상황에 대해서는 오히려 플로어에 계시는 경영자분들이 훨씬 저보다 잘 알고 계시리라 생각합니다. 그래서 플로어에서 대신 설명해 주시기 바랍니다.

그러면 일본의 아시아에 대한 투자에 대해서 말씀드리겠습니다. 하나는 아시아 각국은 현재 혼란상태에 빠져 있습니다. 경제가 혼란상태에 있고, 그리고 인도네시아 같은 나라는 정치·사회분야에서 혼란이 계속되고 있습니다. 앞으로 1년정도 일본의 신규투자는 늘지 않을 것으로 전망됩니다. 다만 특히 태국에서 지금 이루어지고 있는데 대구미의 현지기업의 경영상황이 안좋기 때문에 증자를 한다든지 그러한 움직임은 앞으로 보일 것입니다. 그리고 또하나 각국의 통화가 절하되어 있기 때문에 엔화로 봤을 때, 그리고 달러로 봤을 때 투자코스트가 떨어지고 있습니다. 예를 들어 저희들 JETRO에서 매년 아시아 각국에서의 투자코스트 비교를 하고 있습니다. 종전에는 중국이 인건비에서는 가장 염가였습니다. 그리고 인도네시아, 말레이지아와 같은 아시아 각국이 다음인데요, 통화위기 이후 그 차이가 줄어들고 있습니다. 예를 들어 인도네시아는 중국보다 달러표시로 보면 낮은 수준입니다. 따라서 투자코스트면의 利點, 혹은 각국이 외자유치를 하기 위해서 외자규제를 완화하고 있는 면에서 보면 특히 수출형을 중심으로 한 투자가 경제혼란이 수습되면 늘어나지 않을까 라고 보고 있습니다. 특히 구미기업들이 실제로 얼만큼 계약을 하고 있는가에 대해서 정확하게는 잘 모르겠습니다만, 투자코스트가 떨어지고 있다 라는 면에서 아시아시장에 상당히 활발하게 진출할 것이다 라는 보도는 나오고 있습니다. 이에 비해서 일본의 경우 신규투자라고 하는 면에서는 별로 나오고 있는 정보가 없는 것 같습니다.

그 다음 네번째 질문도 금융관련 질문이었던 것 같습니다. 금융업에 종사하시는 분께서 답변을 하시든가 의견을 말씀해 주시는 것이 좋을 것 같은데, 달러의

존, 달러링크입니다. 실질적인 고정환율제였다 라고 하는 것이 이번 외환위기의 직접적인 원인이였습니다. 엔의 사용율을 늘리고 엔의 국제화가 필요하다는 점에 대해서는 저도 공감하고 있습니다. 그렇지만 이를 위해서는 엔이 얼마만큼 유효한 화폐인지 그 유효성을 재고하는 것이 정책적으로 필요하지 않겠는가라고 생각합니다. 또 하나 말레이지아의 수상이 했던 얘기인데, 달러에 대한 지나친 의존을 없애기 위해 말레이지아와 인도네시아는 서로 각국의 통화로 결제를 하자는 아이디어가 나오고 있습니다. 그리고 유럽에서 화폐를 통합하려고 하고 있습니다. 달러를 가급적이면 쓰지않고 유로통화로 결제를 하려고 하는 움직임도 나오고 있습니다. 아세안이라든가 아시아국가들간에 서로의 통화로 결제를 하게될 경우, 일본에서 현지에 진출해 있는 기업입장에서 보면 약간의 문제점은 있는 것입니다. 그러니까 달러의존과 엔의 국제화, 달러의존의 지양이라는 부분에는 어떤 장애요소도 있고, 따라서 정책적인 배려가 필요하지 않을까 라고 생각합니다. 이 부분에 대해서는 금융관계에 계신 분들이 더 잘 아실 것 같습니다. 의견을 들을 수 있으면 고맙겠습니다. 감사합니다.

麻生 泰 日本側 코디네이터

방금 김도형 선생님께서 네가지 질문을 하셨고, 이 부분에 대해서 이시가와(石川)씨가 답변해 주셨습니다. 이시가와(石川)씨가 말씀하셨지만 관련업계 분들 중에서 보충적으로 답변해 주실 분이 계시면 답변해 주시겠습니까? 네 그러면 스미토모상사의 아끼야마(秋山) 상담역께 발언을 부탁드리겠습니다.

秋山富一 住友商事(株) 相談役

아끼야마(秋山) 입니다. 저는 먼저 어제부터 여러분의 발표와 의견을 들으면서 느꼈던 소감을 말씀드리고자 합니다. 그 후에 몇가지 질문을 드리겠습니다. 플로어에 계시는 한국측 참가자들이 답변해 주시면 고맙겠습니다.

어제 기조연설과 오늘 程勳 박사님, 이시가와(石川)씨의 얘기를 들으면서 이번 회의가 아주 어려운 상황속에서 개최하게 되었다는 것과, 본 경제인회의가 30회로서 대단히 기념할만한 회의이긴 하지만 이것이 일한·한일의 새로운 관계구축을 위한 제 1회의 회의가 되는 것이 아닌가 하는 생각을 가졌습니다. 왜 이런 느낌을 갖게 되었는지 한마디로 말쓰드리면, 일본이나 한국이나 또 아시아 모두 대단히 어려운 문제를 안고 있습니다. 그러한 가운데 현재의 어려움을 전화위복

의 계기로 삼을 수 있을 것이라고 생각합니다. 다른 분들도 이런 취지의 발언을 하신 바 있습니다. 특히 한국은 보도를 통해 우리가 들은 바에 의하면, IMF 사태하에서 그 개혁을 아주 급속도로 추진하고 계신다고 들었습니다. 일본의 국내 경기에 대해서는 전세계적으로 여러 가지 지적을 받고 있습니다. 소비를 많이 하게 되면 경기는 좋아집니다. 일본 입장에서 볼 때 중장기적으로 문제가 되는 것은 경기라고 하는 당면과제에 급급한 나머지 중장기적인 구조개혁을 소홀하게 된다는 부분이 저는 오히려 걱정이 됩니다. 그러한 면에서 중장기적으로 볼 때는 수년전에 미국이 기적적으로 경제회복을 했듯이 한국이 경제개혁을 하게 되면 정말 기적적인 회생을 할 수 있을 지도 모른다는 생각을 합니다. 질문을 드리겠습니다.

한국에서는 아주 대규모의 개혁을 추진중이십니다. 투자에 관련된 개혁도 포함되어 있습니다. 程勳 선생님도 지적하셨듯이 한국은 종전이상으로 외자를 필요로 하고 있습니다. 이를 위해서는 여러 규제완화라든가 개혁이 필요하다고 저도 생각을 합니다. 또 실제로 그런 개혁들을 추진하고 계십니다. 제가 여기서 의문점으로 느끼는 점은 대통령의 명령, 아니면 국가수뇌의 의견은 그렇다고 하더라도 실질적으로 과연 어떨까 라는 문제입니다. 예를 들면 국회는 야당의석수가 더 많다고 들었습니다. 그렇다면 필요한 법개정은 과연 이루어질 수 있을 것인가, 사실 법개정에는 상당한 아픔이 따를 것입니다. 국회의원들 입장에서는 좀처럼 찬성표를 던지지 않을 것이다, 어떤 기존의 기득권을 수호하면서 반대입장으로 돌아설 수도 있지 않겠는가 하는 것이 저의 걱정입니다.

두번째 질문, 관계 법제도 같은 것을 정비한다고 해도 그것을 실천에 옮기는 단계에서 과연 제대로 실시될 것인가 하는 것도 또한가지 문제점이라고 생각합니다. 미국사람들이 자주 지적하는 문제입니다만, 일본도 마찬가지입니다. 일본법에 기술되어 있습니다만, 실제로 이것을 현실에 적용할 때 좀처럼 그것이 원활하지 않다, 불투명하다라는 지적들입니다. 한국에서도 비슷한 문제가 있는 것으로 저는 듣고 있습니다. 어떤 투명성의 확보라는 것이 중요한 문제라고 생각합니다. 제 일선에서 그날 그날의 업무보고가 들어오게 됩니다. 이런 보고를 들어보면 한국에서의 개혁의욕은 대단한 기세인 것 같습니다. 원화가치가 절하되었다 라는 조건도 있으므로 앞으로 여러 가지 사업을 새로 시작할 수도 있을 것입니다. 또 누차 지적이 되듯이 OECD 가입국으로서의 한국과 일본의 아시아에서의 협조라는 것도 중요성을 더해 갈 것입니다. 그런데 제가 방금 지적했던 두가지 점, 그러니까 실질적으로 사업을 전개함에 있어서의 커다란 걸림돌이 될 수

있는 이러한 부분에 대해서 답변해 주시면 고맙겠습니다. 이상입니다.

麻生 泰 日本側 코디네이터

감사합니다. 방금 아끼야마(秋山) 선생님의 질문은 실제로 한국측에 대한 질문이 되겠습니다. 李吉鉉 사장님, 플로어에 계신 여러분, 어떻습니까?

李 潤 鎬 亞太企業諮問(株) 代表

저는 금번에 한일경제협회의 한국의 외국인투자 환경연구 및 외국인투자 활성화방안에 대해서 연구 조사업무의 책임자로 업무를 수행한 아태기업자문연구소의 李潤鎬 대표입니다. 방금전에 스미토모상사의 아끼야마(秋山) 상담역이 말씀하신 것에 대해서 전적으로 공감하고 있습니다. 즉 간단하게 말씀드리면, 제가 외국기업이 한국에 투자하는 합작투자라든가 기술이전 업무를 실제로 700여건을 한 민간전문가로서 너무나도 죄송하게 생각합니다. 금년 2월에 취임하신 金大中 대통령께서도 과거에 경제인으로 해운사업에 성공한 바가 있습니다. 그래서 한국의 경제위기를 타개하기 위해서 해외수출 증대와 외국인투자 유치에 정책의 포커스가 맞춰져 있습니다. 이러한 정책에 따라 한국 정부는 제도적인 완화조치를 지속적이고 과감하게 하고 있습니다만, 아직도 실제적으로 정부기관에서는 어떤 제도적인 완화 이외에 실무전문가가 거의 없는 상태입니다. 과거에도 10여년전부터 민간전문가를 적극적으로 유치해서 이 업무를 정부에서는 행정지원을 하고, 민간전문가는 실무적인 작업을 하기로 되어 있습니다만, 민간전문가들도 정부의 예산 부족과 시간적으로 매우 바빠서 그 작업을 많이 못했습니다. 그래서 지금 정부기관에서는 민간전문가를 활성화하는 방안에 대해서 적극적으로 검토에 임하고 있습니다. 그래서 제가 한국의 외국인투자 환경연구에 대해서 검토를 하면서 저의 연구에 대한 요약을 말씀드리겠습니다.

한국의 어떤 투자환경 요인으로서는 여러 가지 투자요인이 업체에 따라 수십가지가 될 수도 있고, 중요성에 따라 수익성이라든가 성장잠재력, 그리고 일본과 한국간의 수송비, 물류비의 감소, 여러 가지 어떤 비교요인들이 있습니다. 연구보고서는 100페이지가 넘기 때문에 더 검토를 하실 분들은 그 보고서를 참고로 하시기 바랍니다. 한국에서의 투자환경개선을 위한 종합적인 대책이라고 하면, 제도완화뿐만 아니라 실제적으로 민간전문가가 이 업무를 관여하지 않으면 정부기관은 경험이 거의 없기 때문에 업무를 추진하면서 거의 지지부진하고 답보상태에

있는 경우가 많습니다. 참고로 예를 들면, 어떤 정부기관은 1년동안 유치한 활동 실적이 합작회사가 3건 정도입니다. 저희와 같은 민간전문가는 한달에 10건도 하는 경우도 있습니다. 이렇게 차이가 납니다.

그래서 한국에서의 투자환경 개선을 위한 종합적인 대책을 간략하게 말씀드리면, 첫째로 영어권의 외국인투자가들은 한국에 들어오면 상당히 어렵습니다. 특히 한국사람들은 영어에 익숙하지 않습니다. 그래서 한국국민들의 언어와 국민의식의 선진화, 국제화가 절실히 필요합니다. 이웃의 일본분이나 미국분이 있으면 친하게 지내려고 하지 않고 배타적으로 거리를 두려고 하는 분들이 많습니다. 그것은 첫째로 언어가 원활하지 못해서 그렇지 않나 싶습니다. 그리고 사회전반의 구조조정에 있어서 누차 관계인사들께서 말씀하셨지만, 우리나라도 고비용구조가 오랫동안 지속되어서 이 구조가 유지가 되는 한 외국인투자가 상당히 어렵습니다. 일례를 든다면 제가 '89년도에 일본기업이 한국에 땅을 2천평을 구입하기 위해서 3억3천만원을 공단에 투자하였습니다. 그런데 공장부지가 계속 완공이 못되서 '93년도까지 지체가 되면서 그때 15억이 든 것을 제가 보았습니다. 그렇게 땅값이 올라갔습니다. 그래서 일본분이 철수를 한다고 해서 제가 설득을 하여 지금은 한국에서 훌륭한 사업을 하고 계십니다만, 그런 고비용구조를 정부에서 지금 적극적으로 개선하고 있습니다.

그 다음에 외자도입법과 외국환관리법등 한국의 외국인투자와 관련된 관련법규가 상당히 많습니다. 아무리 제도가 완화된다고 하더라도 연관된 법을 어떤 일반사업가라든가 외국인투자가가 그것을 조사해서 한다는 것은 사실상 무리가 있습니다. 제가 이 업무를 14년 정도 한 사람으로서 볼 때는 무리가 있기 때문에 민간전문가를 적극적으로 활성화하는 방법이 정부에서 이미 연구되어서 확정이 된 상태입니다.

한국은 외국인투자에 관련해서 공무원의 민원서비스가 아직도 조금은 권위주의적입니다. 동양적인 유교문화권이라 그런지 지인이라든가 학교동창과 같은 사람이 있으면 업무를 하기가 상당히 쉽습니다. 그래서 외국분들이 이런 부분에서 상당히 어려워 하고 있습니다. 그리고 과거에 여러차례 지적한 바와 같이 외국인투자에 관련된 유관기관도 상당히 많아 6~7개 기관이 중첩되어 있습니다만, 실제로는 민간전문가가 뒤에서 백서포트하고 있는 상태입니다. 그래서 이에 대한 통합이 절대적으로 필요합니다.

그 다음에 외국인투자가가 가장 걱정스러워 하는 부분은 한국에 민간전문가를 통해서 외국인투자를 했다고 하더라도 실제 운영에 있어서는 정부기관에 전문가

가 없기 때문에 부모잃은 고아처럼 사후적으로 계속 법률 회계적인 서비스를 거의 받지 못하였습니다. 전문기관은 요금이 상당히 비싸고 시간적으로 많은 시간을 개별회사에 할애하지 않습니다. 이러한 고비용과정 때문에 외국분들은 접근하기가 특히 어렵습니다.

외국인투자가가 금융기관을 이용하는 것도 우리나라는 공장부지라든가 부동산이 있을 경우에만 담보대출을 해 주기 때문에, 서비스업같은 경우는 부동산과 같은 고정자산이 거의 없어 외국분들은 현금을 갖고 있지 않으면 잘못하면 흑자도산할 가능성이 있습니다. 특히 이런 것은 한국의 금융구조상 시급하게 고쳐야 할 부분입니다.

이와같이 여러 가지 많은 문제점이 있지만 요약하면 이상과 같습니다. 혹시 질문이 계시면 질문을 받겠습니다.

麻生 泰 日本側 코디네이터

李潤鎬 선생님, 감사합니다. 아끼야마(秋山) 상담역이 실천면에서는 어떤 화이팅, 의욕은 느끼지만, 실제적인 면에서는 문제가 있지 않겠는가 라는 지적이 계셨습니다. 이 부분에 대해서 경험이 많으신 李吉鉉 사장님, 어떻게 생각하십니까?

李 吉 鉉 韓國側 코디네이터

아끼야마(秋山) 선생님께서 걱정하시는 그대로입니다. 우리도 심경이 똑 같습니다. 야당이 과반수를 차지하고 있지 않느냐, 또 정치적인 여러 가지 불안정이 있을 것 같으면 좋은 행정개혁이란 것도 벽에 부딪히지 않겠느냐는 걱정이신데, 현재 제가 알기로는 6월에 저희 나라도 지방선거가 있습니다. 그래서 그 결과에 따라서 정계개편론이 현재 꾸준히 확산되고 있습니다. 어떤 안으로 나올지는 모르지만 좋은 방향으로 개편되지 않겠느냐는 기대를 하고 있습니다. 또 문제는 IMF 위기를 여야없이 합심하여 극복해서 국제신인도를 높이는 것이 우리 전체의 소망이자 숙원입니다. 여기에는 반대할 여당도 야당도 없다고 믿고 있습니다. 그러나 정치적인 변화에 대해서는 저희들도 관망하고 있습니다만, 안정되리라고 기대하고 있습니다.

두번째 말씀하신 행정개혁이 좋다라는 것은 위에서 부르짖는 것이지 용두사미로 밑의 행정기관에서는 전혀 움직이지 않고 복지부동을 하고 있다는 얘기를 하고 있습니다. 제가 金大中 대통령을 뵙고, 김종필 총리서리 및 경제수석들과의

대면을 한 제 체험으로 말씀드리면, 그 분들 얘기가 행정실명제를 하겠다, 또 그것이 책임행정제도를 가져오고 완전히 그 사람이 책임를 지고 시행할 수 있도록 하겠다는데 대해서 의심스러워서 얘기를 했습니다만, 여러분 아시다시피 관료사회라는 것을 50년 가까이 일본 못지않게 단단한 벽을 쌓고 해 온 것은 또한 사실입니다. 도장이 1,200개가 필요하고 3년이상 서류가 여기저기 돌아가야 하는 폐습이 있었던 것도 인정을 하고 있습니다. 그러나 그것을 전부 타파해서 행정부마다 내국인, 외국인에게 고정처리센타를 설치하고, 또 영국식 원스톱시스템을 구축하여 투자하겠다는 것을 무조건 전부 다 주선하는 정책을 발표해서, 각 부서간에 경쟁적으로 하고 있습니다. 그래서 조석으로 달라지고 있는 것이 사실이니까 안심하고 투자하시길 부탁드립니다. 의견 있으시면 말씀해 주시기 바랍니다.

麻生 泰 日本側 코디네이터

그밖에 아끼야마(秋山) 상담역의 질문에 대해서 답변하실 분 계십니까? 네 程勳 선생님, 말씀하시죠.

程 勳 對外經濟政策硏究院 責任硏究員

이 분과회가 끝나고 2시부터 합동분과회가 있습니다. 그 때 저희 연구소의 楊秀吉 원장님께서 한국경제를 상당히 구체적으로 자세히 설명하실 것입니다. 그래서 아까 투자문제에 대해서 지금 정부가 어떤 생각을 갖고 있고, 또 외국인들이 우려하는 사항에 대해서 어떻게 그 고충을 해결해 나갈 것인가 하는 문제점에 대해서 정말 순발력있게 말씀을 드릴 것으로 기대합니다. 그 때를 참고해 주시기 바랍니다.

麻生 泰 日本側 코디네이터

감사합니다. 그러면 오후의 발표를 기대해 보겠습니다. 그럼 일본측에서 계속 질문이 나왔는데 한국측에서 다른 질문 없으십니까?

朴 弼 秀 韓國外國語大學校 敎授

네 고맙습니다. 저는 아끼야마(秋山) 선생님께서 말씀하신데 대한 보충과 오늘 이 회의에서 참고되는 얘기를 몇가지만 말씀드리겠습니다.

우선 우리 程勳 박사께서 말씀하신대로 오늘 오후 2시부터 楊秀吉 박사님도 설명하시겠지만, 산업자원부의 무역정책실장이 한국의 투자유치에 대한 정책전반에 대해서 설명을 합니다. 한국의 각종규제 해제문제 등이 언급되리라고 생각합니다. 참고해 주시길 부탁드리겠습니다.

제가 짧은 시간에 간단히 설명을 올리고 싶은 것은 어차피 옆방에서 산업 또는 투자 전반에 대한 얘기를 하겠습니다만, 한국이 매우 투자하기에 좋은 때가 왔지 않느냐 하는 점을 보충해서 설명하겠습니다.

첫째는 들어서 아시겠지만 한국의 부동산의 매물이 속출하고 있습니다. 여기서 부동산이란 말은 공장, 건물, 각종 생산시설 등이 모두 포함이 됩니다. 경우에 따라서 이 좋은 시설들이 중고물이 되어서 외국으로 매각이 되는 경우도 허다합니다. 그래서 왜 이렇게 많이 매물이 나오느냐 하는 것은 아시다시피 부도가 속출해서 그렇습니다. 평균으로 작년 12월 이후 하루에 100개 회사가 부도를 냈습니다. 거의 한달에 3,000개 이상의 회사가 문을 닫았습니다. 이것이 모두 건전하게 활동하고 있던 회사들이 아까도 얘기했지만 흑자도산하는 경우가 대부분입니다. 이것을 팔겠다고 내놨습니다만, 국내에서는 살 사람이 없습니다. 돈 가진 사람이 국내에 없기 때문에 이것은 틀림없이 외국분들이 사셔야 합니다.

두번째 한국의 환율이 아시다시피 올라가고 원화가치가 떨어졌기 때문에 과거의 가격보다 1/2 내지는 2/3 가격으로 한국 물자를 살 수 있는 좋은 때가 왔다는 것입니다.

세번째로 제가 강조하고 싶은 것은 한국의 노동자들의 자세가 달라졌다는 것입니다. 아시다시피 3D산업들에 대해 한국 근로자들이 기피해서 외국의 이른바 후발개발도상국 근로자들이 와서 해 줬습니다. 요즘 이 분들이 전부 다 떠나고 있습니다. 공항에 나가보면 줄을 서서 떠납니다. 그 분들이 한국에서 바랄 것이 없다는 얘기죠. 그런데다가 한국에서는 하루에 1만명 내외의 실업자가 생깁니다. 하루에 1만명씩 실업자가 발생한다는 얘기는 한달이면 30만명입니다. 지금 공식적으로 한국의 노동부가 발표한 실업자의 수는 165만명이라고 합니다만, 사실은 200만명이 넘은 것으로 알려져 있습니다. 그래서 실업률 자체는 6~9% 내외에 이르고 있습니다. 한국이 아시다시피 2%대의 실업률을 가진 아주 좋은 취업의 나라였습니다. 그렇기 때문에 한국의 근로자들이 이 3D산업에 참여를 합니다. 동시에 화이트칼라든 블루칼라든지 간에 자신이 받고 있는 급여를 자진해서 감액하는데 앞장서고 있습니다. 덜 받아도 좋다, 심지어 50% 깎아도 좋으니까 자기는 그 직장에 있도록 해달라는 회사가 상당히 많이 나오고 있습니다. 이 얘기는

한국의 고임금추세가 서서히 가라앉고 있는 경향에 있다는 것을 참고로 말씀드립니다.

또 네번째로 꼭 제가 말씀드리고 싶은 것은 한국산업의 어려움은 강직한 노동조합의 존재라고 얘기합니다. 지금 현재도 노동조합은 한국의 골칫거리중의 하나입니다. 이것은 과거 일본에서도 경험했었던 때가 있었습니다만, 이제 한국에도 그 때가 왔습니다. 그래서 노동조합이 매우 유동적인 유연성을 갖기 시작했다는 것, 이것은 한국에 매우 좋은 현상이다, 스스로 노동조합이 법적으로 또는 자율적으로 자신들의 주장을 약화시키고 유연성을 찾고 있다는 이런 좋은 일들이 한국에서 사업을 하는 좋은 계기를 마련하는 것이 아니냐, 이렇게 생각합니다. 그래서 이런 기회에 한국에 투자기회를 찾아 주셨으면 하는 것이 제 바램입니다만, 아까 아까야마(秋山) 선생이 말씀하신대로 각종 규제가 아직 남아 있습니다. 물론 여러분들이 이것을 해제시키기 위해서 노력을 하고 있습니다만, 빠른 시일안에 해결이 되리라고 보고 있습니다.

참고로 말씀드리고 싶은 것은 지금 코디네이터를 맡고 계신 李吉鉉 사장님의 호텔신라에는 외국인들이 많이 와 있다는 소식을 듣고 있습니다. 무엇을 하러 온 사람들이냐, 한국에서 좋은 공장을 사고, 좋은 건물을 사고, 좋은 시설을 사겠다는, 또는 한국에 투자를 많이 하겠다는 분들이 와 있다는 것이 사실이기를 기대합니다. 그래서 무역과 관련해서 한국이 수입선다변화 정책을 바꾼다는 것, 또 아까 GSP 얘기가 나왔습니다만, GSP를 폐지한다는 것, 어차피 한국은 모든 것이 개방화되고 자유화되는 그런 상황 속에서 대외경제활동을 하지 않으면 안됩니다. 이번에 IMF 구제금융 이후에 이와 같은 사태가 전개되고 있기 때문에 이런 면에서 매우 좋은 기회가 한국에 온 것이 아닌가라고 생각하고, 일본의 여러분들께서도 이런 기회를 십분 활용하시는 것이 좋지 않겠느냐고 생각을 합니다. 고맙습니다.

麻生 泰 日本側 코디네이터

감사합니다. 한국의 현황에 대한 정보에 대해서 말씀해 주셨습니다. 일본측에서 닛쇼이와이의 쿠사미찌(草道) 사장님, 코멘트 없으십니까?

草道昌武 日商岩井(株) 取締役社長

닛쇼이와이의 쿠사미찌(草道) 입니다. 저는 이번에 이 회의에 처음 참석을 했

습니다. 어제 일한·한일의 기조연설을 비롯한 여러분의 아주 지혜로운 말씀에 대해서 많은 자극을 받았고 앞으로 열심히 공부를 하려고 생각하고 있습니다. 발언의 기회를 얻었기 때문에 종합상사의 경영자 입장에서 한마디 의견 말씀 드리겠습니다.

작년 7월 태국의 통화위기를 계기로 해서 동남아 각국, 그리고 한국은 대단히 심각한 외환위기, 금융위기에 직면하고 있습니다. 다행히 IMF와 선진 각국의 시의적절한 지원에 의해서 현재 아시아에서는 인도네이사 이외에는 정세가 비교적 가라앉는 상태입니다. 그리고 지난 4월초에도 IMF의 깡드쉬 총재가 어떤 강연에서 한국과 태국의 경제에 대한 시장의 신뢰감을 회복하고 있다라고 말씀하셨습니다. 그러나 아직까지 문제가 남아 있습니다. 이들 나라의 경제가 앞으로 성장궤도에 오르기까지는 시간이 걸릴 것으로 보이고 있습니다.

현재 한국이 직면하고 있는 여러 문제는 어떤 의미에서는 일본의 문제이기도 하다고 저는 인식하고 있습니다. 그것은 일본, 한국 모두 자화상을 제대로 그리지 못했기 때문에 일어난 일이라고 생각합니다. 오랫동안 노력을 한 결과 일본은 세계 제 2위의 세계대국이 되었습니다. 그리고 한국도 1인당GNP가 1만불을 넘어서 2만불 가까이까지 달했습니다. OECD에도 가입을 하게 됐음에도 불구하고 양국다 스스로가 구축한 경제력에 대한 정확한 인식이 결여되어 있다고 생각합니다. 그래서 양국의 시스템, 제도가 각각 경제력에 알맞는 것으로 시정되어 있지 않다는 것입니다. 여기에 양국이 안고 있는 문제의 본질, 근원이 있는 것은 아닐까요? 약간 비유적으로 말씀드리자면 키는 크고 체중도 늘었는데 입고 있는 옷이 옛날 그대로다, 그래서 전혀 몸에 맞지않고 무리하게 옷을 입고 있기 때문에 여기저기에서 터지기 시작했다는 양상이라고 생각합니다. 낡은 시스템, 제도가 경제활동에 제약요인이 되어 있다는 식으로 저는 보고 있습니다. 이것이 일본과 한국의 현황이라고 할 수 있겠습니다. 양국 모두 똑같다고 생각합니다. 그런 의미에서 양국이 필요한 것은 새로운 옷을 맞추는 것입니다. 경제력에 알맞는 시스템, 제도로 시정을 하지 않으면 안됩니다. 그러니까 경제개혁에 대한 대응책이 필요하다는 것입니다. 그러기 위해서는 약간 아프더라도 규제완화를 추진해서 모든 산업이 국제경쟁을 할 수 있는 각오를 해야 합니다. 그리고 금융기관의 체질강화라든지 금융자본의 개방도 피할 수 없는 과제일 것입니다. 모두다 어려운 문제이고 제대로 하지 않으면 어중간하게 끝나고 말 것입니다. 따라서 아까 스미토모상사의 아끼야마(秋山) 상담역께서도 말씀하셨듯이 경제위기에 직면한 한국측이 위기의식이 강한 만큼 거기에 대처하는 방안에는 박력이 있습니

다. 어쩌면 일본이 뒤지게 되지 않을까 하는 우려를 하고 있습니다. 이 점에 대해서는 아끼야마(秋山) 상담역과 같은 의견을 갖고 있습니다.

그리고 또하나 자주 거론되는 말인데 일본의 대외직접투자, 그러니까 일본에 대한 외국으로부터의 직접투자가 일본에서는 너무나 적다는 사실이 있습니다. 현재 일본은 세계 각국에서 시장개방 혹은 내수확대의 요구를 받고 있습니다. 정부도 그에 대해서 감세, 공공투자를 중심으로 한 대형경제대책을 책정하는 등 노력은 하고 있습니다만, 역시 외부로부터의 직접투자가 많이 활발하게 들어올 수 있는 환경을 조성하는 것이 일본의 활성화에 지름길이 아닐까 생각합니다. 산업 자체로서 매력있는 나라로 만드는 것이 필요하다는 것입니다. 그러한 점에서 말씀드린다면 한국도 똑같은 상황이 아닐까 생각합니다. 한국경제가 이번에 위기를 극복해서 재부상하기 위해서는 외자에 대한 문호개방이 불가피할 것입니다. 아까 李潤鎬 선생님께서 말씀하셨듯이 외자도입을 하기 위해서 여러 문제점에 대한 시책을 하고 있다는 설명이 있었습니다. 그리고 아까 程勳 선생님의 말씀에도 있듯이 여러 가지 문제점의 저적이 있었습니다만, 저는 이 외자도입을 위한 환경조성을 곧 해주시기를 바라고 있습니다. 대단히 어려운 문제입니다. 그래서 쉽게 할 수 있는 문제는 아닙니다만, 金大中 대통력의 리더쉽 아래 신정권의 개혁노력에 커다란 기대를 하고 있습니다. 특히 저희들 입장에서 보면 조속히 개선을 하셨으면 좋겠다고 생각되는 것은 인건비의 앙등을 초래하고 있는 노동관행의 시정입니다. 이 문제는 개별적으로 노사간에서 해결할 문제는 아닙니다. 산업계가 하나가 되어서 정부도 같이 대처해야 할 문제입니다.

아까 임금컷트를 해서라도 노동자는 직장에 남아 있고 싶다라는 얘기가 있었습니다. 한국도 굉장히 노동계가 유연성을 갖게 되었다는 얘기를 할 수 있겠습니다만, 한편에서는 여러 보도를 보면 해외투자가가 한국기업을 매수하는데 있어서 역시 노조가 걸림돌이 되어 있다는 얘기를 듣고 있습니다. 그러니까 이러한 점에서의 해결법을 촉구하는 바입니다. 저희들도 상사로서 양국간의 무역에 관해서는 언제나 무역적자 문제가 커다란 문제인데, 이것은 양국간의 문제뿐만 아니라 앞으로는 글로벌한 세계화 속에서 해결해야 할 문제라고 생각합니다. 李吉鉉 사장님께서 아까 일본 기업이 중국등 해외에서 만든 제품이 한국 시장에 들어온다는 수입의 측면에서 말씀하셨는데 저는 반대로 한국의 여러 재료가 해외에 나가서 가공된 것이 일본의 시장으로 우회해서 들어오는 현상도 있다는 것을 알고 있습니다. 그래서 수출면에서 보면 저희들도 세계적인 시야로 한국의 수출확대를 위해서 공헌을 하고 있는 것이 아닐까 생각합니다. 그런 식으로 거론해야 할

것이라고 보고 있습니다. 이것은 질문이 아니고 의견을 피력했습니다. 감사합니다.

麻生 泰 日本側 코디네이터

감사합니다. 사실은 일본측 몇분에게 발언을 부탁했습니다만, 그 중에서도 메이커 입장에서 도시바의 종합기획부에 계시는 이나가끼(稻垣) 선생님, 어떻습니까?

稻垣宏一 (株)東芝 綜合企劃部 參與

도시바의 이나가끼(稻垣) 입니다. 지명을 받아서 대단히 감사합니다. 질문이라기보다 의견을 말씀드리겠습니다. 처음에 말씀하신 두 분의 발표를 들으면서 일본사람도 한국사람도 모두 다 발상의 폭을 보다 확대시킬 필요가 있는 것이 아닐까 라고 생각했습니다. 그래서 발상의 전환이란 면에서 말씀드리고자 합니다.

우선 일본기업의 지금까지의 상식의 하나는 한국 시장이 너무 폐쇄적이다. 그래서 체념감을 가지고 있었습니다. 그리고 시장규모에 관해서도 중국에 비하면 한국은 작기 때문에 역시 중국을 먼저 공략하자 하는 것이 하나의 생각이었습니다.

그리고 또 하나는 생산거점으로서 동남아와 비교해서 역시 한국은 조금 뒤진다, 최적입지는 아니다 라는 것이 일본 사람들, 특히 메이커 제조업자의 상식이었습니다. 그러나 지금 조건이 많이 달라지고 있습니다. 그래서 발상을 전환해서 한국을 재평가해야 할 것입니다. 자본재산업이라고 하는 부분에서 한국이 대단히 중요한 시장이 되었습니다. 그밖의 산업에 있어서도 앞으로 한국 시장을 다시한번 재평가할 필요가 있을 것입니다. 그리고 생산거점의 배치에 관해서도 시계적인 전략에서 봤을 때 생산거점의 배치는 어떤 의미에서는 일단락되었습니다. 그리고 불행하게도 경기침체 문제도 있고 해서 여력이 줄어들었습니다. 그래서 좀처럼 투자하러 나가기가 힘듭니다. 긴 안목에서 보면 한국의 국내시장에 대한 생산도 포함해서 생산의 투자에 관해서도 다시한번 재평가할 필요가 있을 것입니다.

한편 한국 여러분의 상식, 지금까지의 공통된 인식도 있을 것입니다. 아까 程勳 선생님의 발표에도 있었습니다만, 우선 양국간의 무역불균형, 이렇게 큰 것은 좋지 않다 라는데서 시작되고 있습니다. 따라서 일본으로부터의 투자, 기술이전

을 촉진해야 한다 라는 논리를 많은 분이 갖고 계시다는 것은 당연한 일입니다. 그런데 저는 감히 발상에 대해서도 전환을 해 주셨으면 좋겠다고 제안을 하고 싶습니다. 이와 관련해서 세가지 정도 말씀드리겠습니다.

우선 첫번째는 무역수지의 개선이라는 것은 나라와 나라의 통계비교에서 나옵니다. 그런데 실제 경제는 현실적으로 기업과 기업의 협력관계, 거래관계로 움직이고 있습니다. 따라서 기업간의 협력관계를 어떤 식으로 확대해 나갈 것인지를 우선시 해야 합니다. 그것을 생각하면 무역뿐만 아니라 매매, 다각적인 제휴, 전략적인 제휴라는 차원에 달하고 있는 케이스가 몇가지 있다고 보고 있습니다. 따라서 그러한 기업간의 제휴를 어떠한 형태로 어떤 것을 할 것인지, 그리고 양국간 뿐만 아니라 아시아와 미국도 포함해서 생각하면 폭넓은 제휴관계는 앞으로도 많은 가능성이 있을 것입니다. 저희들의 전기·전자산업이라는 것은 그러한 의미에서 한국 기업과 제휴가 진전되고 있는 산업일지 모르겠습니다만, 그러한 것이 다른 산업에서도 가능성이 있는 것은 아닐까요?

두번째는 일본과 한국이라고 하는 양자간, 혹은 쌍무적인 관계라는 발상에서 벗어나야 한다는 것입니다. 3개국간의 관계라든가, 혹은 더 많은 나라, 다자간의 관계라는 것을 중요시하는 식으로 중점을 바꾸어 나가야 할 필요가 있지 않을까 생각합니다. 그렇다고 해서 제가 이런 양국간 관계가 전혀 중요하지 않다고 하는 것은 아닙니다. 지금 어떤 글로벌리제이션 속에서 이와 같이 국가관계가 상당히 복잡해지고 있다는 부분을 우리가 인식해야 될 것 같습니다. 무역통계 같은 것을 보면 일본과 한국은 모두 중국과 밀접한 관계를 갖고 있습니다. 미요시(三好)씨께서도 지적을 하셨습니다만, 중국까지도 포함한 무역수지를 보면 일본과 한국의 경우 한국이 수입초과입니다. 또 한국과 중국은 중국이 수입초과, 한국이 수출초과입니다. 그리고 중국과 일본은 일본이 대폭적인 수입초과, 중국이 수출초과 형태인 것입니다. 단순하게 이와 같은 형태가 '96, '97년에 나타났습니다. 이런 현황을 우리가 어떤 식으로 볼 것인가 하는 문제입니다. 이 세나라간의 어느 정도 균형을 이루는 무역구조, 다른 말로하면 상호의존관계가 구축되고 있는 것이 아닌가라고 볼 수 있습니다. 이것도 대단히 중요한 시각이 아닐까라고 생각합니다. 아세안과 일본과 한국이라는 식으로 비교를 해 보더라도 한국은 아세안에 대해서 수출초과 상태입니다. 그런데 일본도 아세안에 대해서 수출초과입니다. 이것도 역시 문제라는 지적이 있는 것입니다. 최근의 외환사정의 변동 등으로 말미암아 수년후에는 일본이 수입초과로 바뀔 가능성도 얼마든지 있습니다. 제가 소속된 업계의 전망은 그렇다는 것입니다.

그럼 마지막으로 세번째의 발상의 전환에 대해서 말씀드리겠습니다. 기술도입이라고 하는 것이 한국분들에게는 상당히 중요시되는 부분입니다. 그렇지만 한국이 이제부터 국내 시장을 개방하실 경우에 중요해지는 것, 그것은 기술도입만으로는 커버할 수 없는 부분이 있다, 다시 말씀드리면 기초기술 개발에 힘쓰셔야 한다는 것입니다. 기술이전을 아무리 받아도 기초기술에 대해서는 전수받을 수 없기 때문에 한국분들은 기초기술 개발에 힘써야 하겠습니다. 또 핵심기술에 반해서 주변기술이라는 것이 있습니다. 저는 이 주변기술이라는 것이 상당히 중요하다고 생각합니다. 그러니까 이런 부분에 좀더 착안해 주시기 바랍니다. 하나의 착안점으로 제가 제안하는 것입니다. 그리고 대기업중심의 기술력이라는 발상에서 벗어나서 중소기업을 포함한 어떤 산업계로서의 종합적인 기술력이라고 하는 것을 생각하셔야 됩니다. 그러니까 중소기업이 갖는 기술력을 어떤 식으로 평가할 것인가 라는 것이 문제입니다. 이 부분에 있어서는 역시 여러 가지 협력의 여지가 있을 것 같습니다. 한국내에서도 대기업이 중소기업의 기술력 향상을 위해 어떻게 도움이 될 수 있겠는가, 이와 같은 것을 한국 국내에서 좀더 체계적으로 기술향상에 노력한다면 효과적일 것입니다. 일본의 경험에 비추어 보면 그렇습니다.

이상 세가지 말씀을 드렸습니다만, 오해를 부를 여지가 있기 때문에 좀더 추가하면 무역불균형이 좋다는 얘기는 결코 아닙니다. 다만 한국은 다른 아시아 국가들과는 다른 나라입니다. 외환위기, 금융위기의 현상황을 논의할 때도 마찬가지입니다. 지금까지는 뭔가 태국, 말레이지아, 한국, 이런 식으로 한줄로 나란히 세워 놓고 우리가 논의를 하고 있습니다만, 저는 역시 한국은 태국과 비교해도 경제구조가 몇단계 앞서 나가고 있는 나라라고 생각합니다. 그런 한국이기 때문에 바로 지금 제가 말씀드렸던 세가지 지적을 해도 한국한테는 전혀 문제가 안된다, 태국에게는 이런 지적을 하기에 아직 시기상조이지만 한국에게는 전혀 문제가 없다고 생각합니다. 이상입니다.

麻生 泰 日本側 코디네이터

도시바의 이나가끼(稻垣)씨께서 발상의 전환이라는 측면에서 말씀을 해 주셨습니다. 시간이 허락이 되면 이 부분에 관해서 더 많은 얘기를 했으면 좋겠습니다만, 시간이 별로 없습니다. 여기에 일본무역회의 고지마(小島) 전무이사님께서도 나와 계십니다. 그럼 고지마(小島) 전무이사님, 발언하시겠습니까?

小島幹生 (社)日本貿易會 專務理事

저는 상사단체인 일본무역회에서 나왔습니다. 어제도 보고를 드렸습니다만, 일한·한일무역투자위원회의 일본측 위원장을 맡고 있는 사람입니다. 무역투자위원회의 위원장 입장에서 어제, 오늘 양일간에 걸친 논의를 아주 관심있게 들었습니다. 느낌 바를 세가지만 말씀드리겠습니다.

아끼야마(秋山)씨께서 이번 회의가 제30회지만 제1회 회의가 되어야 한다고 말씀하셨습니다. 전적으로 동감합니다. 이것을 더 크게 보면 일본과 한국 관계라고 하는 것은 선진국과 개도국의 관계다 라고 하는 하나의 프레임이 있었습니다. 그러한 가운데 과거의 경제협력이라든가 하는 것이 논의되어 왔던 것입니다. 그렇지만 이제부터는 한국도 선진국 대열에 들어섰기 때문에 한국도 민간이 주도를 하게 되는 것입니다. 그러니까 민간차원의 교류를 촉진하기 위해서 정부의 지원을 촉구하는 그러한 시대에 돌입하게 된 것입니다. 이 회의의 명칭 자체는 30회, 31회라는 식으로 헤아려도 괜찮겠습니다만, 우리의 마음가짐이라는 면에서는 이번이 첫번째고 앞으로 1회, 2회라는 식으로 역사의 어떤 페이지를 만들어 나갈 수 있었으면 좋겠습니다. 그러한 관점에서 세가지를 말씀드리겠습니다.

하나는 민간이 주도한다고는 하지만 현재 아시아에서 야기되고 있는 어려움, 혼란이라고 하는 것은 민간의 힘만으로는 도저히 해결할 수가 없습니다. 미증유의 역사상 유래없는 어려움에 봉착한 상태인 것입니다. 제가 여기서 걱정이 되는 것은 투자도 무역도 계속 축소되고 있다는 점입니다. 무역과 투자의 확대, 이것이 아시아발전의 기폭제이자 원동력이었습니다. 이것은 우리들의 공감대였습니다. 그런데 지금 축소되는 경향에 있습니다. 그러니까 이 축소 경향을 확대 경향으로 전환해 나가기 위한 계기를 우리가 만들어 나가야 합니다. 그 계기를 마련하는데 일한·한일의 경제인들이 힘써야 되는 것입니다. 그러니까 민간이 주도를 한다고는 하지만 역시 양국 정부의 역할은 대단히 큽니다. 아시아 국가에서는 여러 나라들이 지금 IMF 관리체제에 놓여 있습니다. 그런 가운데 각각 개혁을 추진하고 계십니다. 그렇지만 여기서도 일본 정부의 역할이 대단히 중요합니다. 경단련도 여러 가지로 애쓰고 계십니다. 일본의 내수진작이라는 것을 계속 주장하고 계십니다. 내수진작이라고 하는 것이 일본경제의 회생을 위해서도 대단히 중요한 것입니다. 그러니까 민간차원에서도 정부에 대해서 이 부분을 계속 문제제기를 해야 된다고 생각합니다. 그리고 일본의 내수진작이 아시아의 회생으로 이어진다는 것입니다.

그리고 일본무역회의 입장에서 걱정이 되는 것이 또 있습니다. 무역의 기반이

되는 금융업계의 움직임, 이것이 지금 완전히 스톱된 상태입니다. 그래서 무역까지도 지금 제동이 걸린 상태입니다. 그러니까 금융과 무역이라는 것은 어떤 혈연관계, 피가 흐르고 있다고 생각합니다. 이것이 지금 중단된 상태이기 때문에 이 혈류를 다시 회생시킬 필요가 있다 라는 것입니다. 아까 수출입은행에 관한 얘기가 나왔었습니다. 우리들도 수출입은행의 투스텝론을 해야 된다고 주장을 했고, 또 무역외상거래의 탄력적인 적용같은 것도 해야 된다라고 주장했습니다. 그러니까 우리가 지금 아시아의 수출입, 투자를 어떤 식으로 확대시킬 수 있을까 하는 것이 과제인 것입니다.

그리고 앞으로 경제교류의 주인공은 민간입니다. 민간이라고 할 때 경제로직이 중심이 됩니다. 이것을 우리가 짚고 넘어가야 할 것 같습니다. 지금까지 누차 확인된 바 있습니다만, 민간차원의 협력인 이상 경제로직으로 움직인다는 것입니다. 다시 말씀드리면 각 기업의 사업번창에 이바지할 때 비로서 그것이 사업으로서 성립된다라는 것입니다. 그러니까 그런 길을 어떤 식으로 모색하고 그 길을 어떻게 넓혀 갈 것인가 하는 것이 문제입니다. 그렇지만 어려울 때일수록 일본과 한국의 민간인들이 모든 기회를 포착해서 각자의 사업번창에 도움이 되는 전략적제휴라고 하는 것을 모색해야 되겠습니다. 온갖 수단을 동원해야 할 것입니다. 일본으로부터 한국으로 투자촉진밋션이 근간 파견될 것이라고 듣고 있습니다. 또 최근 한국기업이 일본으로 많이 진출하고 있습니다. 현재 판매거점이라든가 기술제휴를 위한 진출이 많은 것 같은데 이런 한국에서 오신 분들도 일본에서 많이 활약해 주시기를 바라고 있습니다.

그리고 세번째로 제가 느꼈던 점을 말씀드리겠습니다. 그것은 종합적인 발상, 종합적인 어프로우치가 지금이야말로 중요하다는 것입니다. 투자와 무역, 무역과 기술협력, 이와 같은 것이 서로 엉켜있는 상태이고, 서로 상호관련이 있습니다. 또 일본과 한국간의 양국관계를 좀더 세계적인 시야에서 봐야 된다, 또 대기업뿐만 아니라 중소기업까지도 포함한 시각을 가져야 된다, 즉 전부다 종합적인 시각을 가져야 된다는 것으로 일맥상통된 것입니다. 일본과 한국의 경제교류는 물론 이 경제인회의만 있는 것이 아닙니다. 전경련과 경단련, 상공회의소 차원에서의 교류도 있고, 또 최근 들어서는 산업기술협력재단이라는 것도 설립되어서 각종 교류가 이루어지고 있습니다. 또 어제 4개 전문위원회에서 보고가 있었습니다만, 그 4개 위원회 활동에 상당히 중첩된 부분이 많은 것 같습니다. 중첩되는 것이 나쁘다는 얘기는 아닙니다만, 그렇지만 각각의 채널을 통해서 어떤 활동을 하고 있는지를 각 채널의 당사자들이 충분히 이해를 하고 어떤 종합적인 교향악

단을 구성하는 듯한, 서로 서로가 공명을 하는 그런 길을 모색할 필요가 있지 않을까 생각합니다. 그러니까 종합적인 접근, 종합적인 어프로우치가 긴요하다는 점을 강조하고자 합니다. 감사합니다.

麻生 泰 日本側 코디네이터

감사합니다. 시간이 다 되었습니다만, 한국측에서 발표하시겠습니까?

李 吉 鉉 韓國側 코디네이터

한 분만 더 말씀해 주셨으면 고맙겠습니다. 제가 지명을 드리겠습니다. 이 회의에 제일 오래 참석하셨고, 또 경험도 많으신 현대그룹의 李春林 顧問님께서 결론적으로 격려의 말씀을 해 주시면 감사하겠습니다.

李 春 林 現代GROUP 常任顧問

현대의 李春林입니다. 이 회의를 지켜보면서 지난해 한국에서 했던 회의보다 분위기가 아주 진지하고, 또 보다 구체적인 제안·코멘트가 나오고 있는 것을 새삼스럽게 느낍니다. 저는 일방적으로 우리가 일본의 무역역조, 기술의 제휴같은 것만 얘기했지만, 한국의 급격한 사정도 있고, 또 한국도 한국의 잘못된 점, 이제까지의 무리한 요구 등을 깨끗이 우리가 인정하면서, 또 일본의 근래 닥친 불황이라든가 산업구조, 은행의 여러 가지 문제 등을 서로 인식을 새롭게 하면서 진지하게 회의를 하고 있습니다. 또 아침 7시반부터 한일·일한산업기술협력재단 회의를 했습니다만, 그 곳에서 전에 일본에서 기금을 내고 그와 똑같은 한국 정부의 지원을 받아 연수생을 6년간에 걸쳐 총 1,300명을 일본측에서 받아 주셨고, 또는 일본에서 기술자라든가 많은 경험자들이 한국에서 세미나를 개최하고 생산기술을 지도하고 있는 것이 구체적으로 하나 하나 성과를 올리고 있는 것도 확인하고 보고를 받았습니다. 그래서 이런 회의가 보다 생산적이고 보다 구체적인 제안과 의견으로 해서 전보다 포괄적으로 되고, 조금 추상적인 것이 하나 하나 실현단계로 되는 것들이 어려운 양국의 경제사정을 볼 때 크게 도움이 되고, 또는 일본측의 의견이나 솔직한 비판 같은 것이 한국측의 앞으로의 경제재건에 좋은 약이 될 것으로 확신하면서 저의 간단한 말씀을 올리겠습니다.

麻生 泰 日本側 코디네이터

아직도 발언을 하시겠다고 하셨던 분들이 많이 계십니다만, 시간이 없어 이쯤에서 의견교환을 마쳐야 할 것 같습니다. 이시가와(石川)씨, 程勳 선생님, 감사합니다. 그리고 활발한 의견을 개진해 주신 여러분들에게도 감사를 드리겠습니다. 마지막으로 李吉鉉 사장님께 인사 말씀을 부탁드리겠습니다.

李 吉 鉉 韓國側 코디네이터

저도 여러분들께서 활발하게 토론하시는데 협조해 주셔서 진심으로 감사드립니다. 무사히 책임을 다하게 해 주셔서 감사합니다. 고맙습니다.

麻生 泰 日本側 코디네이터

이상으로 제1분과회 자유토론을 마치겠습니다. 그리고 안보이는데서 통역을 해 주신 두 분에게 박수를 보내 드리겠습니다. 감사합니다.